

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第32集

あさ ひ  
朝 日 遺 跡 III

1992

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

## 序

遺跡から出土する遺物の中では、その量の多さや、地域や時代を分ける指標となる多様さをもつ土器がどうしても注目されがちですが、原始・古代の生活を探る上においては、それ以外の石や木・骨で作られた遺物も重要な意味をもっています。特に湿潤なわが国の風土において、「木」は生活のあらゆる場面に用いられ、古くより独自の「木の文化」を育んできました。

五分冊にわたる朝日遺跡の報告書のうち三冊目にあたる本書『朝日遺跡Ⅲ』では、朝日遺跡で出土しました木製品・骨角製品・金属製品を取り上げて報告しております。特に、木製品では鋤・鋤などの農耕具や槽・高杯などの容器、人形・鳥形などの祭祀具、骨角製品では釣針や装身具、金属器では集落との関係がわかる貴重な資料となった銅鐸など、これらはいずれも土器だけでは知ることのできなかった弥生時代の人々の生活や考え方の一端を示す好例となると思われま

す。このように、以前とは比較にならないほどの多量の木製品や骨角器などが出土し、記録の対象とすることができたのは、ウエルポイントの使用などの発掘調査技術の改良によって、谷地形や流路部分の精緻な調査が可能だったということや、保存処理技術の向上などが大きく貢献したからであると考えております。

最後に、調査を行うにあたりご理解をいただいた建設省中部地方建設局愛知県道工事事務所・道路公団名古屋建設局の方々、ご指導・ご協力いただいた愛知県教育委員会、地元教育委員会および住民の方々、その他ご協力を賜った多くの皆様方に対し、心より謝意を申しあげ、本書が朝日遺跡の理解と埋蔵文化財研究の一助となることを願う次第であります。

平成4年3月

（助愛知県埋蔵文化財センター  
理事長 高木 鐘三

# 総目次

## 朝日遺跡 I

序説 1

序説 2

第 I 部 調査の概要

第 II 部 遺構

## 朝日遺跡 II

第 III 部 自然科学的研究

## 朝日遺跡 III (本書)

第 IV 部 木製品

第 V 部 骨角製品

第 VI 部 金属製品

## 朝日遺跡 IV

第 VII 部 石製品

## 朝日遺跡 V

第 VIII 部 土器(土製品)

第 IX 部 総論(研究総括)

## 例言

1. 朝日遺跡は、愛知県西春日井郡清洲町・春日町・新川町、名古屋市西区の1市3町にまたがって、東西約1.4km、南北約0.8kmの範囲を有する大遺跡である。
2. 本書は、昭和56年、昭和60～平成1年にわたって実施した名古屋環状2号線建設に伴う事前調査（調査面積49624㎡）にかかる発掘調査報告書5分冊のうち第3巻『朝日遺跡Ⅲ』（「第Ⅳ部 木製品」・「第Ⅴ部 骨角製品」・「第Ⅵ部 金属製品」）である。
3. 調査経過、調査担当者および組織は『朝日遺跡Ⅰ』（1991）に記載したとおりである。
4. 調査にあたっては、本センターの理事および各専門委員、愛知県教育委員会文化財課、愛知県埋蔵文化財調査センターの指導を得たほか、清洲町教育委員会、建設省愛知国道工事事務所、日本道路公団名古屋建設局ほか関係諸機関のご協力を得た。
5. 本書で使用する時期区分は『朝日遺跡Ⅰ』の「例言」によっている。ただし、貝層や包含層に掘削された遺構や再掘により下層のものが混入しているおそれのあるものや、貝層・包含層出土のもので詳細な帰属時期の不明なものについては、幅をもたせた時期を設定している。
6. 遺構の分類呼称と記号は『朝日遺跡Ⅰ』の「例言」によっている。また、遺構番号も同書のとおりであり、旧調査区と新調査区の対照図を新たに図1に示した。
7. 図版中のスクリーン表示は下図のとおりである。ただ、欠損部については、破損しているか確実に新しい欠損と認識できるものに関してのみ表示しており、原形を改変した痕跡や欠損との認定ができなかったものについては表示していない。また、外郭線よりも細い線で示した復元線についても同様の基準を用いている。



欠損部



表皮

8. 断面図については、基本的に下方向・右方向より観察したものになっているが、鍬・鋤・斧柄の一部は刃部方向より観察している。また、見通し断面のものは→で見通し方向を示している。
9. 木目の方向は確実にわかるもののみ模式的に記した。また、樹種同定は部分的におこなっており、結果は一覧表に掲載した。
10. 骨角製品の種・部位同定では、西本豊弘（国立歴史民俗博物館）・佐藤治（愛知県立岡崎高等学校）、銅鐸に関しては佐原真・沢田正昭・肥塚隆保（奈良国立文化財研究所）の各氏の御教示・御協力を得た。
11. 執筆分担は、下記のとおりである。  
第Ⅳ部第1章1～3・第2章1 石黒立人（調査課調査研究員）  
第Ⅵ部第1章3 赤塚次郎（調査課調査研究員）  
上記のものを除くすべて 宮腰健司（調査課調査研究員）  
なお、トレース・整理全般について伊藤慶子・伊藤千春・枝廣千代子・中垣内薫・林素子・長谷川恵子の協力を得た。
12. 本書の編集は宮腰が行った。



## 第1章 資料の分類

1. 農耕土木具…2
  - (1)Ⅰ類…3 (2)Ⅱ類…4
2. 工具…5
  - (1)石斧柄…5 (2)鉄斧柄…5 (3)その他…5
3. 田下駄・大足・そり状木製品…6
  - (1)田下駄…6 (2)大足…6 (3)そり状木製品…6
4. 下駄…6
5. 襪状木製品…7
  - (1)Ⅰ類…7 (2)Ⅱ類…7 (3)その他…7
6. 横槌…7
  - (1)Ⅰ類…7 (2)Ⅱ類…8 (3)その他…8
7. 笠竿・その他…8
  - (1)笠竿…8 (2)その他…8
8. 臼…8
  - (1)大型臼…8 (2)小型臼…9
9. 容器…9
  - (1)酒杯…9 (2)碗・鉢…9 (3)罐形容器…10 (4)杓子・十能形木製品…10
10. 梯子・建築材…10
  - (1)梯子…10 (2)建築材…10
11. 火切り臼…10
12. 弓…11
13. 紡織具・織み具・その他…12
  - (1)緯越具…12 (2)緯打具…12 (3)経巻具・布巻き具…12 (4)紳…12
  - (5)目盛り板…12 (6)木錘…13
14. 刺突・切断具…13
  - (1)ヤス状刺突具…13
  - (2)楕形・剣形木製品…13 (3)その他…13
15. 鞘状木製品…14
16. 櫛…14
17. 祭祀具・裝飾…15
  - (1)祭祀具…15 (2)裝飾具…16
18. 板材・原材…16
  - (1)板材…16 (2)原材…16
19. 有頭棒…17
  - (1)Ⅰ類…17 (2)Ⅱ類…17 (3)Ⅲ類…17
20. その他…17

## 第2章 まとめ

1. 木製品の出土状況…18
2. 紡織具・織み具について…27
  - (1)紡織具…27 (2)織み具…29

木製品出土遺構一覧表…31

木製品一覧表…35

# 第1章 資料の分類

## 1. 農耕土木具

農耕土木具の分類につきまとう不明確な問題のひとつに、鍬と鋤の区別がある。鋤は身と柄が一体となってつくり出された一本鋤は別にして、着柄部（軸）をもつ鋤身の場合に柄の付け方によっては鍬となるものがある。「膝柄鍬」と呼ばれるものがそれである。

一方、鍬（又鍬は除く）は、身に穿たれた柄孔が直交する例はよいが、身部に対して斜めに穿たれている場合は、柄と身の角度によって鍬にもなるし、鋤（踏鋤）にもなる。第1図の2は柄が身と広角をなして着柄されて出土したものであり、1は平坦な組み合せ部と緊縛部を持つ直柄と考えられる。

こうした区分の曖昧さは、身の形状によって鍬・鋤という区分をおこなっていることにあるとともに、そこに機能的要素までも含ませているからである。

したがって、分類上の混乱は身部のみによる分類と柄の装着された状態で出土した資料を同じ水準で分類しているから生じるのであって、基本的に身部のみの場合はその使用状況はわからないのだから、そのものの形態分類と使用形態を想定した分類とを区別して行う必要があろう。

さらに伊勢湾地方の農耕土木具をながめた場合弥生時代中期後半にまったく在地の承譜からはずれた農具が出現する。これは「膝柄鍬」と呼ばれているものであるが、もっぱら加工斧の柄を大形

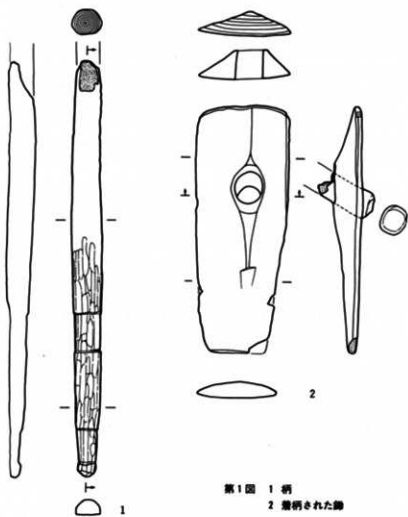
化したような柄を装着すると考えられている着柄部の形状に特徴がある。それ以前の広鍬に相当するものはなく、狭鍬・又鍬に対応するものが知られているほか、二又の新しい形態も出現している。これら「膝柄鍬」と呼ばれているグループは、確かに柄を装着した状態での出土例があり、柄と身部の角度が鋭角をなすことから「鍬」とされているわけであるが、しかし柄と身が別つくりであることを重視するならば、一概に固定した使用法を想定することには躊躇を覚える。先に鍬のところで触れたように、柄が装着されていない状態で鍬とされてもわずかではあるが踏鋤としての柄の装着例もあるのだから、ここでも柄の装着されたものとそうでないものとを区別する必要があろう。

すなわち、形態分類は形状に基づく分類をし、柄が装着されて使用方法が推定できる資料はそうした分類をすればよいのであり、「白か黒か」的な二者択一の扱いは控えておきたい。

以下では新しく「膝柄鍬」的着柄グループをII類とし、それ以外をI類とする。

I類では、身部のみでは形状に基づき「鍬形」「鋤形」とよび、着柄例については「鍬」「鋤」というように呼称する。

II類は、「膝柄鍬」「膝柄又鍬」など、「膝柄」という名称を付してほかと区別する呼称法が普及しつつあるけれども、朝日遺跡例では両者の柄の装着方法に若干の違いがあり、果たしてどちらも膝



第1図 1 柄  
2 装柄された部

柄を装着したかどうか検討の余地がある。

したがって、朝日遺跡で着柄例の出土していないII類については「鏃」「鏃」および「鏃柄」という名称は使用せず、アルファベットでA・B・Cというように表記する。

### (1) I類

鏃・鏃形……………製品 (1~26)

柄孔部分から刃部にかけて幅広くなるものをA、柄孔部分の幅と刃部幅がそれほど差がないか刃部のほうが幅狭になっているものをB、ほかに楕円形を半切したような形態をとる小形品がありこれらをCとする。

Aはいわゆる「広鏃」、Bは「狭鏃」に相当する

と思われ、刃部幅は前者が14cm以上、後者が12cm以下である。出土点数はBが多い。

AはII期~V期まで各1点出土している。1・2は頭部側の側縁に刻みを施し、おそらく頭部上端は直線的である。3・4は柄孔両側を深く抉りこませて頭部を半月形につくりだしている。1・2は在来系であり、それに対し3・4の特徴はIV期の外来要素と考えられる。

Bは12~14のように逆台形を呈する平面形のものもb、それ以外をaとする。aのうち5・6・10・11は方形周溝墓内から出土したもので、いずれも柄を装着した状態で検出されたが、6のみ舟形隆起が柄側にある。また、1・2と同じ刻みが頭部側縁にに加えられている。最古の資料である



7は舟形隆起が木葉形を呈し、他が刃部側へ隆起が延びているのとは対象的である。その他舟形隆起を持たず柄孔部分を厚くしているものがある。

bは12に舟形隆起がある。それ以外は柄孔部分を厚くして補強している。

15はBとしたけれども、頭部の形状はⅣ期のAであり、再利用されたものであろう。

Cは26の決定時期に問題があるが、他はⅣ期以降に属する資料である。21は身幅が異様に狭く特殊な形態を呈するので、この一群は区別しておいたほうがよいであろう。

Cにあたる資料は全体に磨減しており、形状からも破損したBを再利用したものといった観もあるけれども、特定の時期(Ⅳ期)に集中することをみると独立した範疇にあると考える。

#### 鎌・鍬形……………半製品 (27~43)

未製品はAに関係するものがほとんどである。平面形はⅡ期が長方形で、それ以後は柄孔部両側縁が斜めにおとされて五角形を呈するようになる。31~38はⅣ期に属す資料で、柄孔部両側のおとしかたの強い35~38、弱い31・32・34、挟り込みのある33がある。30はこれらと同形であるが、出土層位の時期はⅡ~Ⅲa期で古い。あるいは時期比定が誤っているのかもしれない。柄孔は焼き焦がしによるものようで、工具痕は認められない。

39・40はBの未製品で、39の柄孔は穿孔途中である。これも焼き焦がしであろう。40は柄孔は貫通しているものの刃部の形成が行われていない。

42は割材を整形しただけのものである。長さからみて2連が限界で3連は無理である。

#### 又鍬 (53~56)

53~55はⅣ期かそれ以降の資料である。歯は4本程度と推定される。柄孔は方形を呈している。73・74 他には74のような「丸鍬」と呼べるもの

や、鍬に組み合わせられる「泥よけ」と推定される73が出土している。

#### 鋤・鋤形 (44~52・72・75~80)

一本鋤(44~47・51・52?)と組み合わせ鋤(48~50・75~80)がある。

44~50は方形周溝墓内から出土したものである。このうち44~46がS Z 301北溝東端で溝底に置かれた状態で出土した。身部には柄の延長部に隆起が作られ補強されている。

45の握部はくりこみ部分がT字状を呈す珍しいものである。

49・50の着柄軸は下面側が平坦であり、いちおう柄の装着を助けるような形状をしているが、もともと一本鋤であったものが柄の破損などによって変形したものである可能性が高い。

72は一本鋤の半製品である。

75~80は鋤とするには躊躇する一群である。75~77には柄の緊縛用と考えられる2孔が上部にあって、先端は薄くなり刃部といった趣もあり、組み合わせ鋤の一種と考えられないこともないけれども、78~80は2孔がほぼ中央部にあり特に先端が薄くなるわけでもないので、鋤というよりは權としたほうがよいのではないかと思われる。木目を見る限りは、2孔の位置が76・77より下にある75も權の可能性もある。

## (2) II類

A (60~67) 断面が扁平で、幅の広い着柄軸をもつ。使用時の「縦方向の柄のずれを防ぐ」ための段と緊縛用の溝をつくるⅣ期の例と、そうしたものを持たないⅤ期以降の例がある。66・67は形態上は小形品であるが木取りは椀目で、異なっている。農耕土木具という範疇では誤りかもしれない。B (57~59) 又鍬に比べて多歯である。57・58の着柄軸はAとは異なり、両側をわずかに立ち上

がらせて溝状とし、使用時の「横方向の柄のずれを防ぐ」ようにしている。そして溝の先端には柄の先端部をはめ込んで固定するための挟りが設けられている。着柄軸先端には緊縛用の溝が作られている。

59は柄の先端をはめ込む挟りが認められるもの

の、他は異なる。使用によって変形したのかもしれない。56は着柄軸部分が欠損しているが同じであろう。

C (68-71) 身が二又を呈するものである。着柄軸は欠損しているのでわからない。68はやや形状は異なるものの同類と考えられる。

## 2. 工具

ここでは石斧および鉄斧の柄を扱う。

### (1) 石斧柄

藤柄 (81-88) 柄は斧本体を固定する部分(台部)と手で握って保持する部分(握部)からなり、形態は「レ」字状を呈するので「藤柄」とも呼ばれている。

製品……81-83は偏平片刃石斧の柄である。台部先端には緊縛固定用の突起がつくられている。84は柱状片刃石斧の柄である。石斧挿入部は欠損している。握部の中ほどの台部よりと先端には孔があけられている。肩かけ用の紐を通したものであろう。

半製品……幹と枝の二又部分である。85は台部に相当する部分に厚みがあるので柱状片刃石斧用であらう。他はやや薄いので偏平片刃用であらうか。

直柄 (89-91) 藤柄に比べて出土点数は少ない。

製品……90は頭部の残欠、91は頭部から握部にかけての残欠である。

半製品……89は装着柄をあけるだけになっている。やや偏平になっているが、土圧によって変形したと考えられる。

### (2) 鉄斧柄

直柄 (95) 95は平面形が長方形をなす挿入孔がつくられている。挿入孔の幅は約3cmと小さいの

で、もしこれが鉄斧柄であれば別木に装着したものをここに挿入することになる。しかし鉄斧柄とする確証はない。

藤柄 (96-98) 96-98は石斧柄のような台部基端の突出がない。96は台部が短いので袋状鉄斧を装着したと考えられる。97は握部中ほどが削り落とされて面がつくられている。

### (3) その他 (92-94)

92は藤柄の台部と同じ形態である。破損品を加工したものであろう。93・94は組み合せ式の柄であらうか。

### 3. 田下駄・大足・そり状木製品

#### (1) 田下駄 (99-104)

確實なものは101・102の2例で、どちらも縦長タイプである。紐孔は3ヶ所にあり、前の1孔は片側によっている。これら足固定用紐孔とは別に前後に1つずつ孔が穿たれており、この足板に輪を固定するためのものと考えられる。101はⅣ期、102はⅣ期以降である。103は一部破損しており孔の有無がはっきりしないが、類似した資料としてあげることができる。Ⅳ期である。

その他は孔の穿たれた板という程度にとどまる。横長タイプとしても孔間がややあきすぎている。また、100の孔には樹皮が通されている。

#### (2) 大足 (105-108・112・113)

105は足板である。足を固定する紐孔が3つあり、さらに上端右隅に1孔ある。おそらく左右に2孔あって対をなしていたものであろう。破損してい

る下端にも同様の孔が穿たれていると思われる。時期はⅣ期である。

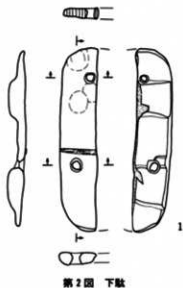
問題はこの板に輪がつくか、枠木がつくかであるが、106-108の枠木状の木製品はいずれもⅤ期以降であり、現在のところⅣ期に属する例は出土していない。組み合わせについての判断は、資料の増加を待ちたい。112・113は枠木状木製品に類似するけれども、孔の間隔が広いし、やや薄平である。

#### (3) そり状木製品 (109-111)

109・110は断面がT字形になる突起部分のついた木製品である。平坦部の側面観には反りが認められる。111は109・111に比べて小形で、T字の立ち上がり部分には孔が穿たれており、他の部材との組み合わせが考えられる。なお、立ち上がり部分の孔間はやや狭くされており、波状に起伏している。

### 4. 下駄 (第2図1)

Ⅴ期以降-古代までを含む植物遺体層より出土したもので、古代の遺物をまったく含まない朝日遺跡の状況からみると、古墳時代に属する可能性がもっとも高い。遺物は約半分残存しており、前後にそれぞれ孔が穿たれている。やや左寄りの前孔付近には足指と思われるくぼみがあり、鼻緒の可能性が高い樹皮紐が後孔のすぐ上に貼り付いた状態で検出された。左足用の連歯下駄となる。



## 5. 權状木製品

基本的に、下端にいくに従い身幅が広がる板状の木製品で、組み合わせの筋（Ⅰ類・Ⅱ類）としての可能性も考えられるが、上記の筋にみられるような明確な組み合わせ部をもたず、またⅡ類のものは、鍛・鋸の半製品としては、上端の突出部が不明である。そのためここでは權状木製品として扱いたいと思う。

### (1) Ⅰ類 (114・115・119・121)

上端の突出部がなく、身幅の狭いものである。

特に114は小形の權の可能性の高いものであり、121も上端部がさらに上に続くかどうかは不明であり、続くとすれば權となろう。115・119はやや厚みがあるもので、119には上端に緊縛用の突部がみられる。

### (2) Ⅱ類 (116~118・120)

台形および長方形の身部を呈し上端に突出部をもつものである。

116・117・120は荒い削痕が施された厚いもので、半製品の可能性がある。特に、120は突出部も未削であるかもしれない。

### (3) その他 (122・123)

122は表部の中央に補強のためかと思われる、厚みを増した部分がある。また、裏部には貫通しない方形の小孔がみられる。組み合わせのための穿孔であろうか。123は基本形はⅡ類であるが、身部中央に上下に2孔、穿孔されている。

## 6. 横槌

### (1) Ⅰ類

敲打部が横長になるものである。

A (124~126) 敲打部と握部の境が明瞭なもので、各々楕円形の断面の敲打部を持つ。特に、126は4方向に深い敲打痕がみられるもので、Ⅱ~Ⅲa期に属する。

B (128~131・134・135) 敲打部から握部にかけて斜めに削られ境がやや不明瞭になるものである。

128~131敲打部断面は楕円形で、129は敲打のため断面半円形になっている。129・131の握部端には、すべりどめのためと思われる肥厚がある。また130・131の敲打部と握部の境には、堅柱と同様の削り残してつくられた突帯が巡っている。134は

元来断面が方形に近い形状で作られていたものと思われ、4方向の深い敲打痕がみられる。135は焼け焦げて変形しているため、詳細は不明である。

時期は129~131・134がⅣ期に属している。

C (127・132・133) 敲打部と握部の長さの比が小さいものである。

132は一定の面ごとに敲打痕があるというわけではなく、全面にわたって敲打部の中央付近が凹んでいる状態となっている。127はBにはいるかもしれない、小形のものである。133の時期はⅢb~Ⅳ期となる。

D (136~138) 敲打部と握部の境界がはっきりしないものである。

136・137はやや扁平な断面を呈する。138は敲打部と握部の両端面をはじめ、ほぼ器面全体に削痕

が明瞭に残っていて、使用痕がはっきりせず、横槌ではない可能性も考えられる。時期は138がⅢb期、137がⅣ期になる。

## (2) II類

(140) 敲打部が握部に比べて短く、しかも著しく太くなるものである。

140は一本より削り出された横槌で、芯の部分が握部および先端に突出しているもので、非常に重量がある。先端部はやや割れて広がっているが、ほぼ端部だと考えられる。

## (3) その他 (139・141・142)

139は小形のもので、敲打部と握部が明瞭に分か

れる。全体は細い削痕によって丁寧に作られており、握部端部は両端に抉りをもった扁平な形にされている。やや軽いものではあるが、敲打部の中央部に凹部があり、敲打具であることにはまちがいが無い。

141・142は大形の敲打具である。141は原木の形をたくみに利用してつくられており、握部と考えられる側の端部は肥厚し、すべりどめとなっている。142は両側部および頭部が敲打面となっているほか、表裏面にやや大きめの凹部があり、敲打の用途以外に凹石的な使い方をされていた可能性がある。時期は、141がⅢb期にあたる。

# 7. 竪杵・その他

## (1) 竪杵 (143-147)

143はⅡ期に属するもので、一端が欠損しているが長さ161.8cmを測り、中央部で反転した推定値では約176cmにもおよぶ大きなものである。中央部をそのまま残したかたちで上下が削られ、握部がつくられている。残存している端面は、敲打のためか凹んだ状態となっている。

144-147は同種類と思われるもので、握部と槌部の境を削り残した突帯状のものが巡る。端面がある144・145とも先尖り状になっている。144はⅢb期になる。

## (2) その他 (148-151)

148・149は片方が太くなるように削られた棒状の木製品で、横槌Ⅰ類Dに似るが側面には敲打部はなく、広いほうの端面に磨減がみられることから、「スリコギ」のように、搗く・擦るといった作業に使われていた可能性が考えられる。

150・151は円形で大形の頭部と、孔が穿たれた中空の基部からなる木製品で、150は頭部端面に緊縛用と思われる十字の凹みがみられた。両者とも頭部端面には磨減したような痕跡があり、これらも何らかの搗く・擦るといった使用方法が考えられる。

# 8. 臼

## (1) 大形臼 (160-166)

160-162・163・165はⅣ期に属するもので、井

戸杵に転用されていた。特に160-162は、下より161→162→160の順に3段に積み重ねられていた。これらの井戸杵転用臼は上下に半截されて、中心

部が抜かれており、160～161などは切断部に再加工がなされている。160～163の山形になっている側面には明瞭な加工痕はなく、磨滅した状態となっている。そのため元の形状を復元することは難しいが、おそらく円形および楕円形の透かしがはいていたものと思われる。161と162は同一個体の可能性があるが、接合面が再加工されているため確実ではない。また、上下どちらかということもはっきりしない。

164・166は包含層と谷埋土から出土したものであるが、これも中心部が抜かれており、転用井戸枠の可能性もある。上下については、端面が広く、

現状で座りのよい形になるかと思われるが、164は上部が狭いものになる。

## (2) 小形臼 (152～159)

円柱形の心材で、上端面の中央部分が磨滅して凹んでいるものを小形の臼とした。

タイプとしては、横長の152・153、縦長の157・158、7～8 cm程度のさらに小形の一群154～156がある。また、159はこれら小形臼の未製品になるであろう。

時期は、156・159がⅡ期～Ⅲ a 期、154がⅢ b 期～Ⅳ期になる。

## 9. 容器

### (1) 高杯 (167～179)

Ⅱ期に属する167は杯部がラッパ状に広がり、やや肥厚した水平の口縁をもつもので、168は167に比べて杯部が深くなり、口縁部の肥厚も厚くなる。169になるとさらに杯部が深く・丸くなり、口縁部の厚さも厚く、口縁端部が内面で上へ、外面で下にやや延びている。167→169の変化が考えられる。

170は杯部とも考えられるが、内面の整形がやや粗雑であり、脚部になる可能性もある。

Ⅲ b 期～Ⅳ期のものとなる171は、断面三角形の柱状の脚と偏平な円形の脚部からなる脚部で、脚部外面には水平に溝状の抉りがみられる。また、脚上部外面にはわずかに削り込まれてつくられた段がある。この杯部については、九州地方にみられる皿状のものに乗るのか、現状の脚欠損部の内傾角度を使うならば、下半に透かしのはいる台付鉢になると考えられる。

172はⅥ期に属するもので、外面に赤彩がなされている。皿状の浅い杯部とやや下方に延びる肥厚した口縁部、柱状の脚部をもつ。

174・175はほぼ同形で、Ⅴ期初頭の高杯形土器と同様の脚下端の透し状の抉りが施され、突帯が巡る。176は中空の円柱状の脚で、外面に横線が巡らされている。

### (2) 椀・鉢

#### 椀 (180～183)

180は薄手の椀で、底部外面が高台状につくられている。181は厚手の浅いものになる。

182・183は深いものであるが、上半が不明であるため、確実に椀になるとはいえない。特に183は底部外面が欠損しているため高杯の杯部の可能性もある。

#### 鉢 (184・185・197)

197はⅡ期に属するもので、楕円形を呈する皿状の杯部と長方形の短い脚部からなる。杯部の長径方向の上端に近いところに、対称に小孔が穿たれている。

Ⅱ期の184は皿状の杯部であり、脚付鉢や、長脚が付いて高杯になる可能性もある。185は杯部やその口縁の形状からみて高杯かとも考えられるが、

残存部のカーブで推定すると、口縁径が50cmを超えるような大きなものになる。

### (3) 箱形容器 (187-192・194-196)

円形になる196を除いて、その他は方形を呈する。方形のものの中には大形(187・191・194)のもの、それをそのまま小さくしたような小形(188-190)のもの、小形品でも逆台形の器形をとる192がある。一般には「槽」と呼称されているものである。

円形を呈する196の底部外面にはやや不定形な脚が2足みられ、位置からみると4足になると思われる。

### (4) 杓子・十能形木製品

杓子 (186・200・201) 186は谷Aの縄文時代に  
あたる植物遺体層より出土したもので、縄文時代

後期に属する。形態は碗状を呈し、一部分を双耳形に高く残して把手にしている。双耳部の1ヶ所のみ穿孔されている。

200・201は横杓子になるもので、201はⅢb期に属する。

十能形木製品 (193・198・199) 198はⅤ期以降に属する。先端部ははだいに薄くなって終わっており、この部分は開口していたのであろう。199はおそらくはその半製品になるものと思われる。

193は方形の箱形容器に把手部がついたものであるが、箱形容器の突起部である可能性も考えられる。時期はⅡ-Ⅲa期である。

Ⅱ-Ⅲa期に属する202は、把手付の碗とも考えられるが、先端部がやや窄まっており、掏うという作業に使用された可能性が高い。

## 10. 梯子・建築材

### (1) 梯子 (203-208)

203-207のような通常の大きさをもつものと、208のような幅4.5cmという小形のものがある。208についてはミニチュアである可能性が高い。

204は1段のみで、下端が二又に分かれている。竪穴住居の出入りに使用したのであろうか。この下端が二又に分かれるという形態は、前述した小形の208にもみられ、205も同様であると考えられるところから、一群が設定できよう。

時期は204・208がⅡ期-Ⅲa期、203がⅡ期-Ⅲb期、206がⅢb期となる。

### (2) 建築材 (209)

建築材として可能性のあるものは、いくつかあるが、柱以外に確実に建物に使われていたと考えられるものは209しかない。209はイチイの幹と枝からなり、枝を曲げて輪状にして柱などに緊縛したと考えられるもので、Ⅲb期-Ⅳ期の逆茂木の木群中より出土した。

## 11. 火切り臼 (210-213)

211は61H区で谷Aの屑で検出された3段重ねの井戸枠転用臼の間に、崩落を防止するような状況で挟まれて出土したものである。中央部に隅丸方形の孔と段差がみられ、転用して火切り臼にされたようである。時期はⅣ期で、使用痕は2ヶ所の

みである。312も同じく転用材であろうと考えられ、12ヶ所もの多数に焦げた孔がみられる。

## 12. 弓

弦を張った状態で湾曲する程度の太さと、弦を緊縛するための溝や削り込み以外に弭部に余分な加工がみられないものを弓として取り上げた。

弓の形態により9タイプに分けることができる。

I類 (214~220) 弭部分1~2cmを残し、溝状の切込みや抉りがなされているもので、弭部分の平面形が正方形に近いもの。

217は下部に削痕がなされ、細くされている。下端の欠損はあまりないものと思われ、先尖りの棒(杖)として再加工されたものか。218には紐状の樹皮が巻き付けてある。220は中央部に両側より抉りがいれられている。216・220の下端ははっきりとした欠損痕とは確認できない。破損後に再加工されたかもしれない。

II類 (221~223) 弭部分の平面形が長方形をなすもので、弓幹はやや細く、緊縛部分が長く広い。3点とも丁寧な作りとなっている。

III類 (224・225) 弓幹が細く、弭が丸く球形をなすものである。

224は末枝部分が多く残っており、弭部分以外はあまり加工されていない。時期は、II期~III a期にあたる。225は、弭の弓背部のみが加工されており、弓幹はやや平たい。

IV類 (226~229) 弭の緊縛部分が、両方向からの簡単な抉り込みだけで作られているものである。

III b期に属する226は、部分的に紐状の樹皮が弭かかっている。227はII期、228はII期~III a期のものである。229は完形品で、長さ148.4cmを測る長大なものである。弭の緊縛部はわずかに抉られているだけで、先端がやや細くなっている。

V類 (230・231) 先端部がわずかに削られて尖り、弭を作るものである。

VI類 (232・233) 先端部に近いところにわずかに

溝が作られ、弭となっているもの。端部はやや丸みを帯びている。

232の時期は、II期~III a期にあたる。

VII類 (234・235) 先端部の両側から抉られ、凸状の形状を呈しているもの。

235には約10cmの幅の黒漆状のものが、3ヶ所に交互に塗られていた。時期は、II期に属している。VIII類 (236~238) 先端を杖のように尖らすだけのものである。

238は欠損部側の端に削痕があり、破損後再加工されたか、弭に近い部分かもしれない。237は、V期に属する。

IX類 (239) 先端を尖らせるという形態は、V類と同じものであるが、弓幹と弭の境に明瞭な段がみられる。

X類 (241~242) 先端部の弓背また弓背・弓腹側を削り、扁平な弭を作り出すもの。

XI類 (243・244) 先端部と弓背側を削り、半円状の弭を作るもの。

243の弓腹は平坦に削られている。

XII類 (247) 先端部が241のように弓背・弓腹より削られて扁平にされ、その下に緊縛部と考えられる溝が巡っているもの。

その他240は先端がわずかに削られて、緊縛部状になっているもので、抉り込まれた凹部が2ヶ所あり、削り残された部分が握部にあたるのかもしれない。弓腹になる側は平坦にされている。弓幹も太く弓腹の平坦部の幅も広いことから、弓でなく柄である可能性もある。

245・246は端部が欠損しているが、紐状の樹皮が巻かれているものである。



## 13. 紡織具・編み具・その他

組み合わせて用いられる紡織具や編み具がセットとして出土した事例は未だなく、出土した部品から、どの用具のどの部分であるかということを決断するのは困難である。現状では、民俗例などを参照して推定せざるをえなく、まだ不明な部分が多い。そのため、この章では可能性のあるものを全て取り上げることとした。

### (1) 緯越具 (248~252)

菱形および長径側が尖る楕円形をなし、穿孔されている。

248~251は中央部に穿孔があるもので、249・251は長径端に切込みがみられる。248はⅡ期、251はⅡ期~Ⅲa期に属する。Ⅱ期~Ⅲa期の252は長径の片側のみが尖っており、端部付近に穿孔がある。やや不定形で段をもつ反対側の端部は、もうすこし延びるかもしれない。

### (2) 緯打具 (253~254)

253は長方形をなす板で、上端が肥厚し下端が鋭く細くなっている。Ⅲb期に属する253も同様な形態をなすが、上端が弧を描くように延び、全体としては半月形をなすと思われる。

### (3) 経巻具・布巻具 (257・258・264~268・273~287)

257・258は、Ⅲb期~Ⅳ期の61E区SX03で出土した断面が三角形をなす長方形の板で、257は上側面に沿って溝が作られ、258はこれとは逆に、上側面に凸部分が見られる。凸部と溝に布を巻き込んで使用した布巻具と考えられる。また、258の左右側面に半円状の突出部がある。緊縛して、布巻具を固定するものであろうか。Ⅱ期~Ⅲa期に属する259は断面が台形の板で、下端の一隅が段をな

している。この段部分に棒状の布巻具を固定して、両者が挟むようにして布を巻いたのであろうか。

264~268・273~287はいわゆる両頭棒にあたるものである。264~268は長さが短いもので、264は断面がほぼ方形で、上面の両端1/3程度が削られて端部が有頭状にされている。側面には4ヶ所孔があり、火切り臼に転用されている。265~268は断面が長方形の扁平な板で、両短辺の中央部から両端にかけて削られて、両端が有頭状になっている。273~281は前述のものに比べて長さが長いもので、断面が方形の273~276、円形の277~281にわかれる。有頭部は、それぞれ明瞭な削痕によって作り出されている。特に、280・281は幅の広い溝状になっている。282~285の形状は前述の円形のタイプと同様であるが、1面が削られて平坦部となっているものである。282・283・285は、両端約1/4を残して中央部分が削られたもので、284は1面全てが平坦部となっている。286・287は端部が削られ突起状にされるもので、286は前述の282・283・285と同様、中央部に平坦部をもつ。

### (4) 緯 (259~263)

方形および円形の断面をもつ棒の中央部に、大きめの孔が穿たれているものである。260・262・263は穿孔がある中央部が補強のためか、太くなっている。また、262・263の端部には緊縛部になると思われる溝が回り、火切り弓の可能性も考えられる。

### (5) 目盛り板 (255~256)

断面が長方形および菱形をなす板で、Ⅱ期~Ⅲa期にあたる255は、両短辺に切込みや★り込みがあるのが特徴で、端部も上下側面よりの削痕に

よって有頭状を呈し、二又状の台に乗せたり、緊縛できるようになっている。256は上辺にのみ切込みがあるもので、左端のものは筋状の削痕のみがみられる。

幅が広い272がある。

## 14. 刺突・切断具

刺す・突く・切るといった機能をはたしていたと思われるものである。ただ、形態上からは刺突具・切断具として分類できるが、木製品という材質や大きさにより、非実用品として扱うのが適当であるというものもある。

### (1) ヤス状刺突具

I類 (288～290) 刺突部が7～9cmとやや短く、全体に削痕が明瞭なもので、軸部も短い。断面は、円および楕円形をなす。II期～III期に属する288の軸部は、細くてやや長い。

II類 (292～294・296) 刺突部は長く、断面は円形をなす。表面は比較的滑らかに仕上げられている。293が基本的な形で、291・292・294・296も同様な形状をなすと思われる。296は軸部近くに紐状の樹皮が巻かれている。下端はさらに延びるかもしれない。

### (2) 鐮形・剣形木製品

鐮形 (297・298・304) 297は大陸系の青銅器である三稜鐮と同じ形状をなす。298には丁寧な細い削痕がなされており、下部に削痕により緊縛用と思われる溝と有頭部分が作られ、下端の端面には切込みがみられる。時期はIII b期に属するが、刺突具でない可能性もある。304は上部の三角形をなす部分が鐮状をなすが、下部の円柱状の部分が不明である。鐮が装着された「矢」の擬器であろうか。

### (6) 木錘 (269～272)

円柱状の中央に細い溝が通る269・271と、中央部にむかって狭り込まれる270、断面が半円状で溝

刺形 (300～302) 300・301は薄い板で作られており、その形からみて剣の擬器でよいように思われる。302は円柱状の棒の先端を偏平に尖らしたもので、刺形というにはやや疑問が残るものである。

### (3) その他 (295・299・303・305)

295は上部1/3が細く削られ尖らせており、下部も斜めに削り落とされている。あるいは上下が逆かもしれない。II期～III a期にあたる299は、槍状の形を呈している。先端部にはわずかに削痕がなされるが、利器として有効性にはやや疑問がもたれるものである。303は石剣の柄と思われるもので、ちょうど茎の入る中空の部分だけ側面がない状態で出土している。茎を挿入する側からの掘削がかなり困難であると考えられるので、装着した後何かで覆ったか、剥き出しのまま緊縛されていたのかもしれない。305は握部と先の尖る身部からなり、形態的には刺突具と考えられるが、身部には先端部と握部に近い部分を除き紐状の樹皮が巻かれている。先端部がわずかも露出しているため、刺突具として使用できないこともないが、頻繁な使用に有効であるかは疑問である。刺形等の擬器かもしれない。

## 15. 鞘状木製品 (306-312)

鞘ということ、本来ならば前述の14. 刺突・切断具にはいるものであろうが、現段階では不明な点が多く、今回は別項をもうけた。

306-312の7点とも谷Aの埋土上部から出土しており、所属時期としてはⅣ期以降になるものと思われる。特に、309-312は近接した地点より発見されている。

形態的には、断面が厚さ1-2cmの薄板形で、幅4-6cmの長細い板に、やや幅の広い溝が横方向に幾箇所か作られているものである。溝は、板の弧をなす側に彫削されており、反対側は平滑に削られている。溝には側面まで削られる308のよう

なものと、上面だけの306のようなものに分かれる。

307はやや変わっていて、溝横に突帯状のものがみられる。端部であるからとも考えられるが、同じく端部の306・308にはみられないものである。312には、ちょうど溝幅の間隔がある条痕がみられる。鞘として使用する時には、2つの鞘状木製品の平坦面どうしを合わせて、溝部分で緊縛するのであろうが、その場合平坦部には剣・刀の刃部に合わせた彫削が必要であらう。そのように考えると全てが半製品かとも思えるが、平坦面と平坦面の間に薄い木片などを挟み込めば隙間を作ることとは可能である。

## 16. 櫛 (313-321)

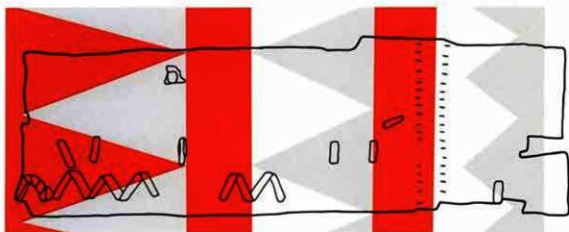
有孔の板で、赤彩が施されていたり、樹皮で綴じてあったりするものを櫛として取り上げた。

313はわずかに弧状をなす端部で、端辺に沿って穿孔がみられる。片面のみ赤彩される。314・319・320は、樹皮紐を通すための孔と思われる非常に細い横長の孔のみがみられるもので、部分的に樹皮が残存している。314・319の片面側には、赤彩が施されている。318は、前述の孔よりは大きな円形の孔が、縦位に列をなして穿たれているものである。

315は山形に縦じられた樹皮紐と、塗り分けられた赤彩と黒彩（黒漆か）が特徴である。樹皮の山形は6つ（上下、表裏によって数え方が違う）あり、2つと4つに分かれる。その他、縦位・斜位の樹皮紐がいくつかみられる。また、右側に縦位に並ぶ細い横長の孔も、樹皮紐が通されていたものであろう。赤彩と黒彩の塗り分けは、幾分か剥離があるためはっきりとはしないが、基本的

に帯状部分と横位の山形部分からなり、現状ではそれが3対確認できる。左2つは赤彩の帯に黒彩の山形であり、右の1つが黒彩のみとなっている。また、左のものの山形の間には、赤彩がなされている。復元すると第3図のようになるものと思われる。所属時期はⅢb期にあたる。

316・317はSDIの近接した地点より出土しており、形状も似ていることから同一個体か考えられる。両方とも弧状をなす端部で、それに沿った2列の孔と、ほぼ縦位に並ぶ孔がみられる。縦位に並ぶ孔間にははっきりとした赤彩痕が残っているが、これは、紐状のものが縦じられていたために、その下部に付着したものが、比較的後まで空気に触れなかったため剥離を免れたものと思われる。また、紐状のもの自体にも赤彩されていた可能性もある。時期はⅤ期になる。



第3図 彩色構想定復元図

321は樹皮で作られているもので、縦77.7cm・横28.2cm・厚さ0.24cmを測る非常に薄いものである。右下端が大きく欠損している以外は、ほぼ完全に残っている。左右両端には短辺に沿うように2列の穿孔がみられるが、横の孔どうしは隣あわず、丁度お互いの孔間のまん中にあたるようにジグザグに孔が開けられている。所属時期はⅣ期以降に

なろう。

用途としては、奈良県唐古遺跡出土の櫛<sup>1)</sup>の裏面にわずかであるが樹皮が付着している例があり、穿孔があるということからみても、櫛に張りつけたものであると考えたい。

(1) 藤田三郎氏(原田本町教育委員会)の御教示による

## 17. 祭祀具・装飾具

### (1) 祭祀具 (322～325・327・328)

実用的でなく、形代としての要素が強いものを取り上げたが、当然のことながら玩具としての可能性も否定できない。

**鳥形** 322・323は、鳥の飛ぶ姿を横方向から見たものをモチーフにしたものかと思われる。両者とも薄い板を部分的に加工しただけのものであり、頭部や胸部の仕上げはやや荒いものがある。また、323に開けられた孔も丁寧な穿孔ではない。

326は、羽をたんだ鳥を上および横方向から見た姿をモチーフにしている。腹部には、孔かと思われる貫通していない方形の孔が穿たれている。頭部には横位の切込み状のものがみられるが、始

めからつけられていたものかどうかは不明である。

**人形** (325) 頭部と方柱状の体部、下端に削りだされた突起部からなる。頭部は顔面にあたる前面が円形で、後頭部がやや方形をなしている。顔面には、鋭利な原体によってつけられた両目と口が描かれている。首にあたるところには溝が巡っており、頭部と体部を区分している。下端の突起部分は にあたるものかと思われる。

**舟形** (327～328) 328は、舷側にはほぼ等間隔で3つ、孔が穿たれている。また、舟底にあたる部分にも1つの孔がある。

325・328は、61E区S D22より出土しており、時期はⅤ期以降のものになる。326も同じ調査区の

30m程度北西の、包含層上層より出土しており、これもⅤ期以降である可能性が高い。その他、322・323・327は谷Aの埋土上層より出土しており、これらのものもⅤ期以降に属するものと考えられる。

このように、祭祀具に分類したものは、全て弥生時代の中期末～後期に属している。また、出土地点も該当時期には水流があったと考えられる谷や溝からであり、偶然に低地に廃棄されたとも思

えるが、水に関した「まつり」に使われた道具である可能性も考えられる。

## (2) 装飾具

324は最屈曲部は欠損しているが、ほぼ完全な形の整備である。U字形の形状は10本の細い竹板を折り曲げ、屈曲部と両端を樹皮紐で縛ってつくられている。全体に赤彩がなされていた痕跡が残っている。時期は、Ⅱ期～Ⅲa期になる。

## 18. 板材・原材

### (1) 板材 (329～340)

長径が20cm～40cm、短径が10cm～20cm程度の方形および長方形の板である。

329・330・333のように断面が三角形を呈するものや、331・332のように断面が弧状をなすものは原材に近いものであろう。一方、334～339のような比較的丁寧に方形に整えられた、断面が長方形をなす一群はより製品に近いものであって、鎌や鋤の未製品としてもおかしくないものもみられる。また、Ⅴ期に属する334は柱穴の礎板として出土したが、当初よりその目的で作られていたかどうかは不明である。

340は長方形の板の端部に近いところに孔が穿たれたもので、孔部分はやや肥厚する。一見して鋤に見えるのであるが、孔は板に垂直に開いており、用途は不明である。

### (2) 原材 (341～346)

341・342は円柱状の丸太の底部を丸く削ったもので、平たくされた上面には削り残された突起部がつく。全体に粗い削りがなされている。時期は両方とも、Ⅱ期～Ⅲa期に属する。

また、同じく円柱状の丸太の上下を斜めに削ったものとして、343と344がある。これらも整形は粗い削りで、344には樹皮が残存していた。

345は二等辺三角形のような形状をなし、断面は横に長い六角形を呈している。全体に粗く削られているだけで、横樋の未製品かとも思われる。

346は、61区のS X 02の逆茂木の木群の中の本である。逆茂木は、基本的には枝持ちの木材を絡み合わせて作られるもので、346も逆茂木を構成する木群の1本とも考えられるが、膝柄の原材としても十分利用できるものである。膝柄の未製品として断定できるものではないが、この種の枝持ち材は逆茂木の中にいくつかみることができた。

## 19. 有頭棒

棒状の軸部と削り出された頭部からなるもので、紡織具と弓以外のものを取り上げる。

### (1) I類 (347~351)

円柱状の棒の端部を削りだして、明瞭な頭部をつくりだすもの。347・348・351の頭部と反対側の端部は粗く削られている。これらのものは両頭ではなく、軸部に平坦面もみられないが、頭部の形状は紡織具の経巻具・糸巻具の可能性があったとした一群のものと酷似する。二次的に変形されたものかもしれない。

### (2) II類 (357~367)

断面が円形もしくは方形の扁平な頭部に、穿孔された方形の断面をもつ軸部をもつもの。

形態よりさらに細分が可能で、長軸な357~360、

軸部の長径が頭部と同じ長さの361・364、頭部がかなり扁平な362・363・365・366、頭部の中央に横位の溝がつくれる367にわかれる。また、大きさにもかなり差がある。

### (3) III類 (368~371)

軸部がやや細く、孔がないもの。ただ、これも形状にばらつきがあり、確実に同類になるかは不明である。

その他、端面が斜めに切り落とされる352、黒色の有機物が付着する353、三角形様の頭部をなす354・355がある。また、356は断面が円形で扁平な頭部をもち、軸部が中心からはずれて端につく。頭部の厚みがなすすぎるが、頭を下にすると縦杵子の未製品になる可能性もある。

## 20. その他

373~376は非常に類似した一群で、わずかに削り出された頭部と先尖りの軸部からなる。378もかなり扁平であるが同様なものかと思われる。これらのものは、先尖りの形状からみて刺突具的な役割をするものかと想定される。382は枝の部分をおわずかに削り先端部を尖らしたもので、鹿角の刺突具に類似し、これも刺突具になるかと思われる。

377は縦斧の柄になる可能性もあるが、握部になる部分が1cm程度の厚みしかなく、柄としては細すぎると考えられる。

380・381は、「ヘラ」になるかと思われる。

393の形状は土錘に酷似する。

394は槍のような形状を呈し、形代の可能性もある。379は剣形か。

397は 孔状になっている部分に石器を装着すると、柄になる可能性もある。

398は、横杵子の未製品か。

403は、2本の斜め上方に伸びる突起部とその間に開けられた孔、それと反対側の端面に開けられた孔がある。

406~408は同様の一群で、先端部を丸くした長方形の板の両端に孔が穿たれている。

412は板の先端部を斜めに切り落として、楔状にされているものである。

414~417は、穿孔された大形の板である。特に、孔に対して斜めの縁辺をもつ415・416・418は、舟の部材である可能性もある。

## 第2章 まとめ

### 1. 木製品の出土状況

朝日遺跡において、木製品の出土状況が有意であると認められた例は少ない。谷A・B内の河道や溝内でのあり方は、例え半製品が含まれていようとも、出土レベルが地下水位の状態に関係することから、偶然性が排除しきれないからである。

一つの場合から多量の木製品（半製品・未成品を含む）が出土した例には、61A区のSX02やSX03がある。SX02はⅢb期後半の防衛施設である槽の基礎部分をなす溝状遺構であるが、槽が倒壊した跡の窪地状のところにⅣ期の土器とともに各種木製品等が遺存していたのであって、この場所と木製品を特に関連づける理由はない。SX02は県教育委員会の調査時にも、連続する部分で多量の木製品が出土し、その時には「谷A北岸に漂着したもの」という認識が与えられていたのである。同じ谷Aの延長部である60A区の場合をみても、谷A内では特に場所が限定して出土したわけではなく、腐植した貝を伴っていたことからみて、貝殻廃棄と関連していた可能性がある。61A区での出土がSX02に集中するというのも、実状はⅣ期の包含層の主要部分がその後の河道の活動によって流失し、SX02付近が影響を免れていたからに他ならない。

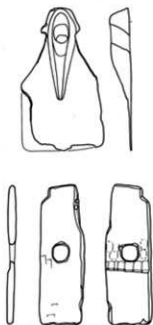
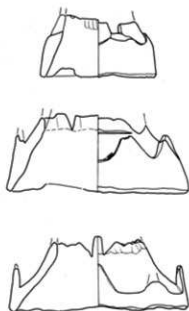
SX03は谷Aの南岸付近にある大きな土坑で、中からⅣ期の土器とともに多量の木製品が出土したが、ここでも木製品以外に流木や砂層が伴っており、けっして限定された状況ではなかった。多

少河道の影響があることから、外からの流入や逆に流出があったかもしれない、本来の状態にはないようだが、それでも半製品が出土したからといって特別視する材料には乏しい

朝日遺跡における木製品の出土は、次に述べる一部を除いては通常の廃棄という性格が強いものである。

木製品の有意な状態での出土は、方形周溝墓からの出土例である。「朝日遺跡Ⅰ」1991でも紹介したように、東墓城の方形周溝墓（SZ208・301・303）からは溝底から柄を装着したままの櫛や一本櫛が据え置かれた状態で出土した。SZ208では当センター調査以外に、県教育委員会調査時にも棒状木製品が北溝から出土した。これなどは着柄櫛の柄か天秤棒であったかもしれない。西墓城の弥生時代後期（Ⅴ期）の方形周溝墓（SX105）からも棒状木製品が出土しており、これなども天秤棒であったかもしれない。

このように、方形周溝墓に関してはその造営に使用された道具（櫛・櫛・天秤棒）の一部が溝内に置かれる（出土状態に乱れは認められない）ということが、おそらくは造墓に関わる儀礼の一部として執行されていたことが想像できるのである。そしてこうした事例は伊勢湾東岸部の伊勢地方でも中期前半には存在しており、四隅切断型というプラン・土器の共通性からみて同一起源の現象であることを強く示している。

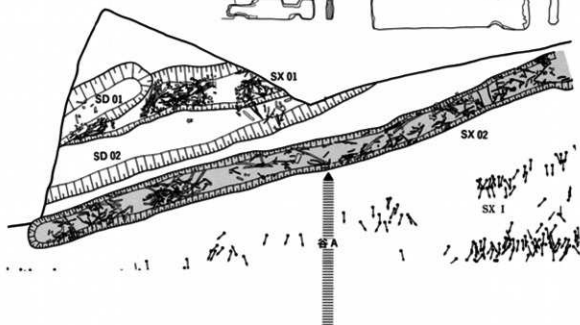
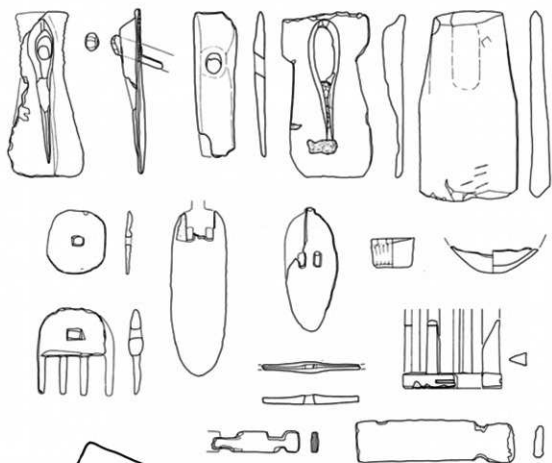


第4図 61H区 SE01出土木製品

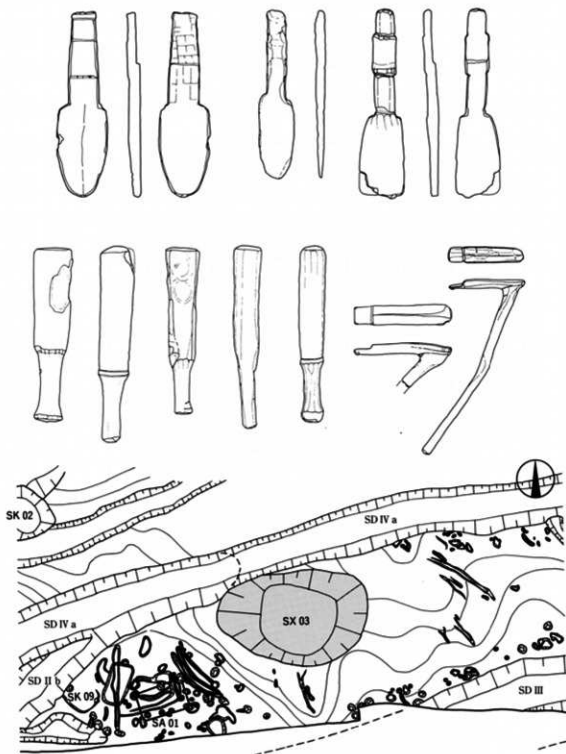
朝日遺跡の木製品は、遺存している場所が堅穴住居内部（炭化しなければ遺存しない場所）ではなく河・溝に限定されていることから明らかなように、基本的に地下水位との関連に規定されている。その中で出土状態に特殊性が窺われるのは生活関連廃棄がほとんど行われない方形周溝墓の周溝出土例に限定されている。集落内部や近辺

の土坑など廃棄の行われやすい場所での出土例について、「木製品製作に関連する水漬け保存」という特殊性を見出すことは難しいのである。そもそも木製品という、どこでも遺存するわけではない有機物であれば、遺存条件自体を十分検討しなければならない。

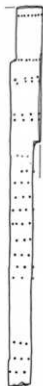


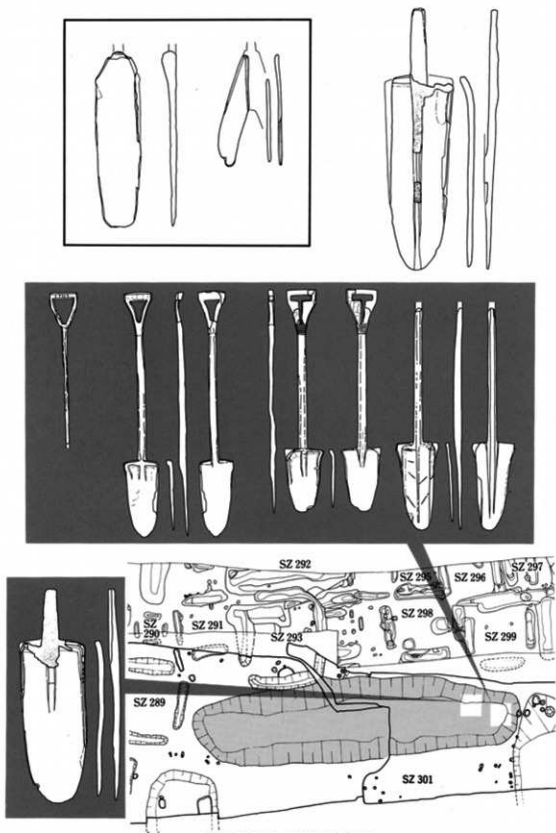




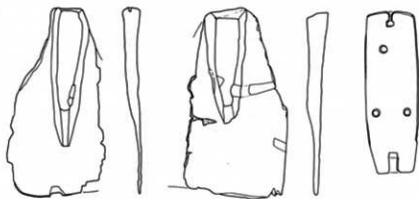


第6图 61A区 SX 03出土木制品

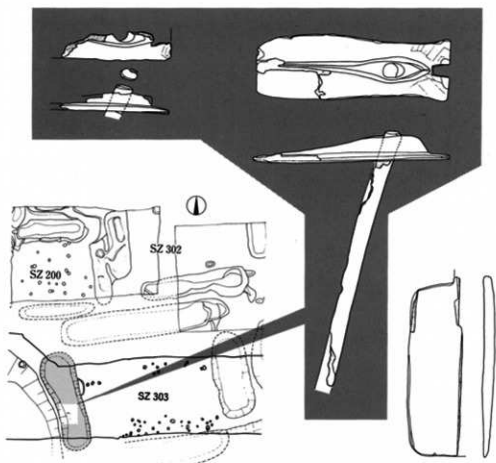




第7图 61 T区 SZ 301 出土木制品



61 T SZ 303 西溝



第8图 61T区 SZ 303 出土木制品



## 2. 紡織具・編み具について

### (1) 紡織具

布を作る作業として初めて行われるのは、糸を紡ぐということである。朝日遺跡では、糸を巻き取る「紡錘」のはずみ車の役割をなす紡錘車のみが出土している。その材質としては、土製と骨角製(55・56)がある。

次に紡いだ糸を保管するため、工字状の道具「杵」に巻きとる。朝日遺跡で確実な例としてあげることができるものは、現段階ではない。第1章13-(4)で取り上げた一群も、組み合わせで出土しないかぎり杵という確証はない。ただ、端部に緊縛のためかと思われる溝がつけられたものについては火切り弓の可能性もあるとしたが、孔が方形をなし、運動用としてはやや不適切と考えられる。

最後に布を織るわけであるが、弥生時代にはいわゆる「原始機」が用いられていたと考えられている。この織機の構造は、織り手の方より「腰当て」・「布巻具」・「経巻具」となり、経糸を上下させるための「開口具(綜絨・中筒)」、緯糸を通す「緯越具」、打ち込む「緯打具」を使用して作業が行われる。

朝日遺跡の出土遺物の中で上記の分類に該当する蓋然性の高いものを順番にあげると、まず253・254の「緯打具」があげられる。次に「緯越具」であるが、楕円形の長径の端部に切込みのある249・251などは糸を巻いたと考えられるが、それらの痕跡のない248・250については疑問符が付く。248・249の孔の短径側にわずかな切込みがみられることから、短径方向に糸が巻かれた可能性もある。形態の異なる252については、「針」のような役割を果たす刺突具または編み具とも考えられる。

さらに「布巻具」にあたると思えた257～259については、257・258が同じ61E区SX03より出土しており、樹種や加工の状況が似ていることから、同一の目的で製作されたものと思われる。基本的な形状は断面が二等辺三角形をなす板で、短辺にあたる場所に257は縦方向の断面三角形の溝が穿たれ、258は断面三角形の縦方向突出部がつけられる。溝部分に突出部をはめ込むと、現状ではやや突出部が大きくて1/2程度しか入りきらないが、これは保存・保存処理の段階でわずかではあるが収縮してしまったためであり、出土時点ではもう少し溝の幅は広いものであった。このことからみて、完全に両者が密着するとは限らないが、組み合わせで使われたことは明かである。257のような側面に溝を穿つ例は奈良県唐古遺跡や大阪府亀井遺跡・静岡県登呂遺跡で出土しており、経糸を巻いた細棒を溝に固定するものとされてきたが、今回の出土例により、突出部をもつ板を使って経糸および織り上がった布を固定していたのではないかと新しい可能性が指摘できよう。また、上記の2点と同じ断面が二等辺三角形を呈する259であるが、これは短辺がやや突出して鈍角なL字状をなす。L字の屈曲部にあたる部分に、経糸を巻いた棒や板をはめ込んでやれば十分布巻具として使用できよう。

県教育委員会の調査では「腰当て」とされており、今回は弓に分類した243・244のような弧を画く両頭棒で、頭部と反対側の面が平坦面を呈するものについては、やはり現段階では確定することはできない。ただ腰当てとするには、やや細く脆弱であると思われる。

最後に「布巻具」「経巻具」としてとりあげた「両頭棒」であるが、これらには確実に糸を巻いた



番号	A	B	C	D	E	巻面
264		42.1				21.6
265	27.2					22.0
266	28.8					22.8
267	27.7					22.0
268	20.5					16.0
273					102.8	90.8
274				93.4		84.8
275				79.3		70.4
276		52.8				44.4
277				87.8		80.8
278			67.1			60.8
279			62.6			53.2
280		59.5	59.5			46.0
282		56.8				36.0
I	20.5	41.0	61.5	82.0	102.5	
II	27.9	55.8		83.7	111.6	
III	31.0		62.0	93.0	124.0	

第1表 両頭棒計測表 (単位はcm)

という痕跡は見あたらない。また、側面に平坦面でもあればその可能性が言えるが、一部のものを除きそういった加工はなされていない。平坦面をもつ282～286のみを布巻具・経巻具に分類できるかという、その確たる根拠は乏しい。そのため、平坦面や頭部の形状・断面形に関わらず両頭になるものを集めたものが第1表である。

この中で巻面としたのは経糸を巻くことができる最大面であり、264・282のような平坦面をもつものは平坦面の長さである(ただ282の場合は平坦面の片方の端部がどこかはっきりしないため、可能性のある最大幅で計測している)。また、小形の267・268には中央部にわずかに平坦に削られている部分があり、約6cm～7cm程となる。この巻面の長さは、一見すると最低長20～22を基準につくられているように思えるが、よくみると実はこの計測値の多くを規定しているのは、頭部を含めた全長であることがわかる。つまり、布幅を決める

のは経糸の本数とその間隔であって、長い布巻具・経巻具の中央部分を使って幅の短い布を織ることは可能であり、確実に経糸を巻いたと確認できる部分を計測しないかぎり不安定な数値となることを避けられないのである。

それでは全長についてはどうであろうか。布幅は経糸によって決まると上記したが、1mを超えるような布巻具・経巻具で20cm前後の布を作るというのも不便であろうと思われるのと、両頭棒のような比較的簡単に作ることができる木製品であるならば、一種類の道具で各種のものをカバーするよりも、布幅に合わせて作り変えたほうが効率的であると考えられる。これらのことは、布巻具・経巻具を製作場合には布幅の細かい調整は考えずに、広幅・中幅・狭幅用といった程度のおおまかな基準で作られていたことを想定させる。ただ、全くまちまちな布幅で織られていたとは思わず、最小単位の等倍といったかたちで寸法が

決定していたのではないかと考えられる。このことは両頭棒の長さからみて推定できる。第1表をみると、最少のものを基準にはほぼ等分に長くなっていくⅠ・Ⅱの2グループできるようであり、31.0cmの最少値を仮定するとⅢというグループも設定可能である。つまり、最少単位の布を織ることができて、且つ作業をする時に使いやすい長さの布巻具・経巻具を作り、幅の広い布を織る場合には、その2倍・3倍の長さにしていったのではないかと考えられるのである。

ただこれらのことも両頭棒が紡織具であるという仮定の上に成り立っており、弓や木章(1)で述べられたような天秤棒のような使われ方をする運搬具(60cmを超えるものは可能性がある)であったことも否定できない。

## (2) 編み具

編み具とした255と256のうち、片方の短辺側に刻み目がなされている256は、鎌を使った「もじり編み」用の目盛り板の端部であろう。刻み目間の長さは(左のものはわずかに凹むが、糸痕のみがみられる)6cmを測る。

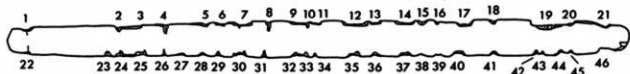
255については、266と違って両方の短辺に刻み目がみられる。刻み目の総数は第9図にあるとおり約46ヶ所を数える。そのうち1と22、21と46は支柱に緊縛するか、あるいは一方を固定した紐に縛るための凹みであり、経糸の目盛りからは除外される。刻み目には幅が広くて浅いものと、狭くて深いものがあるが、その2種の横方向の関係はよくわからなかった。ただよくみると、多くの刻

み目の位置が上下辺で一致しており、且つ4と26、8と31、18と41などの上辺と下辺どうしがよく似た形状を示しており、上辺と下辺が別々の目盛りではなく、同時に使用されたのではないかと考えられた。このように上下辺を同じとして等分の目盛りとしてみると、第10図の○(5.5cm-5.8cm)と△(8.5cm)、その2倍である◎と▲が見いだせる。また、9と32を中心に両側に同じ長さだけ延びる第11図のようなものも一つのモデルとしてあげられ、中央と端の経糸の幅がやや広く、その間が狭くなる編物が想定される。

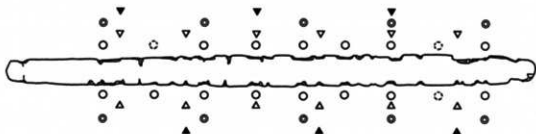
次にこの目盛り板の使用方法を考えてみると、上記したとおり上辺と下辺が同時に使用された痕跡があるということは、長辺側(やや丸みを帯びている方が上か)を上下にして経糸がセットされていたということになる。このことは、鎌を使ってもじり編みも行われたかもしれないが、長辺側を使用するため向側と手前側の経糸の間に幅ができるという点を考慮すると、両側の経糸を交互に前後にし、その間を緯糸を通すといった編みものがなされていた(第12図)可能性も考えられるのである。

## 参考文献

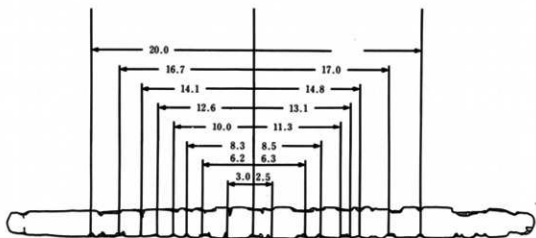
- 竹内品子『考古学選書(9) 弥生の布を織る』東京大学出版会1989
- 竹内品子『織機・衣服』弥生文化の研究5 道具と技術1』雄山閣出版1984
- 角山幸洋『日本染織発達史』田畑書店1968
- 宮崎清『ものと人間の文化史55-1 葛1』法政大学出版局1985



第10図 目盛り板刻み目数



第11図 目盛り幅(1)



第12図 目盛り幅(2)



第13図 現在使用されている竈織機(宮崎1985より改変引用)

木製品出土遺構一覽表

図版	遺構新番
1	60B S D II b
2	61A S X02
3	61H S E02
4	61A S D I
5	61N S Z 208西溝
6	61N S Z 208西溝
7	61A S D IV a
8	61A S X02
9	60A 谷A
10	61T S Z 303西溝
11	61T S Z 303西溝
12	61A S X03
13	60E 谷A
14	61E S D02
15	61A S X03
16	61H 谷A
17	60A 谷A
18	60A 谷A
19	60A 谷A
20	60A 谷A
21	60A 谷A
22	61A 貝層
23	61A S X03
24	61A 谷A
25	61A 谷A
26	60B 谷A
27	61H S D X
28	60B S D IV a
29	61E S D15
30	60E 貝層
31	61A S X01
32	61A S X02
33	61A S X02
34	61A 谷A
35	61T S Z 301北溝
36	61T S Z 301北溝
37	61A S X03
38	60E 谷A
39	60A 谷A
40	61A S X03
41	60B 検出
42	61A 谷A
43	61E 検出
44	61T S Z 301北溝
45	61T S Z 301北溝
46	61T S Z 301北溝
47	61T S Z 301北溝
48	61T S Z 303西溝
49	61T S Z 301北溝
50	61T S Z 301北溝
51	61N S D X III・X IV
52	60A 谷A
53	61A S X02
54	61A 貝層
55	61E S D03
56	60A 谷A
57	61A 谷A
58	61E 検出

図版	遺構新番
59	61A S X03
60	61A S X03
61	61A S X03
62	61A S X03
63	61A S D I
64	61E 検出
65	61T S Z 301北溝
66	60A 谷A
67	61H 谷A
68	63D S D03
69	61T S Z 301北溝
70	60E 谷A
71	61H 谷A
72	61A S D I
73	60E 検出
74	61A S X02
75	60B S D III
76	61A S X02
77	61H 谷A
78	61A 検出
79	61A S X02
80	61A 貝層
81	63D S D06
82	61A S X03
83	61A S X03
84	61A S X02
85	61A S D IV a
86	61E S D20
87	61E S D20
88	60E 貝層
89	61A S X01
90	60A 谷A
91	61M 谷A
92	60A 谷A
93	61A 検出
94	60A 谷A
95	60A 谷A
96	60E 谷A
97	60E 谷A
98	61A 谷A
99	60B S D III
100	63D S D05
101	61T S Z 301東溝
102	61E S D02・21
103	61A 谷A
104	63D S D01
105	61A S X03
106	60B 谷A
107	60B 谷A
108	61H 谷A
109	60A 谷A
110	61A 谷A
111	61A S X02
112	60E 谷A
113	61N S D X III・X IV
114	60B 谷A
115	61E S D03・22
116	60B 谷A

国版	造橋新番
117	61H 谷A
118	61H S K12
119	61A 貝層
120	61H 谷A
121	61H 谷A
122	63D S D05
123	60B 検出
124	61A 谷A
125	61A 谷A
126	60B S DII a
127	60B S DIII
128	61H 谷A
129	61A S X03
130	61A S X03
131	61A S X03
132	60A 谷A
133	63D S D07
134	61A S X03
135	61H 谷A
136	61A 谷A
137	61A S X03
138	61A S K02
139	60B 谷A
140	61H 谷A
141	61A S K02
142	60A 谷A
143	63D S D06
144	61A S K02
145	60A 谷A
146	60A 谷A
147	61A 谷A
148	61A 谷A
149	60A 谷A
150	60B 谷A
151	60A 谷A
152	61A 谷A
153	60A 谷A
154	61A S X02
155	61A 谷A
156	61A 貝層
157	61A 谷A
158	60B 谷A
159	60A S DIV b
160	61H S E02
161	61H S E02
162	61H S E02
163	61H S E01
164	61E 検出
165	61H S E04
166	61H 谷A
167	63D S D06
168	60B 谷A
169	60E 谷A
170	60E 谷A
171	61A S X02
172	63D S D02
173	61E 検出
174	60B 谷A
175	61A 谷A
176	61H S DX

国版	造橋新番
177	61E 検出
178	61E S D12
179	61A S DIV a
180	61A 検出
181	60E 谷A
182	61A S X02
183	61E 検出
184	60B S DII a
185	61M 谷B
186	61A 谷A
187	61E S D03・22
188	61A S X03
189	61H 谷A
190	60E 谷A
191	60A 谷A
192	60B S DIII
193	61A S DIV a
194	61E 検出
195	61H 谷A
196	61H 検出
197	61E S D20
198	60B S DI
199	61H 谷A
200	60B 谷A
201	61E S X01
202	61A S DIV a
203	60B S K04
204	61E S X03
205	61A 谷A
206	61E S D02
207	60B 谷A
208	61E S D01
209	61E S X03
210	61H 谷A
211	61H S E02
212	61E 検出
213	61A S D02
214	61M 谷A
215	60A 谷A
216	61H 谷A
217	60B 検出
218	60B 谷A
219	61H 谷A
220	60A 谷A
221	61H 検出
222	60B 谷A
223	61A 貝層
224	61A 貝層
225	61H 検出
226	61A S X02
227	61E S D20
228	61A S DIV a
229	60E 谷A
230	61A 谷A
231	60A 谷A
232	61A S DIV a
233	61A 谷A
234	61H 谷A
235	63N S D02
236	61H 検出

図版	違構新番
237	61A S D I
238	60A 谷A
239	61A 谷A
240	61A 谷A
241	61A S X02
242	61H 検出
243	60E 検出
244	60B S D I
245	61E S D02・21
246	61H 谷A
247	60B S D II b
248	60B S D IV a
249	61H 谷A
250	61E 検出
251	60B S D III
252	61A S D IV a
253	61E S D03
254	61H 谷A
255	60B S D II a
256	60B 谷A
257	61E S X03
258	61E S X03
259	60B S D III
260	61A S X02
261	60B 谷A
262	61E S X03
263	60B 谷A
264	61A 谷A
265	61A S D IV a
266	61H 谷A
267	61E S D04
268	60B 谷A
269	61H 谷A
270	61E 検出
271	61H 谷A
272	60B 検出
273	61A S X02
274	61E 検出
275	61A S D III
276	61A S D IV a
277	61A S D02
278	60A 検出
279	61A 谷A
280	60E 谷A
281	60E 谷A
282	60A 谷A
283	60E 谷A
284	61A 谷A
285	60B 谷A
286	61H 検出
287	61A 貝層
288	61A 貝層
289	61A S X02
290	61A 検出
291	61A 谷A
292	61A S X02
293	61A 谷A
294	63D S D07
295	61H 谷A
296	61A 谷A

図版	違構新番
297	61E S D04・23
298	61E S D04
299	61A 検出
300	60E 谷A
301	60A 谷A
302	60A 谷A
303	60B 谷A
304	60E 谷A
305	61H 谷A
306	61A 谷A
307	61E 検出
308	61H 谷A
309	60B 谷A
310	60B 谷A
311	60B 谷A
312	60B 谷A
313	60B S D I
314	61H 谷A
315	61A S D02
316	60B S D I
317	60B S D I
318	61A S X03
319	61A S D II b
320	61H 谷A
321	60E 谷A
322	60B 谷A
323	61H 谷A
324	61A S D IV a
325	61E S D22
326	61E 検出
327	61H 谷A
328	61E S D03・22
329	61A S X02
330	61A S X03
331	60A S D IV b
332	61M 谷B
333	61E 検出
334	63G P05
335	61H 谷A
336	60E 谷A
337	60A 谷A
338	61E S D01
339	61H S D X
340	60E 谷A
341	61A S D IV a
342	61A S D IV a
343	61H 谷A
344	61H 谷A
345	60A 谷A
346	61A S X02
347	61M 検出
348	61H 谷A
349	61A 谷A
350	61H 谷A
351	60E 貝層
352	61H 検出
353	61A 検出
354	60A 谷A
355	61H 検出
356	61H 谷A

図版	遺構新番
357	61E S D01
358	61A S D02
359	61A 谷A
360	61H 谷A
361	60A S D W b
362	60E 貝層
363	61A 検出
364	61E S D04
365	61E S X03
366	61A 谷A
367	60B 谷A
368	61H 谷A
369	60A 谷A
370	61H 検出
371	60A 谷A
372	61A S X03
373	61E S D20
374	61E S D03
375	60A 谷A
376	61H 谷A
377	61E S X03
378	63D S D01
379	61A S X02
380	60B 谷A
381	61E S X03
382	61A 谷A
383	61A S D I
384	61A S X02
385	63D S D07
386	61A S D02
387	61E S D02
388	61A S X02
389	61E S D03
390	61A S X02
391	61A S D02
392	61H 谷A
393	61H 谷A
394	60A 谷A
395	60A 谷A
396	61A S X03
397	61A S D W a
398	61H 谷A
399	61A S X03
400	60B 谷A
401	60E 貝層
402	61A S X02
403	63D S D05
403	60A 谷A
404	61A S K02
405	61M 谷A
406	63D S D05
407	61H 谷A
408	61A 谷A
409	61A 谷A
410	63D S D07
411	60B S D III
412	61A S X02
413	60A 谷A
414	60E 谷A
415	60E 谷A

図版	遺構新番
416	61H 谷A
417	61A S X04
418	61H S X01 b
419	61E 検出
420	61H 谷A
421	61E 検出
422	60E 谷A埋土
423	60A 谷A埋土
第1図1	60D 検出
第1図2	61E S D02
第2図	63D 検出

## 木製品一覧

(単位はcm, g)

図番	登録番号	種別	A(個)	B(個)	C(個)	D(個)	E(個)	材料	時期
1	60D-038	1 彫 彫・彫彫 A	(14.3)	(6.8)			(2.8)	コナラ属アカガシ亜属の一種	II-III a
2	61AB-335	1 彫 彫・彫彫 A 柄	34.9 (6.2)	(5.2)	16.1		4.4 2.6	コナラ属アカガシ亜属の一種	III b 末-IV
3	61I-006	1 彫 彫・彫彫 A	30.3	8.0	16.1		4.5	カシ類	IV
4	61AB-259	1 彫 彫・彫彫 A	(29.5)	11.2	(3.2)		3.0	カシ類	V a
5	610-003	1 彫 彫・彫彫 B 柄	29.2 59.1	(6.8)	9.2		1.9 1.8 1.5	コナラ属アカガシ亜属の一種	II
6	610-004	1 彫 彫・彫彫 B 柄	33.5 (88.9)	(10.3)	(5.5)		4.5 2.0	コナラ属アカガシ亜属の一種	II
7	61AB-238	1 彫 彫・彫彫 B	26.8	11.5	9.1		2.6	カシ類	II
8	61AB-262	1 彫 彫・彫彫 B	30.6	(6.4)	(5.0)		2.1	ナラ類	III b 末
9	60A-101	1 彫 彫・彫彫 B	26.1	(7.4)	(2.9)		2.3	コナラ属アカガシ亜属の一種	IV
10	61U-001	1 彫 彫・彫彫 B 柄	40.8 52.6	13.0	13.5		4.2 2.2	カシ類	III b
11	61U-003	1 彫 彫・彫彫 B 柄	(23.1) (6.0)	(3.8)	(3.2)		3.4 2.7	コナラ属アカガシ亜属の一種	III b
12	61AB-082	1 彫 彫・彫彫 B	(25.2)	15.2	(3.0)		1.6	コナラ属アカガシ亜属の一種	IV
13	60F-006	1 彫 彫・彫彫 B	22.8	(3.0)	(3.2)		1.6	カシ類	IV-
14	61EF-051	1 彫 彫・彫彫 B	23.4	11.9	6.9		2.2	カシ類	III b 末-
15	61AB-086	1 彫 彫・彫彫 B	26.1	7.8	11.0		1.8	コナラ属アカガシ亜属の一種	IV
16	61I-135	1 彫 彫・彫彫 B	(23.0)	(7.0)	(6.9)		2.2	カシ類	V-
17	60A-177	1 彫 彫・彫彫 C	(10.7)		8.7		2.6	コナラ属アカガシ亜属の一種	IV
18	60A-170	1 彫 彫・彫彫 C	12.0	5.8	9.7		1.8	カシ	III
19	60A-173	1 彫 彫・彫彫 C	12.8	(3.0)	(5.4)		1.8	コナラ属アカガシ亜属の一種	IV
20	60A-174	1 彫 彫・彫彫 C	(10.4)		9.7		2.4	コナラ属コナラ亜属クヌギ組の一種	IV
21	60A-056	1 彫 彫・彫彫 C	14.3	1.6	3.1		1.6	カシ類	IV
22	61AB-205	1 彫 彫・彫彫 C	10.0	7.0	6.4		2.1	カシ類	IV
23	61AB-083	1 彫 彫・彫彫 C	10.9	7.8	7.8		2.2	コナラ属アカガシ亜属の一種	IV
24	61AB-204	1 彫 彫・彫彫 C 柄	11.0 54.5	8.8			1.7 2.0	ナラ類ヤナギ	IV
25	61AB-177	1 彫 彫・彫彫 C	(11.8)	(2.4)	(6.2)		1.5	カシ類	IV
26	60D-006	1 彫 彫・彫彫 C	(11.6)		10.8		2.7	カシ類	III-
27	61KL-001	1 彫 彫・彫彫 未製品	43.7	18.5	17.8		5.6	カシ類	IV
28	60B-007	1 彫 彫・彫彫 未製品	41.0		23.6		5.4	カシ類	III
29	61G-016	1 彫 彫・彫彫 未製品	49.2	19.5	26.5		4.3	カシ類	IV
30	60E-013	1 彫 彫・彫彫 未製品	(31.6)	7.2	(13.8)		3.2	カシ類	III-III a
31	61AB-219	1 彫 彫・彫彫 未製品	26.1	12.7	16.8		4.0	ナラ類	III b 末
32	61AB-203	1 彫 彫・彫彫 未製品	39.9	15.0	20.2		2.6	ナラ類	III b 末-IV
33	61AB-239	1 彫 彫・彫彫 未製品	24.8	18.1	16.8		4.2	カシ類	III b 末-IV
34	61AB-258	1 彫 彫・彫彫 未製品	(33.2)		12.8		3.8	カシ類	IV
35	61T-003	1 彫 彫・彫彫 未製品	39.9	5.8	(20.8)		4.5	コナラ属アカガシ亜属の一種	IV
36	61T-001	1 彫 彫・彫彫 未製品	38.8	7.5	(18.4)		3.7	コナラ属アカガシ亜属の一種	IV
37	61AB-282	1 彫 彫・彫彫 未製品	36.2		23.8		5.7	コナラ属アカガシ亜属の一種	IV
38	60F-002	1 彫 彫・彫彫 未製品	40.2	8.4	23.2		4.2	カシ類	IV-
39	60A-076	1 彫 彫・彫彫 未製品	28.6	13.5	11.7		2.4	カシ類	IV
40	61AB-084	1 彫 彫・彫彫 未製品	27.3	(6.0)	(8.8)		4.0	コナラ属コナラ亜属クヌギ組の一種	IV
41	60B-006	1 彫 彫・彫彫 未製品	19.5	11.2			4.3	カシ類	IV
42	61AB-328	1 彫 彫・彫彫 未製品	62.0	24.4			6.3	ナラ類	V-
43	61EF-057	1 彫 彫・彫彫 未製品	24.1	23.5			3.8	カシ類	IV
44	61U-011	1 彫 彫・彫彫 一本彫 柄	(94.6) (37.1)	27.4	17.8		0.9 3.2	コナラ属アカガシ亜属の一種	III b
45	61U-013	1 彫 彫・彫彫 一本彫 柄	50.0 67.9	27.1	(13.9)		1.0 3.3	コナラ属アカガシ亜属の一種	III b
46	61U-012	1 彫 彫・彫彫 一本彫 柄	104.8 72.2	32.6	14.1		1.4 3.0	コナラ属アカガシ亜属の一種	III b
47	61U-010	1 彫 彫・彫彫 一本彫	(34.1)	2.1			2.2	カシ	III b
48	61U-007	1 彫 彫・彫彫 組合せ 彫	(38.7)	(8.8)	(9.4)		2.0	カシ類	IV
49	61U-005	1 彫 彫・彫彫 組合せ 彫	44.3	13.4	10.0		1.2	コナラ属アカガシ亜属の一種	III b
50	61U-014	1 彫 彫・彫彫 組合せ 彫	(55.1)	(12.3)	6.8		1.4	コナラ属アカガシ亜属の一種	III b
51	61N-011	1 彫 彫・彫彫 一本彫	(9.3)	(5.7)			2.7	カシ類	V-



国産	登録番号	種別	A(個)	B(個)	C(個)	D(円)	E(円)	価格設定	時期	
52	60A-044	I類 飾・飾形 一本飾	27.6	(10.8)		6.0	0.8	0.5	クマギ	夏
53	61AB-280	I類 又織	18.0	15.2			2.7		コナラ属アカガシ亜属の一種	夏b末-夏
54	61AB-049	I類 又織	(9.7)	(9.6)			1.1			夏b-夏
55	61EF-019	I類 又織	(10.8)	(7.7)			1.6		カシ類	夏b末-
56	60A-179	I類 又織	22.3	(16.9)			1.4		カシ	夏
57	61AB-279	II類 B	27.9	14.2			1.6		コナラ属アカガシ亜属の一種	夏
58	61EF-064	II類 B	28.8	14.1			2.0			夏b-
59	61AB-281	II類 B	22.1	(8.5)			1.8		コナラ属アカガシ亜属の一種	夏
60	61AB-163	II類 A	39.2	5.8	9.6	1.4	1.7		コナラ属コナラ亜属クマギ路の一種	夏
61	61AB-164	II類 A	35.0	3.9	7.1	1.7	1.2		コナラ属コナラ亜属コナラ路の一種	夏
62	61AB-276	II類 A	(29.0)	4.8	9.0	1.9	1.6		コナラ属コナラ亜属クマギ路の一種	夏
63	61AB-214	II類 A	28.6	5.1	7.4	(2.8)			ナラ類	夏
64	61EF-010	II類 A	(20.9)	(3.0)	8.2	(1.1)	1.0			夏
65	61I-002	II類 A	36.9	8.5			1.2			
66	60A-047	II類 A	(19.1)	2.0	3.8	0.5	0.7		スギ	夏
67	61H-009	II類 A	(14.0)	3.9			1.1		ヒノキ科	夏-
68	63DE-018	II類 C	(22.7)	3.5			1.5			夏-
69	61T-002	II類 C	(23.9)	4.7			0.6			夏-
70	60F-005	II類 C	(22.0)	6.8			0.6			夏-
71	61H-005	II類 C	(41.7)	6.2			1.1		コナラ属アカガシ亜属の一種	夏-
72	61AB-288	I類 飾・飾形 一本飾 未製品	120.1	19.5	2.8	3.0	1.7		カシ類	夏
73	60F-081	同上	(28.0)	12.3			0.4			
74	61AB-040	I類 丸織	12.9	11.9			1.3			
75	60C-009	I類 飾・飾形 組合せ 織	32.4	(8.37)			1.3			夏
76	61AB-235	I類 飾・飾形 組合せ 織	(34.6)	10.7			1.4		スギ	夏b末-夏
77	61I-085	I類 飾・飾形 組合せ 織	28.1	(5.7)			1.0			夏+
78	61AB-042	I類 飾・飾形 組合せ 織	(25.1)	(8.5)			1.3			夏b
79	61AB-232	I類 飾・飾形 組合せ 織	26.1	9.7			1.9		スギ	夏b末
80	61AB-050	I類 飾・飾形 組合せ 織	31.3	9.2			1.4			夏b-夏
81	63DE-020	石芽柄 織柄 装飾部	35.9	1.7			1.1			夏
82	61AB-269	石芽柄 織柄 装飾部	42.8	2.2			2.0			夏
83	61AB-273	石芽柄 織柄 装飾部	(11.0)	2.4			2.5		コナラ属コナラ亜属クマギ路の一種	夏
84	61AB-075	石芽柄 織柄 装飾部	(46.3)	2.7			2.4		広葉樹(環孔材)	夏b末-夏
85	61AB-260	石芽柄 織柄 装飾部	(20.8)	2.0			2.3		サカキ	夏
86	61I-002	石芽柄 織柄 装飾部	(6.4)	2.3			1.6		サカキ	夏-夏a
87	61I-010	石芽柄 織柄 装飾部	(12.6)	3.2			1.6		サカキ	夏-夏a
88	60E-125	石芽柄 織柄 装飾部	(7.6)	2.1			1.7		サカキ	夏-
89	61AB-244	石芽柄 直柄 未製品	(74.6)	10.5	5.5	4.9	3.2		カシ類	夏b末-夏
90	61A-108	石芽柄 直柄	(25.3)	(5.2)	(1.7)	(7.0)	5.3		クマギ	夏-
91	61M-020	石芽柄 直柄	(17.0)	4.4	3.6	5.1	3.0		コナラ属コナラ亜属クマギ路の一種	夏-
92	60A-021	不明	12.1	4.3			1.5			夏
93	61AB-248	不明	(15.8)	2.8			2.0		サカキ	夏
94	60A-066	不明	13.3	(3.5)			2.2			
95	60A-111	鉄芽柄 直柄	49.9	7.1	3.1	2.8	2.5		スギ	夏
96	60E-020	鉄芽柄 織柄 装飾部	(10.5)	3.6			3.0			夏-
97	60E-017	鉄芽柄 織柄	(44.3)	3.5	2.9	3.0	3.2		ヒノキ	夏-

図版	登録番号	種別	A(縦)	B(横)	C(縦)	D(厚さ)	E(厚さ)	製法	時期		
98	61AB-298	鉄骨鋼 網筋	52.7	2.9			2.5	イマツキ	V・Ⅱ		
99	60C-012	有孔板	21.8	0.33			1.1				
100	63DE-006	有孔板	22.4	6.7			1.1				
101	61U-004	網下版	34.2	11.2			1.0				
102	61EF-073	網下版	27.4	0.40			1.1				
103	61AB-149	有孔板	28.1	9.7			1.2				
104	63DE-038	有孔板	23.2	9.9			0.7				
105	61AB-297	大足	081.53	18.1			1.9	スギ			
106	60D-020A	大足	049.53	4.2			1.8	スギ			
107	60D-020B	大足	056.23	4.7			1.9	スギ			
108	61H-031	大足	055.43	4.9			2.8	ヒノキ科			
109	60A-112	そり状本製品	51.7	15.4	13.8		1.9	3.9	クリ		
110	61AB-331	そり状本製品	77.4	9.3	13.5		3.7	10.0	ヤナギ属		
111	61AB-261	そり状本製品	29.2	4.9			4.7	0.7	クリ		
112	60F-070	大足	043.11	3.8			1.6				
113	61N-010	大足	026.93	4.0			1.1				
114	60C-021	樫状本製品 I 類	44.9	4.6			0.9				
115	61EF-053	樫状本製品 I 類	43.6	7.3			1.7		カンシ		
116	60B-011	樫状本製品 II 類	39.0	13.5	17.9		2.2	1.8	コナラ属コナラ亜属クヌギ属の一種		
117	61I-101	樫状本製品 II 類	79.8	21.7			3.5		カンシ		
118	61I-060	樫状本製品 II 類	049.43	(14.1)			1.5				
119	61AB-043	樫状本製品 I 類	014.63	4.5			0.8				
120	61I-134	樫状本製品 II 類	60.6	24.8			3.7		ナラ属		
121	61H-032	樫状本製品 I 類	41.1	7.5			0.7		ヒノキ科		
122	63DE-035	樫状本製品	17.0	0.23			0.4				
123	60D-028	樫状本製品	32.3	11.2			1.3				
124	61AB-285	樫類 I 類A	44.0	7.0	4.6		5.3	3.2			
125	61AB-252	樫類 I 類A	35.6	5.5	3.6		4.3	2.9	ナラ属		
126	60D-002	樫類 I 類A	34.2	5.3	2.8	(3.2)	(0.4)				
127	60C-011	樫類 I 類C	25.0	5.5	3.1		5.0	3.1	ヤツ(ニ重松)	日-Ⅱa	
128	61I-067	樫類 I 類B	027.83	6.2	3.6		4.8	3.4	ナラ属		
129	61AB-165	樫類 I 類B	36.2	8.1	4.1		4.1	3.2	コナラ属コナラ亜属クヌギ属の一種	Ⅱ	
130	61AB-278	樫類 I 類B	41.2	6.5	3.6		4.8	2.8	コナラ属アカシヤ亜属の一種	Ⅱ	
131	61AB-277	樫類 I 類B	37.0	5.4	3.3		3.8	2.5		Ⅱ	
132	60A-110	樫類 I 類C	32.4	7.0	3.6		6.1	3.7	ヒノキ		
133	63DE-016	樫類 I 類C	31.7	8.7	4.0		5.6	3.5		Ⅱb-Ⅱ	
134	61AB-078	樫類 I 類B	38.5	5.4	3.2		4.1	3.4	広葉樹(散孔材)	Ⅱ	
135	61I-071	樫類 I 類B	035.63	5.9	3.8	(5.3)	2.9				
136	61AB-254	樫類 I 類D	35.2	6.2	3.6		3.8	2.4	ミズキ属		
137	61AB-076	樫類 I 類D	35.4	6.2	2.8		5.7	2.0	広葉樹(散孔材)	Ⅱ	
138	61AB-245	樫類 I 類D	40.5	6.6	4.7		6.3	4.2	ナラ属	Ⅱb	
139	60D-050	樫類	22.9	4.8	2.2		4.3	2.2	針葉樹(樹皮著しい)		
140	61I-131	樫類 II 類	41.6	13.9	4.4	13.1	3.4		スギ類(樹皮著しい)		
141	61AB-246	樫類	51.3	9.4	5.5		7.4	4.5	ヒノキ科	Ⅱb	
142	60A-178	樫類	43.5	16.8	(2.0)		9.3	3.5	コナラ属アカシヤ亜属の一種		
143	63DE-037	桧材	049.83	7.3			5.8		ヤブツバキ	Ⅱ	
144	61AB-327	桧材	082.23	7.6			3.8		ナラ属	Ⅱb	
145	60A-113	桧材	055.03	6.2			5.9		ヤブツバキ		
146	60A-107	桧材	044.93	5.9			5.3				
147	61AB-068	桧材	038.83	6.1			6.4				
148	61AB-249	不明	19.9	3.1			2.6		コナラ		
149	60A-003	不明	(23.1)	2.5			2.1				
150	60D-035	不明	(17.8)	10.7			7.6	10.3	0.6		
151	60A-115	不明	(13.3)	9.2			6.2	8.6	0.8	ヤブ属植物安全亜属の一種	
152	61AB-207	白 小形E	8.4H	14.6R							
153	60A-172	白 小形E	(9.9H)	(17.3R)					エノキ属の一種		
154	61AB-267	白 小形E	6.0H	8.6R					Ⅱb-Ⅱ		
155	61AB-096	白 小形E	7.3H	(7.2R)							
156	61AB-023	白 小形E	6.0H	7.3R					日-Ⅱa		
157	61AB-333	白 小形E	13.0H	(16.0R)							
158	60C-010	白 小形E	16.5H	(15.6R)							
159	60A-062	白 小形E 本製品			8.5		16.2		日-Ⅱa		
160	61I-136A	白 大形E 骨付材	(26.6H)	48.6R			2.8	5.6	Ⅱ		

国産	登録番号	種別	A(個)	B(個)	C(個)	D(円)	E(円)	別称認定	時期
161	61I-136B	白 大粒白 青が穂	(33.2H)	76.6R		2.8	8.8		芽
162	61I-136C	白 大粒白 青が穂	(28.6H)	75.6R		3.2	8.0		芽
163	61I-102	白 大粒白 青が穂	(24.6H)	(24.0)		3.2	8.4	ナスノキ属の一種	芽
164	61EF-167	白 大粒白	(29.2H)			43.2R	7.2		
165	61I-005	白 大粒白	(24.4H)	48.9R		1.6	3.4	ナスノキ属の一種	芽?
166	61I-133	白 大粒白	(40.6H)	(44.8R)	(48.8R)	1.9	13.8		
167	63DE-034	高株	(6.3H)	27.3R		0.5		ツヤキ類似種	II
168	60D-047	高株	(5.6H)	27.2R		0.9		ツヤキ	
169	60F-034	高株	(7.8H)	20.8R		1.6		ツヤキ	
170	60E-004	高株	(6.3H)	34.2R		1.6		トチノキ	
171	61AB-002	高株	(14.4H)		(21.0R)	3.5			IIIb-芽
172	63DE-039	高株		28.6R		0.8		ツヤキ	III
173	61EF-026	高株	8.6H	19.2R	11.2R	0.6	1.0		
174	60D-005	高株	(5.2H)		11.6R	1.3			
175	61AB-263	高株	(6.6H)		16.2R	2.2		ツヤキ	
176	61KL-004	高株	(5.2H)		(6.2R)	1.6			
177	61EF-047	高株	(2.4H)		14.4R	1.2		ツヤキ	
178	61G-007	高株	(3.2H)		10.1R	0.8			
179	61AB-146	高株	(4.5H)		30.6R	1.0			II-IIIa
180	61AB-060	匍	(3.2H)		6.2R	0.4			
181	60E-001	匍	(3.7H)	15.8R		1.6		ツヤキ	
182	61AB-264	匍	(4.8H)	(18.4R)		0.8		ツヤキ ヒノキ	IIIb-芽
183	61EF-028	匍	(6.8H)	(17.6R)		1.2		ツヤキ	
184	60D-032	匍	(27.8)	(9.7)		0.8			II-IIIa
185	61M-014	匍	(26.0)	(9.3)		0.8		ツヤキ	
186	61AB-271	行子	(15.9)	(14.7)		1.35		広葉樹(環孔材)	
187	61EF-040	蕨形容器	(69.9)	(19.5)		1.8		スギ	
188	61AB-111	蕨形容器	(11.6)	(6.8)		0.9			芽
189	61I-061	蕨形容器	25.1	(7.5)		0.9		ナスノキ	
190	60F-002	蕨形容器	28.4	5.8		1.1			
191	60A-063	蕨形容器	(45.0)	(23.3)		2.2			
192	60C-035	蕨形容器	(17.2)	12.6		1.6		エノキ	
193	61AB-204	十地形木製品	34.0	(10.6)		0.9			II-IIIa
194	61EF-056	蕨形容器	(31.1)	(15.2)		2.6			
195	61I-124	蕨形容器	(23.8)	(21.7)		2.0		スギ	
196	61I-123	蕨形容器	18.1	(6.2)		0.7		ツヤキ	
197	61I-125	匍	34.4	(15.1)		3.2	1.0	ツヤキ	II
198	60B-012	十地形木製品	31.2	5.9	3.2	0.6	2.1	コウヤマキ	V-
199	61I-023	十地形木製品 木製品	28.3	7.0	2.9	2.3	2.8		
200	60D-048	行子	26.2	(7.4)	2.0	0.6	1.9	ツヤキ	
201	61EF-044	行子	(31.8)	16.8	1.6	1.6	1.6	ツヤキ	IIIb
202	61AB-272	行子 r 匍	(20.2)	(10.2)	2.6	1.0	1.2	広葉樹(環孔材)	II-IIIa
203	60D-046	種子	88.6	11.2		9.8	4.1	ヒノキ属の一種	II-IIIb
204	61G-015	種子	(27.1)	10.5		4.3	1.7	ヤツハゼ	II-IIIa
205	61AB-028	種子	(20.5)	12.3		5.3	2.7		
206	61EF-078	種子	(140.4)	24.4	19.9	11.6	4.2		IIIb
207	60D-053	種子	(27.7)	14.9		10.4	4.0	針葉樹(樹皮著しい)	
208	61EF-017	種子	(20.1)	4.5		2.3	0.8	木ヅク?	II-IIIa
209	61G-020	建築部材 輪状枕部	(117.4)	6.4		6.7		イチイ	IIIb-芽
210	61H-903	大粒白	34.4	9.4		1.2			
211	61I-062	大粒白	29.8	9.3		1.5		スギ	芽
212	61EF-069	大粒白	21.7	(12.9)		2.6	0.9		
213	61AB-232	大粒白	45.4	(7.1)		1.5			II-IIIa
214	61M-018	巧 1 匍	88.3	2.3		2.2			
215	60A-186	巧 1 匍	(64.6)	1.7		1.6		モミ	
216	61I-107	巧 1 匍	56.1	2.2		1.9			
217	60D-040	巧 1 匍	(60.8)	1.7		1.6		ヒノキ属似種	
218	60D-013	巧 1 匍	(22.4)	2.8		2.0			
219	61I-086	巧 1 匍	(27.7)	1.8		1.8		イヌマキ	
220	60A-185	巧 1 匍	56.8	2.6		2.3		イヌマキ	
221	61I-024	巧 1 匍	(22.3)	1.7		1.5			
222	60D-016	巧 1 匍	(23.8)	1.5		1.7			

国産	登録番号	種別	A(個)	B(個)	C(個)	D(厚さ)	E(厚さ)	製法鑑定	時期
	223	61AB-044	巧	豆類	95.73	1.5			
	224	61AB-121	巧	豆類	(45.23)	1.2			日-証 a
	225	61J-004	巧	豆類	(30.4)	1.8			
	226	61AB-253	巧	豆類	(36.8)	2.2			証 b
	227	61I-091	巧	豆類	(41.7)	2.3			証
	228	61AB-323	巧	豆類	(85.6)	1.5			日-証 a
	229	60F-082	巧	豆類	144.8	2.0			ツキ國の一種
	230	61AB-155	巧	V類	(40.1)	2.4			
	231	60A-190	巧	V類	(74.6)	3.4			イヌツキ
	232	61AB-325	巧	V類	(114.3)	1.8			イヌツキ
	233	61AB-296	巧	V類	(73.9)	2.7			イヌツキ
	234	61I-119	巧	V類	(73.7)	2.2			
	235	63N-003	巧	V類	(36.8)	(2.4)	(1.4)		証
	236	61I-113	巧	V類	(61.6)	1.4			
	237	61AB-324	巧	V類	(136.8)	3.1			イヌツキ
	238	60A-184	巧	V類	106.5	2.0			イヌツキ
	239	61AB-319	巧	V類	(96.5)	2.1			イヌツキ
	240	61AB-255	巧		(45.0)	3.2			
	241	61AB-310	巧	V類	(59.4)	2.4			証 b
	242	61I-099	巧	V類	(53.2)	1.4			
	243	60F-006	巧	X I 類	56.4	1.4			ヒノキ
	244	60D-031	巧	X I 類	(29.3)	2.1			
	245	61EF-059	巧	X I I 類	(14.2)	2.6			イヌツキ?
	246	61I-005	巧		(24.8)	1.8			ヤマハゼ
	247	60D-023	巧		(38.9)	1.0			
	248	60B-001	練熟具		17.6	6.4			スギ
	249	61I-066	練熟具		19.6	6.3			スギ
	250	61EF-066	練熟具		17.6	4.2			スギ
	251	60C-014	練熟具		14.2	4.7			日-証 a
	252	61AB-001	練熟具		12.7	2.7			日-証 a
	253	61EF-018	練熟具		(12.2)	(4.5)			証 b
	254	61I-001	練熟具		(19.1)	3.8			ヤサキ
	255	60D-001	日曬り板		65.8	3.8			ヒノキ
	256	60C-002	日曬り板		(31.7)	5.1			証 b-証 a
	257	61G-013	結巻具・巻巻具?		(37.7)	4.4			証 b-証 a
	258	61G-014	結巻具・巻巻具?		48.2	5.5			証 b-証 a
	259	60C-013	結巻具・巻巻具?		(19.1)	3.4			証 b-証 a
	260	61AB-179	結巻具・巻巻具?		(30.7)	3.3	1.2	2.1	1.5
	261	60D-023	材?		(24.2)	2.6			
	262	61G-005	材?		(24.0)	2.9			証 b-証 a
	263	60C-020	材?		58.1	2.9	1.7	1.8	1.7
	264	61AB-118	結巻具・巻巻具?		42.1	2.7			2.5
	265	61AB-035	結巻具・巻巻具?		27.2	2.9			1.8
	266	61I-004	結巻具・巻巻具?		28.8	3.9			1.3
	267	61EF-020	結巻具・巻巻具?		(27.7)	3.5			1.2
	268	60C-034	結巻具・巻巻具?		30.5	3.3			1.1
	269	61I-041	木練		15.7	8.5			7.1
	270	61EF-027	木練		14.7	8.8			7.2
	271	61I-043	木練		(14.0)	8.7			6.3
	272	60D-039	木練		(13.7)	(8.8)	(2.3)		
	273	61AB-316	結巻具・巻巻具?		102.6	4.0			2.6
	274	61EF-042	結巻具・巻巻具?		93.4	3.2			1.3
	275	61AB-320	結巻具・巻巻具?		79.3	2.8			2.2
	276	61AB-313	結巻具・巻巻具?		52.8	2.0			1.5
	277	61AB-318	結巻具・巻巻具?		87.8	2.3			2.2
	278	60A-124	結巻具・巻巻具?		67.1	2.2			2.4
	279	61AB-308	結巻具・巻巻具?		62.6	1.9			1.9
	280	60E-056	結巻具・巻巻具?		59.5	2.7			2.5
	281	60E-019	結巻具・巻巻具?		(59.3)	3.2			3.0
	282	60A-126	結巻具・巻巻具?		56.8	2.5			2.5
	283	60E-057	結巻具・巻巻具?		(53.8)	3.5			3.1
	284	61AB-312	結巻具・巻巻具?		(56.1)	3.3			2.6
	285	60C-006	結巻具・巻巻具?		(19.7)	3.4			2.7

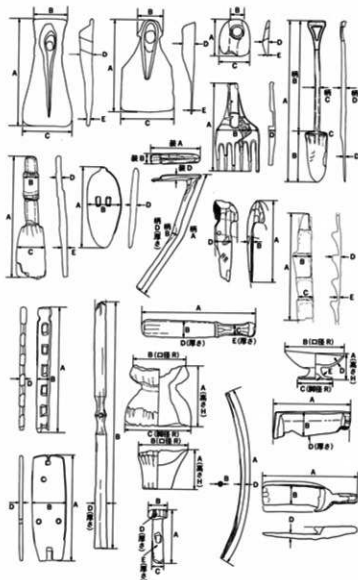
国産	登録番号	種別	A(個)	B(個)	C(個)	D(円)	E(円)	F(円)	別冊認定	均等
	296	61I-008 経営員・専務員?	(32.2)	2.4		1.8				
	297	61AB-119 経営員・専務員?	(44.2)	2.5		2.6				日-国a
	298	61AB-063 ヤス技研実員 1類	10.2	0.6		0.6				日-国a
	299	61AB-067 ヤス技研実員 1類	8.9	0.7		0.6				国b-IV
	290	61AB-197 ヤス技研実員 1類	11.1	1.1		1.0				
	291	61AB-242 ヤス技本製品	(9.5)	0.8		0.8				
	292	61AB-178 ヤス技本製品 日製	(15.1)	0.8		0.7				国b-IV
	293	61AB-088 ヤス技本製品 日製	15.8	0.9		0.8				
	294	61DE-630 ヤス技本製品 日製	(13.3)	0.6		0.6				国b-IV
	295	61I-015 新実員	12.4	0.7		0.5				
	296	61AB-274 ヤス技本製品 日製	12.1	0.5		0.4				
	297	61EF-105 麻野本製品	7.4	1.1		1.0				
	298	61G-011 麻野本製品	6.8	1.4		1.1		ヒノキ科		国b
	299	61AB-052 新実員	22.3	3.1		3.0				日-国a
	300	60E-075 樹形本製品	22.9	2.9		0.7		ヒノキ		
	301	60A-180 樹形本製品	(32.1)	4.1	1.9	0.6	0.5	ヒノキ		
	302	60A-109 樹形本製品	(45.8)	3.5		2.3		ヒノキ属の一種		
	303	60D-049 樹	13.6	3.0		1.5	0.6	イヌグサ		
	304	60E-126 樹形本製品	(14.9)	2.0	1.1	1.1	1.1	スギ		
	305	61H-011 新実員or樹形本製品	29.1	0.7	2.0	0.5	1.2			
	306	61AB-315 樹形本製品	(98.9)	5.9		1.1		ヒノキ属の一種		
	307	61EF-072 樹形本製品	(20.0)	5.0		1.2				
	308	61H-035 樹形本製品	(37.8)	5.8		1.6				
	309	60C-032 樹形本製品	(23.1)	4.2		1.7				
	310	60C-031A 樹形本製品	(35.3)	4.1		1.6				
	311	60C-031B 樹形本製品	(34.8)	2.4		0.8				
	312	60C-019 樹形本製品	(40.2)	4.2		0.8				
	313	60D-009 樹	(4.3)	(2.3)		0.7				
	314	61H-012 樹	(37.1)	(8.7)		0.9		スギ		
	315	61AB-270 樹	(40.1)	12.8		0.5		スギ類総稱		日-国b
	316	60B-005A 樹	(17.2)	(3.8)		0.5		モミ		V
	317	60B-005B 樹	(25.1)	(3.9)		0.6		モミ		V
	318	61AB-283 樹	(81.6)	(5.9)		1.1		モミ属の一種		IV
	319	61AB-236 樹	(34.9)	(6.2)		0.9		スギ		日-国a
	320	61I-087 樹	(40.9)	29.5		1.1		スギ		
	321	60F-063 樹類	77.7	28.2		0.2		ヒノキの樹皮?		
	322	60D-052 丸形	(40.2)	4.1		0.7		ヒノキ		
	323	61I-090 丸形	(34.6)	5.3		10.2				
	324	61AB-275 空欄	(9.6)	4.9		0.4				日-国a
	325	61EF-068 丸形	12.5	2.8	1.7	2.3	1.5			V-
	326	61EF-023 丸形	11.4	2.3		1.5				
	327	61I-042 身形	(31.5)	8.2		0.7		スギ類総稱		
	328	61EF-063 身形	(22.7)	5.8		0.5		スギ類総稱		
	329	61AB-158 板材	42.8	13.8		5.6				国b
	330	61AB-135 板材	40.8	6.4		3.0	0.9			IV
	331	60A-051 板材	(34.1)	(17.4)		3.6				日-国a
	332	61M-006 板材	25.1	16.2		4.5				
	333	61EF-108 板材	34.0	16.4		3.2		クスギ		日-国a
	334	63GH-001 板材	34.6	20.2		3.8		ヒノキ属の一種		V.
	335	61I-001 板材	23.7	16.0		2.6		ナラ属		
	336	60F-007 板材	(23.3)	15.3		2.2				
	337	60A-029 板材	36.0	20.8		2.4				
	338	61EF-021 板材	19.6	19.8		3.8		クスギ		日-国a
	339	61KL-003 板材	28.4	16.6		2.0				国
	340	60E-068 板材	48.1	9.4		2.3		クスギ		
	341	61AB-324 基材	22.8	16.8		14.6		ハコヤナギ属		日-国a
	342	61AB-330 基材	18.6	17.2		18.7		クスノキ		日-国a
	343	61I-100 基材	18.8	15.3		11.4		クスノキ		
	344	61I-132 基材	20.2	16.1		15.3		クスノキ		
	345	60A-050 基材	31.1	12.9	8.5	8.1	5.6			
	346	61AB-247 板材	(33.2)	7.4		6.4				国b
			83.6	3.7		4.0				
	347	61M-021 有線棒 1類	97.3	4.0		4.0				

国産	登録番号	種類	A(個)	B(個)	C(個)	D(厚さ)	E(厚さ)	製法	時期
348	611-112	有線線 1 巻	49.9	2.7			2.5		
349	61AB-286	有線線 1 巻	67.3	4.2			4.2		イマツキ
350	611-003	有線線 1 巻	62.3	4.1			3.5		サカキ
351	60E-108	有線線 1 巻	14.3	2.1			2.1		日→日
352	611-097	有線線	(12.7)	3.4			3.1		
353	61AB-006	有線線	7.1	5.5	3.0	5.4	2.6		日→日 a
354	60A-007	有線線	9.5	6.5	2.5	5.3	3.3		サカキ
355	61J-003	有線線	(22.8)	7.4	2.3	4.5	(6.9)		イマツキ
356	611-030	有線線	17.3	3.4	2.3	3.3	1.3		
357	61EF-029	有線線 巻盤	41.8	5.2	3.9	(4.1)	2.6		日→日 a
358	61AB-034	有線線 巻盤	(26.2)	5.8	3.2	5.8	3.1		日→日 a
359	61AB-200	有線線 巻盤	30.3	(3.2)	3.7	2.5	2.1		
360	611-064	有線線 巻盤	20.3	5.2	2.9	4.2	2.4		
361	60A-072	有線線 巻盤	22.2	(7.5)	6.1	(4.8)	1.9		日→日 a
362	60E-015	有線線 巻盤	16.0	7.6	3.9	3.9	2.1		
363	61AB-109	有線線 巻盤	18.5	6.0	3.3	5.7	2.0		
364	61G-010	有線線 巻盤	15.0	5.1	4.5	5.3	2.6		イマツキ
365	61G-003	有線線 巻盤	6.5	3.2	2.1	0.9	2.2		日→日 a
366	61AB-251	有線線 巻盤	14.5	7.0	4.4	4.8	3.3		イマツキ
367	60D-018	有線線 巻盤	11.9	4.7	2.8	4.7	2.4		ヒノキ? (分野登孔線)
368	611-034	有線線 巻盤	12.5	3.2	2.2	2.0	1.1		
369	60A-173	有線線 巻盤	16.3	5.3	1.8	3.8	1.7		ヒノキ
370	611-096	有線線 巻盤	10.3	3.3	1.8	3.2	1.4		
371	60A-046	有線線 巻盤	17.3	4.2	2.1	4.0	1.9		ヒノキ
372	61AB-011	有線線	66.8	(5.1)	3.8	(2.5)	(1.7)		日
373	611-009	創発品?	25.9	2.4			1.9		日
374	61EF-055	創発品?	32.1	2.9			1.9		日
375	60A-098	創発品?	41.2	4.1			2.7		日
376	611-089	創発品?	37.4	5.8	2.9	2.1	1.2		
377	61G-009	箱?	(45.0)	3.4	0.8	2.4	1.0		日→日 a
378	63DE-002	創発品?	33.0	4.7	1.7	1.4	1.6		日
379	61AB-080	創発品?	38.0	2.4			0.6		日
380	60C-001	へ?	24.6	2.1	1.4	0.7	1.2		
381	61G-006	へ?	19.9	1.9			0.4		日→日 a
382	61AB-229	創発品?	20.1	3.0			2.6		
383	61AB-015	不明	37.9	5.3	6.2	2.4	2.3		日
384	61AB-016	不明	33.6	8.4			1.7		日→日 a
385	63DE-025	不明	14.2	10.2			3.1		日→日 a
386	61AB-046	不明	(26.0)	1.8			0.6		日→日 a
387	61EF-065	不明	28.4	3.3			1.8		日
388	61AB-071	円板	6.5	6.8			0.6		日
389	61EF-052	円板	17.3	16.6			1.9		日
390	61AB-018	不明	(18.4)	4.0			1.4		日→日 a
391	61AB-064	不明	(13.5)	3.0	5.4	1.6	1.1		日→日 a
392	611-036	不明	(22.5)	5.0	2.4	1.8	1.8		
393	61H-008	不明	4.9	2.0			1.9		針巻線(スギ?)
394	60A-181	不明	28.0	2.9			2.7		ヒノキ属の一種
395	60A-049	不明	10.0	2.0			1.8		ヤブツバキ
396	61AB-087	不明	(17.8)	2.0	4.1	2.0	4.0		日
397	61AB-206	不明 or 箱	28.0	7.2			4.7		日→日 a
398	61H-010	不明 or 円形糸巻品	23.6	7.2	7.0	4.7	5.3		イマツキ
399	61AB-085	不明	14.4	2.7	5.6	1.8	1.9		日
400	60C-004	不明	18.1	6.4	2.6	2.4	2.4		
401	60E-025	不明	24.7	2.8			2.1		日→日
402	61AB-215	不明	11.9	4.6			1.6		サカキ
403	63DE-032	不明	(16.3)	0.6			0.6		日
404	60A-100	不明	31.5	3.7			2.5		イマツキ線組
404	61AB-172	不明	(20.4)	5.0			4.4		日
405	61M-015	不明	28.7	9.1			3.5	1.1	コナラ類
406	63DE-009	両孔板	53.5	3.3			1.2		日→日 a
407	611-121	両孔板	(61.2)	4.6			1.9		ヒノキ科
408	61AB-326	両孔板	24.7	5.6			2.8		日
409	61AB-332	不明	(14.2)	(11.6)			10.4		ハリギリ

図版	登録番号	種別	A (縦)	B (横)	C (横)	D (厚さ)	E (厚さ)	図解認定	時期
410	63DE-010	不明	36.0	3.2	2.4	3.3	2.3		
411	60C-022	不明	26.2	12.5		2.8			II-B-IV
412	61AB-055	板	11.9	11.9		4.8			II-B-a
413	60A-160	不明	31.5	5.7		2.5		イヌギヤ髷留緒	
414	60F-044	有孔板	139.7	21.2		3.2			
415	60F-079	有孔板	56.6	8.3		4.3			
416	61I-104	有孔板	81.4	16.7		2.5			
417	61AB-032	有孔板	37.6	8.0		12.3			II-B
418	61I-120	有孔板	70.2	8.3		2.5		スギ	
419	61EF-077	先端棒	56.9	5.6		4.3		イヌツギ	
420	61H-018	先端棒	38.6	3.9		2.8			
421	61EF-074	有孔板	72.1	16.0		1.4			
422	60E-076	有孔板	77.0	16.0		1.2			
423	60A-060	板	44.5	14.4	7.6	1.3			
424	60D-042	柄	64.1	3.2		2.8			
425	61EF-060		25.8	9.6	7.1	3.1	0.8		
426	63DE-005		19.7	13.0		0.8			

### ※ 計測位置図

その他の遺物については基本的にA：縦、B・C：横、D・E：厚さとした。



第1章 資料の分類

1. 生活用具…44

(1)漁猟刺突具…44 (2)刺突具…45 (3)ヘラ…45 (4)釣り針…45

(5)環形骨角製品…45 (6)紡錘車…45 (7)その他…46

2. 装飾・祭祀用具…46

(1)産飾…46 (2)加工品…46

3. 貝製品…47

貝製品一覧表…47

貝製品出土遺構一覧表…47

骨角製品出土遺構一覧表…48

骨角製品一覧表…50



# 第1章 資料の分類

## 1. 生活用具

### (1) 漁獵刺突具

漁労、狩猟、戦闘用に用いられたと考えられる骨角器群である。

I類 (1~21) いわゆるヤス状刺突具である。シカ中手骨・中足骨・角を使用している。

断面形が丸く、基部・先端部とも棒状を呈しているもの(1・3・5・14・17・18)、断面形が丸く、基部がやや削り込まれているもの(4・6・10・13・15・16) 断面形が平らか中手骨・中足骨の凹みがみられ、基部が太くなるもの(7・9)、断面が扁平で方形をなすもの(11・12)、というように分けることができる。

また、長径によって分けると、長い方から順に、17~19cm (1・2・6・8・12)、14~16cm (3・5・9・11・13)、11cm (14・15)、8cm以下 (16・18) の4グループに分けられる。

このように一定のグルーピングが行えるということは、獲物や漁法に明確な意図があったことが考えられ、そのための道具の定型的な製作方法が存在していたと思われる。

19~21に関しては、単独で柄に装着する方法、同様のものを数本組み合わせる柄に装着する方法、鉤頭の先端に挟み込み式の逆刺として装着する方法が想定される。

II類 (22~31・40) 鉤頭として分類されるものである。ほぼすべてシカ角を使用している。大き

くは、長径のものと短径のものの2種類に分けられる。長径のものうち、27・28は直線的で逆刺が左右対称に作られているのに対し、29~31はそれぞれ湾曲し、逆刺が非対称に作られている。また、後者の方が逆刺の数が少なくなっている。29~31については、2本(もしくは数本)を基部で組んで使用する、組み合わせ式鉤の可能性も考えられる。さらに、27については柄部との装着法が判る数少ない例であり、中空の柄に鉤が差し込まれ、樹皮で固定されている。なお、柄はヤブツバキである。

短径のもの(22・24)は、III類の錐形のものと径が近似している。これらも、長径をなすものと同じく、逆刺が対称なもの(22)と非対称なもの(24)がみられる。26については逆刺とは異なった突起が4ヶ所作られるが、その用途については不明である。25については、先端部の側面に平坦面があり、先述したI類の19~21の逆刺状のものが装着されるかとも考えられるが、大きさ・厚みともに挟み込み式鉤のそれよりは、いくぶんか華奢である。

III類 (32~44) 錐形の骨角器である。32~34のように石錐を忠実に模倣したものと、35~40・43・44のような断面が丸い器体部と短い基部をもつものに分かれるが、それぞれに完全に定形化されていない。特に、前者については生産用具でなく擬器である可能性も考えなければならぬであら

う。また、35~37についてはI類のヤス状刺突具として分類すべきものかもしれない。41に関しては銅鏃の模倣であるかもしれない。

## (2) 刺突具

I類 (45~59) シカやイノシシの尺骨を利用した手持ちの刺突具で、定形化された一定の製作方法があったことが窺われる。握部である近位部はそのままで、刃部にあたる遠位部を簡単に削っている。45のように遠位部が長いものから59のように短いものまで様々な長さのものが認められ、使用によって破損したり磨滅したものを再利用していた可能性もある。ただ、51のように先端部を尖らしたものと55のようにへら状のものもあり、使用目的別に作り分けられることがあったことを窺わせる。

II類 (60~81) I類類でみられた尺骨以外の部位を用いた刺突具で、大形のもの(60~68・80~81)と小形のもの(69~79)に分かれる。

大形のものうち、60は螺旋状に割れたイノシシの左脛骨を利用して刺突部にしており、61も破損したものを利用している可能性が高い。63は鹿角で作られたもので、基部に穿孔がありぶらさげることができるようになっている。62も63とはほぼ同様のものがあるが、握部に当たる部分に方形の凹部がみられる。また、66~68も、その穿孔の仕方から63に類似するものと考えられる。65は装飾品の“髪針”と類似するが、通常のそれらの径よりかなり太くなっており、刺突具とした。64・65とも握部に溝が彫られている。80はイノシシの犬歯の先端部を尖らしただけのものであり、81はシカの下顎骨の右半前部を尖らしている。下顎骨全体に解体痕や磨痕が残っている。

小形のもの、上述した60のように螺旋状に割れ、鋭利に破損したものの先端部をさらに研磨して刺突具として使用している。特に、72について

は鎌の可能性も考えられる。また、75についてはへら状のものとして分類すべきかもしれない。

III類 (99~105) 縫い針である。長さは長短2種類みられるが、太さと孔径に関してはほぼ同じである。短いものの中には片側だけを削って尖らしたものがあり、先端部が折れた後再使用した可能性がある。

## (3) へら (82~85)

先端部が刺突具にみられるほど鋭利でなく、断面が扁平なものである。4点ともシカ角で作られている。

## (4) 釣り針 (86~91)

6点出土しているが、軸頭から鉤先までであるものがないため詳細は不明である。86・87単式釣り針で、86はイノシシ犬歯、87はシカ角製である。90・91はチモトが外に付くものであり、他の出土例比べて華奢にできている。88・89は結合式釣り針の鉤の部分にあたるものと考えられる。

## (5) 頸形骨角製品 (92~95)

短径と長径のものがある。短径のもの(93・94)は円筒状をなし、体部に凹部をもつ。94の孔部には有機物が付着している。92の長径のものは非常に精巧に作られたもので、体部側面の横方向の孔に、両端が傘状に開いて可動する装飾部が挿入されており、その間を幾つもの横位の沈線が刻み込まれている。95も92と同様のものであるが、装飾部が挿入される側面に抉り込みがある。

## (6) 紡錘車 (96~98)

シカ角およびシカ角角座を利用したものが3点出土しており、各々磨痕が明瞭に残っている。

## (7) その他 (106~110)

明顯な磨痕が認められるもので、石器でいう磨石のような使用がなされたかと考えられる。

106~109はシカ角製で、枝部が切り落とされて

いる。106・107・109は、枝部切断面を磨面として使用しており、106は側面も使用している。108はさらに各面が加工されているもので、側面が磨面になっている。また、楕円形の孔もみられる。110はシカ下顎骨を使用した例である。

## 2. 装飾・祭祀用具

### (1) 垂飾

穿孔されているか、管状になっているもので、紐等を通してつり下げて使用されたと思われるものを“垂飾”としてとりあげた。

I類 (111~116・119・120) 歯牙垂飾である。69はツキノワグマの犬歯に穿孔されているものである。111~116・119はイノシシの犬歯で、111・112は同じ地点から重なって、113・114もほぼ同一地点で出土しており、腕飾又は首飾と考えられる。111には未穿孔の孔が2つみられる。119はおそらく上述のイノシシの犬歯垂飾の部分と思われるが、破面は丁寧に磨かれており、別種の垂飾として再利用されたものであろう。

II類 (121~130) 管状垂飾である。鳥類の管状骨を利用している。

III類 (131~138) 輪鼓状耳飾と呼ばれているものであり、耳飾および一般的な垂飾品として使用されたと考えられる。魚(サメカ)の椎骨の中央部に穿孔がなされている。

IV類 (117・118) 穿孔のある加工品である。117は非常に丁寧に研磨されており、118は精巧な線刻がなされている。

### (2) 加工品

非常に丁寧に装飾や加工が施されていたり、何かを模倣したりしているもので、生産用具とは認められないものを“加工品”として取り上げた。

I類 (144~151) いわゆる髪飾類に属するものである。152~154も丁寧に研磨されており、髪飾りになるかもしれない。

II類 (139~142) 骨に刻みや沈線が施したもので、142は剣骨となろう。139~141については垂飾の可能性も考えられる。

III類 (143・167) 何かを模したと考えられる骨角器である。143は鹿角を使用したもので、有頭棒及び男根を模したものであろう。167は海洋性哺乳類(クジラ)の肋骨で、丁寧に作られている。剣形かとも思われるが、アワビ起こしと呼ばれる一群とも形態上の類似がみられる。ただ、いずれにしても実用的なものではないと考えられる。

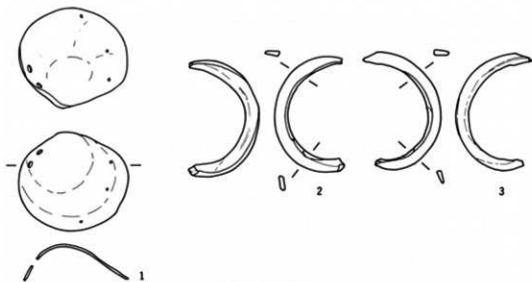
IV類 (168~171) 儀式的な場で使用されたと思われる骨角器で、骨の一部分のみを加工している。168~170はシカ肩甲骨を使用したト骨、171はイノシシ下顎に穿孔を施したものである。

その他、用途不明なものには、157の腕飾の部分かと思われるものや、弾形角製品の部分か弓飾の部分か考えられる155がある。158~166については端部が鋭利であり、剣突具になる可能性のあるものである。

### 3. 貝製品

第15図1はナミマガシワガイの右殻で、径2mmの大きめの孔が2つ、1mm以下の小孔が3つ開けられている。2・3は同一地点で出土している貝

輪である。端部は磨滅してははっきりしないが、両端は破損していると思われる。



第14図 出土貝製品

貝製品一覧表

(単位はcm, g)

図版	登録番号	種別	A(縦)	B(横)	C(横)	D(厚)	E(厚)	重量	時期	備考
第14図1	60E-X S-1	不明	5.8	5.3		0.1		9.2	II~III	ナミマガシワガイ
第14図2	61A B-X S-1	貝輪	6.1	3.7		0.2		5.6		
第14図3	61A B-X S-1	貝輪	6.2	3.9		0.3		5.0		

貝製品出土遺構一覧表

図版	出土遺構
第14図1	60E 貝層
第14図2	61A 検出
第14図3	61A 検出

骨角製品出土遺構一覧表

図	出土遺構
1	60B 検出
2	60E 検出
3	60E 貝層
4	60B S D01
5	60A 貝層
6	61A 貝層
7	61A 検出
8	60A 検出
9	60E 検出
10	60A 検出
11	61A 貝層
12	60B 検出
13	61A 検出
14	60B S B04
15	60A 検出
16	61A 検出
17	60E 貝層
18	60A 検出
19	61A 検出
20	60B 検出
21	61A 貝層
22	61A S K02
23	60E 検出
24	60B 検出
25	60E 谷A
26	61H 検出
27	60E 検出
28	61A 検出
29	60B 検出
30	61A 貝層
31	60A S DⅣ b上層
32	61A S DⅠ 貝層
33	60E S D06 a
34	60A 貝層
35	60A 貝層
36	61A 検出
37	63D 検出
38	60B 検出
39	60E 貝層
40	60A 貝層
41	60A S DⅢ
42	61E S D01
43	61E 検出

図	出土遺構
44	63D S K16
45	60A S DⅣ b上層
46	61A S X01
47	60E 貝層
48	60A 検出
49	60B 検出
50	61A 検出
51	60E 貝層
52	61A 検出
53	61A S X02
54	63D 検出
55	61C S DⅣ a
56	60B 検出
57	60E 貝層
58	61A 検出
59	60B S DⅡ a
60	60B S D01
61	60B S D01
62	60B 検出
63	60B S D01
64	61A 検出
65	61A 検出
66	60E 貝層
67	61E 検出
68	61A 検出
69	61H S D X I
70	60A 検出
71	61H 谷A
72	60A 貝層
73	60A 貝層
74	61A S DⅠ
75	63D S D01上層
76	61A 検出
77	60E 検出
78	60E 貝層
79	60E 貝層
80	61E S D01下層
81	61A S DⅢ
82	60B 検出
83	60B 検出
84	60E 貝層
85	61E S D01貝層
86	60E 検出

図	出土遺構
87	61E 検出
88	61A 検出
89	61A 検出
90	60A 貝層
91	60E 貝層
92	60E 貝層
93	61E 検出
94	60B 検出
95	61A 検出
96	60A 谷A
97	60E 検出
98	61A 検出
99	60A 貝層
100	60A 貝層
101	60A 検出
102	61H 検出
103	60A 貝層
104	60A 貝層
105	60E 貝層
106	60A 検出
107	60B S DⅢ下層
108	61A 検出
109	60B 検出
110	60B S B04
111	61A S X02
112	61A S X02
113	60E 貝層
114	60E 貝層
115	60B S DⅢ貝層
116	60B 検出
117	61H 谷A
118	60E 検出
119	60A 貝層
120	60E 検出
121	60E 検出
122	60E 検出
123	60E 貝層
124	60B S DⅢ
125	60E 貝層
126	60B S DⅢ
127	60E 検出
128	60E 貝層
129	60E 谷A
130	60E 貝層
131	63G 検出

図	出土遺構
132	61C S Z115東溝
133	60A 検出
134	60B S DⅡb
135	60B S DⅡa
136	60E 貝層
137	60E 検出
138	60A 検出
139	60A S DⅣb上層
140	60E 貝層
141	60A 貝層
142	61H 谷A
143	61E 検出
144	61A 検出
145	60A 貝層
146	60A 貝層
147	60A 貝層
148	60A 貝層
149	60A 貝層
150	61E 検出
151	60A 貝層
152	60A 貝層
153	60A 検出
154	60E 貝層
155	60A 検出
156	61A 検出
157	60E 谷A
158	60A S DⅥ
159	60A 貝層
160	60B 検出
161	61H 検出
162	60B 検出
163	61C 検出
164	60E 谷A
165	60E 検出
166	61H S E03
167	61A 検出
168	61H S D X I
169	60E 検出
170	61A 貝層
171	61A S DⅣa

## 骨角製品一覧表

(単位はcm・g)

図	登録番号	種別	A(幅)	B(横)	C(縦)	D(厚)	E(厚)	重量	種	部位	時期
1	60B-Xb-146	漁網刺突具 1 類	18.0	0.3		0.2		2.7	不明		
2	60E-Xb-606	漁網刺突具 1 類	17.9	0.5		0.5		4.9	シカ	角	
3	60E-Xb-607	漁網刺突具 1 類	16.0	0.4		0.4		3.5	シカ	中手骨or中足骨	日～日
4	60D-Xb-263	漁網刺突具 1 類	14.4	0.6		0.4		3.2	シカ	角	日～日
5	60A-Xb-795	漁網刺突具 1 類	15.1	0.6		0.5		4.9	不明		日～日
6	61AB-Xb-1199	漁網刺突具 1 類	19.2	0.8		0.7		11.3	シカ	中手骨or中足骨	日～日 a
7	61AB-Xb-1201	漁網刺突具 1 類	17.9	0.8		0.5		7.8	シカ	中手骨or中足骨	
8	60A-Xb-681	漁網刺突具 1 類	17.5	1.9	0.6	0.9	0.5	16.2	シカ	角	
9	60E-Xb-645	漁網刺突具 1 類	17.0	1.0		0.5		9.3	シカ	角	
10	60A-Xb-683	漁網刺突具 1 類	15.9	0.7		0.7		8.8	シカ	中手骨or中足骨	
11	60A-Xb-677	漁網刺突具 1 類	15.3	0.9		0.3		4.5	シカ	中手骨or中足骨	日～日
12	60C-Xb-296	漁網刺突具 1 類	16.8	0.8		0.4		8.0	シカ	中手骨or中足骨	
13	61AB-Xb-1205	漁網刺突具 1 類	13.8	0.5		0.6		5.3	シカ	中手骨or中足骨	
14	60C-Xb-301	漁網刺突具 1 類	11.1	0.6		0.5		3.9	シカ	角	日
15	60A-Xb-767	漁網刺突具 1 類	11.0	0.6		0.6		5.1	シカ	角	日～日
16	61AB-Xb-1188	漁網刺突具 1 類	7.6	0.6		0.5		2.8	シカ	中手骨or中足骨	日～日 a
17	60E-Xb-649	漁網刺突具 1 類	7.8	0.6		0.4		2.5	不明		日～日
18	60A-Xb-688	漁網刺突具 1 類	5.2	0.4		0.4		1.4	不明		
19	61AB-Xb-88	漁網刺突具 1 類	3.5	0.6		0.5		0.9	不明		
20	60B-Xb-147	漁網刺突具 1 類	4.3	0.4		0.4		0.8	不明		
21	61AB-Xb-1203	漁網刺突具 1 類	6.8	0.6		0.6		2.6	不明		日～日 a
22	61AB-Xb-1180	漁網刺突具 1 類	8.4	1.5		0.8		7.9	シカ	角	日 b
23	60F-Xb-97	漁網刺突具 1 類	6.8	1.7		0.7		(6.3) 不明	シカ	角	
24	60D-Xb-281	漁網刺突具 1 類	6.7	1.2		0.5		3.5	不明		
25	60E-Xb-610	漁網刺突具 1 類	5.9	1.0		0.6		(2.4)	シカ	角	日
26	61KL-Xb-365	漁網刺突具 1 類	6.6	1.2		0.8		(4.2)	シカ	角	
27	60E-Xb-658	漁網刺突具 1 類	15.1	1.8		0.8		(22.3)	シカ	角	
27	60E-Xb-658	漁網刺突具 1 類	14.4	1.4		1.1			ノリウツギ		
28	61AB-Xb-1175	漁網刺突具 1 類	14.8	1.3		0.7		12.6	シカ	角	
29	60C-Xb-293	漁網刺突具 1 類	12.3	1.3		0.7		7.7	シカ	角	
30	61AB-Xb-1184	漁網刺突具 1 類	15.0	1.2		0.6		12.1	シカ	角	日～日 a
31	60A-Xb-766	漁網刺突具 1 類	15.8	1.4		0.8		14.8	シカ	角	日～日 a
32	61AB-Xb-1183	漁網刺突具 1 類	7.6	1.1		0.4		2.4	不明		V～VI
33	60G-Xb-018	漁網刺突具 1 類	7.2	1.3		0.5	0.4	0.5	1.7	不明	日
34	60A-Xb-700	漁網刺突具 1 類	6.2	1.0		0.5		1.2	シカ	角	日～日
35	60A-Xb-769	漁網刺突具 1 類	8.1	0.9		0.7		4.7	シカ	角	日～日
36	61AB-Xb-1188	漁網刺突具 1 類	9.3	0.8		0.6		5.7	シカ	中手骨or足骨	日～日 a
37	63DE-XB-1	漁網刺突具 1 類	7.2	0.8		0.6		3.0	シカ	中手骨or足骨	日
38	60C-Xb-294	漁網刺突具 1 類	5.0	0.6		0.3		0.7	不明		
39	60E-Xb-603	漁網刺突具 1 類	7.7	0.8		0.8		3.5	シカ	角	日～日
40	60A-Xb-701	漁網刺突具 1 類	5.9	1.0	0.5	0.8	0.5	(3.9)	シカ	角	日～日
41	60A-Xb-678	漁網刺突具 1 類	5.4	1.2	0.7	0.6	0.4	(2.8)	不明		日～日 a
42	61E-Xb-394	漁網刺突具 1 類	4.3	1.0	0.6	1.1	0.7	(4.0)	シカ	角	日～日
43	61E-Xb-384	漁網刺突具 1 類	4.4	0.9	0.3	0.6	0.4	1.9	シカ	角	日～日
44	63DE-XB-7	漁網刺突具 1 類	3.7	0.6	0.2	3.0	0.2	0.9	シカ	角	日～日
45	60A-Xb-733	刺突具 1 類	15.6	4.2	1.6	1.2	0.5	38.5	イノシシ	尺骨	日～日
46	61AB-Xb-208	刺突具 1 類	13.4	3.6	1.1	0.7	0.4	24.8	シカ	尺骨	日～日
47	60E-Xb-620	刺突具 1 類	12.1	3.3	0.8	0.7	0.2	16.8	シカ	尺骨	日
48	60A-Xb-732	刺突具 1 類	11.5	4.0	0.6	1.1	0.7	25.5	イノシシ	尺骨	日～日
49	60D-Xb-282	刺突具 1 類	11.5	3.9	1.0	0.9	0.4	18.8	シカ	尺骨	日～日
50	61AB-Xb-1147	刺突具 1 類	11.4	3.3	1.5	1.1	0.9	29.6	イノシシ	尺骨	日～日 a
51	60E-Xb-604	刺突具 1 類	10.5	3.1	0.8	0.8	0.2	11.9	イノシシ	尺骨	日～日
52	61AB-Xb-1082	刺突具 1 類	9.6	3.2	1.1	1.1	0.8	23.0	イノシシ	尺骨	日～日 a
53	61AB-Xb-348	刺突具 1 類	8.8	3.2	1.2	0.9	0.5	13.6	シカ	尺骨	日～日
54	63DE-XB-14	刺突具 1 類	9.0	3.4	1.5	1.1	0.5	19.7	イノシシ	尺骨	日～日
55	61C-Xb-11	刺突具 1 類	9.1	3.4	1.2	0.8	0.3	19.5	シカ	尺骨	日～日 a
56	60D-Xb-267	刺突具 1 類	7.6	3.2	1.0	0.8	0.4	15.3	イノシシ	尺骨	日～日
57	60E-Xb-064	刺突具 1 類	7.3	3.6	0.7	0.8	0.3	15.3	シカ	尺骨	日～日
58	61AB-Xb-537	刺突具 1 類	7.7	2.9	0.7	0.7	0.5	13.6	イノシシ	尺骨	日～日

号	登録番号	種別	A(編)	B(編)	C(編)	D(2)	E(2)	重量	種	部位	時期
59	60B-Xb-2	新発見 日類	6.8	4.3	0.8	1.1	0.5	22.8	イノシシ	尺骨	II-III a
60	60D-Xb-262	新発見 日類	14.8	2.9	0.4	0.3	0.4	15.3	イノシシ	脛骨	II-III
61	60D-Xb-265	新発見 日類	14.8	2.9	0.7	0.2	0.5	8.9	不明		II-III
62	60D-Xb-277	新発見 日類	(17.4)	2.5	1.2	1.4	1.2	(49.6)	シカ	角 角座	
63	60D-Xb-266	新発見 日類	20.5	1.7	0.6	1.5	0.5	46.8	シカ	角	II-III
64	61A B-Xb-1195	新発見 日類	(17.0)	2.0	1.2	2.1	1.4	48.9	シカ	角 角座	
65	61A B-Xb-1192	新発見 日類	16.8	1.5	0.9	1.0	0.7	24.1	シカ	角	II-III a
66	60E-Xb-605	新発見 日類	(9.9)	2.0	1.2	1.1	1.1	(13.0)	シカ	角	II-III
67	61E-Xb-412	新発見 日類	14.4	2.1	0.8	0.6	0.6	20.5	イノシシ	脛骨	
68	61A B-Xb-1196	新発見 日類	11.8	1.2		0.8		(16.6)	シカ	角	
69	61K L-Xb-339	新発見 日類	6.7	1.1		0.4		3.3	不明		IV
70	60A-Xb-715	新発見 日類	7.5	1.4		0.7	4.1	不明			
71	61 I-Xb-130	新発見 日類	8.3	1.7		0.2	6.2	不明			
72	60A-Xb-716	新発見 日類	9.0	1.1		0.9	8.9	不明		III-IV	
73	60A-Xb-707	新発見 日類	9.8	1.1		0.9	7.2	シカ	角		III-IV
74	61A B-Xb-241	新発見 日類	(3.5)	1.5		0.5	(1.4)	不明		V-VI	
75	63D E-Xb-280	新発見 日類	4.1	2.2		0.7	5.5	シカ	中子骨	V	
76	61A B-Xb-133	新発見 日類	6.1	1.2		0.4	4.3	不明			
77	60E-Xb-629	新発見 日類	5.5	1.9		0.7	4.1	不明			
78	60E-Xb-630	新発見 日類	11.5	1.8		0.5	12.7	不明		II-III	
79	60E-Xb-595	新発見 日類	9.5	2.1		0.4	13.7	不明		II-III	
80	61E-Xb-398	新発見 日類	11.0	3.4		1.2	15.0	イノシシ	歯	II-III a	
81	61A B-Xb-434	新発見 日類	13.7	6.2		1.5	56.6	シカ	下顎骨	II-III a	
82	60C-Xb-292	へう	13.2	1.5		0.8	11.3	シカ	角		
83	60D-Xb-268	へう	11.2	1.8		0.8	14.6	シカ	角		
84	60E-Xb-586	へう	16.2	2.0		0.4	30.7	不明		II-III	
85	61E-Xb-404	へう	16.3	1.7		0.6	29.8	シカ	角	II-IV	
86	60E-Xb-621	釣り針	(5.5)	1.2		0.5	(4.3)	イノシシ	角		
87	61E-Xb-391	釣り針	(4.7)	1.3		0.7	(3.2)	シカ	角	II-III a	
88	61A B-Xb-517	釣り針	(6.4)	0.9		0.8	(5.0)	イノシシ	角		
89	61A B-Xb-732	釣り針	(6.2)	0.8		0.6	(3.9)	イノシシ	歯		
90	60A-Xb-709	釣り針	(1.5)	0.9		0.2	(0.3)	不明			
91	60E-Xb-614	釣り針	(3.0)	0.6		0.2	(0.4)	不明		II-III	
92	60E-Xb-667	硬砂骨角製品	10.1	1.4		1.6	12.1	シカ	角		
93	61E-Xb-405	硬砂骨角製品	2.8	1.6		1.5	8.2	不明		II-III a	
94	60D-Xb-270	硬砂骨角製品	2.6	1.6		1.6	6.4	不明			
95	61A B-Xb-1191	硬砂骨角製品	(6.3)	(1.6)		1.4	(8.7)	シカ	角	II-III a	
96	60A-Xb-703	結縷率	4.2	4.1		0.5	10.3	シカ	角座		
97	60E-Xb-631	結縷率	4.2	4.1		1.2	13.2	シカ	角座		
98	61A B-Xb-1182	結縷率	5.3	4.8		0.9	18.7	不明			
99	60A-Xb-721	織い針	3.8	0.1		0.1	0.1	不明		II-III	
100	60A-Xb-729	織い針	3.9	0.1		0.1	0.1	ウニ	鱗	II-III	
101	60A-Xb-723	織い針	2.6	0.1		0.1	0.1	不明			
102	61K L-Xb-364	織い針	2.1	0.1		0.1	0.017	不明			
103	60A-Xb-724	織い針	1.4	0.1		0.1	0.1	不明		II-III	
104	60A-Xb-725	織い針	1.5	0.1		0.1	0.017	ウニ	鱗	II-III	
105	60E-Xb-375	織い針	1.5	0.1		0.1	0.017	不明		II-III	
106	60A-Xb-735	磨石硬骨角部	6.9	4.1		1.9	71.4	シカ	角座+角+S		
107	60B-Xb-1	磨石硬骨角部	4.9	4.6		2.3	40.5	シカ	角座+角+S	k	
108	61A B-Xb-78	磨石硬骨角部	5.8	5.8		2.2	71.7	シカ	角片		
109	60D-Xb-280	磨石硬骨角部	6.4	6.6		2.5	91.1	シカ	角座		
110	60C-Xb-305	磨石硬骨角部	11.8	3.4		1.4	27.5	シカ	歯	II	
111	61A B-Xb-1193	垂飾 日類	13.2	2.4		0.6	32.2	イノシシ	歯	III b-IV	
112	61A B-Xb-1193	垂飾 日類	13.0	2.1		0.7	25.1	イノシシ	歯	II-III	
113	60E-Xb-637	垂飾 日類	6.4	1.3		1.4	9.6	イノシシ	歯	II-III	
114	60E-Xb-636	垂飾 日類	6.1	1.7		1.0	9.1	イノシシ	歯	II-III	
115	60B-Xb-150	垂飾 日類	6.6	2.1		1.6	22.1	イノシシ	歯	II	
116	60B-Xb-149	垂飾 日類	9.2	2.2		1.2	20.0	イノシシ	歯		
117	61 I-Xb-206	垂飾 日類	12.0	1.3		0.3	5.1	不明			
118	60E-Xb-622	垂飾 日類	5.3	1.3		0.2	5.3	不明			
119	60A-Xb-692	垂飾 日類	2.7	2.1		0.2	1.9	不明		II-IV	
120	60E-Xb-657	垂飾 日類	5.5	1.8		0.9	11.9	不明			
121	60E-Xb-617	垂飾 日類	2.8	0.8		0.7	0.8	不明			
122	60E-Xb-618	垂飾 日類	2.1	0.8		0.8	0.8	不明			
123	60E-Xb-616	垂飾 日類	1.9	0.5		0.4	0.5	不明		II-III	
124	60C-Xb-121	垂飾 日類	2.5	1.1		1.0	1.5	不明		II	
125	60E-Xb-615	垂飾 日類	1.9	0.5		0.5	0.5	不明		II-III	
126	60C-Xb-121	垂飾 日類	2.8	1.1		0.9	1.6	不明		II	
127	60E-Xb-619	垂飾 日類	2.9	1.1		0.8	1.7	不明			



16	登録番号	種別	A(組)	B(個)	C(種)	D(付2)	E(付3)	重量	種	部位	時期	
128	60E-Xb-623	垂飾 日組	1.1	1.0				1.0	0.6	トリ	不明	II-III
129	60E-Xb-646	垂飾 日組	1.5	1.3				1.0	0.9	トリ	不明	II
130	60E-Xb-648	垂飾 日組	1.8	1.0				0.9	0.9	トリ	不明	II-III
131	60G日-Xb-10	垂飾 日組	1.0	1.0				1.0	0.3	ヤカナ	横竹	
										サメ		
132	61C-Xb-109	垂飾 日組	2.7	1.1			2.6		4.3	ヤカナ	横竹	IV
133	60A-Xb-734	垂飾 日組	2.3	0.9			2.3		3.4	ヤカナ	横竹	
134	60D-Xb-279	垂飾 日組	2.9	1.6			2.9		11.8	ヤカナ	横竹	II-III
135	60C-Xb-304	垂飾 日組	2.9	1.5			3.1		8.2	ヤカナ	横竹	
136	60E-Xb-640	垂飾 日組	3.2	1.5			3.1		9.9	ヤカナ	横竹	II-III
137	60E-Xb-629	垂飾 日組	3.9	2.5			3.9		16.0	ヤカナ	横竹	
138	60A-Xb-350	垂飾 日組	2.1	2.0			2.2		0.6	ヤカナ	横竹片	
										サメ		
139	60A-Xb-693	加工品 日組	(6.8)	1.7			0.4		(6.0)	不明		II-III a
140	60E-Xb-641	加工品 日組	(3.1)	1.6			0.2		(0.8)	不明		II-III
141	60A-Xb-702	加工品 日組	(3.8)	0.5			0.4		(0.7)	不明		III-IV
142	61I-Xb-212	加工品 日組	(6.4)	0.8			0.7		(2.9)	不明	胸竹	
143	61E-Xb-402	加工品 日組	8.2	3.3	3.3		3.5	2.9	84.1	シカ	角	
144	61A B-Xb-1181	加工品 1組	20.3	1.0			0.6		15.3	シカ	中子骨or中足骨	II-III a
145	60A-Xb-728	加工品 1組	(7.3)	0.7			0.7		(4.1)	シカ	角	II-III
146	60A-Xb-727	加工品 1組	(2.7)	0.6			0.5		(1.4)	シカ	角	II-III
147	60A-Xb-720	加工品 1組	(1.9)	0.5			0.3		(0.5)	不明		III-IV
148	60A-Xb-343	加工品 1組	(2.6)	0.5			0.4		(0.6)	不明		II-III
149	60A-Xb-719	加工品 1組	(6.8)	0.5			0.3		(1.3)	不明		II-III
150	61E-Xb-411	加工品 1組	(10.2)	0.6			0.6		(2.9)	不明		II-III a
151	60A-Xb-718	加工品 1組	(10.0)	0.5			0.4		(2.2)	不明		III-IV
152	60A-Xb-694	加工品 1組?	(6.2)	1.0			0.3			不明		II-IV
153	60A-Xb-689	加工品 1組?	(6.2)	1.0			0.3		(2.7)	不明		
154	60E-Xb-609	加工品 1組?	(10.0)	0.9			0.6		(5.3)	シカ	角	II-III
155	60A-Xb-691	不明	3.9	0.7	0.4		0.6	0.4	1.5	不明		
156	61A B-Xb-1202	不明	4.6	2.1			0.5		5.1	不明		
157	60E-Xb-647	不明	(5.2)	1.3			0.9		(2.2)	シカ	角	II
158	60A-Xb-731	不明	4.7	0.9			1.1		2.8	イノシシ	角	V-VI
159	60A-Xb-347	不明	5.5	1.4			1.5		6.2	シカ	角	III-IV
160	60D-Xb-264	不明	6.1	2.0			1.3		6.2	シカ	角	
161	61K L-Xb-366	不明	(6.8)	0.2			0.1		(0.1)	不明		
162	60D-Xb-272	不明	3.8	0.9			0.4		1.2	シカ	角	
163	61C-Xb-108	不明	4.0	0.9			0.9		2.5	不明		
164	60E-Xb-632	不明	7.0	0.6			0.6		2.7	イノシシ	角片	
165	60E-Xb-624	不明	2.6	0.7			0.4		0.7	イノシシ		
166	61I-Xb-208	不明	8.9	2.3			1.2		14.7	シカ	角	IV
167	61A B-Xb-1208	加工品 日組	(31.2)	(4.1)	(3.1)	(1.7)			(10.0)	不明		II-III a
168	61K L-Xb-367	加工品 日組	(17.7)	(6.2)		(2.7)			(55.0)	シカ	肩甲骨	IV
169	60E-Xb-345	加工品 日組	(5.8)	(3.0)		(1.7)			(12.5)	シカ	肩甲骨	
170	61A B-Xb-885	加工品 日組	(9.7)	(3.4)		(0.9)			(9.3)	シカ	肩甲骨	II-III a
171	61A B-Xb-1174	加工品 日組	(24.5)	(11.5)		(9.2)			(53.1)	イノシシ	下顎骨	II

第1章 資料の分類

1. 鋼鉄…54

(1)出土状況…54 (2)各部の特徴…54

2. 小形仿製鏡…55

3. 銅鍍・その他…57

(1)銅鍍…57 (2)その他…57

金属製品出土遺構一覧表…57

金属製品一覧表…58

# 第1章 資料の分類

## 1. 銅鐸

### (1) 出土状態

1の銅鐸は『朝日遺跡1』1991で記載されたとおり、V期に掘削された二重の環濠と同じくV期の方形周溝墓S2245の間より出土した。銅鐸は土坑内に横位の状態で見納されていたため、上位側にあたる鏝、A面の身の一部、B面の身の1/4が欠損し、B面の右半分が内側に湾曲して数片に割れていた。これらの欠損や湾曲は、埋納後の擾乱による打撃によって起こったものであるが、破面の観察によると、ごく最近のものではないと考えられる。また、器面全体には薄くではあるが埋土や植物根が強固に付着していた。そのため、器壁が剝離する恐れがあるためクリーニングが細部まで行えない部分がある箇所があり、文様などが不明瞭な部分が見られる。

### (2) 各部の特徴

銅鐸の大きさは、鐸高46.3cm、身高33.2cm・身幅(現状26.3cm)、底部直径(現状23.4cm)・底部短径16.2cm、鈕高13.1cm・鈕孔高3.5cm・鈕孔幅3.8cm、舞長径(現状15.0cm)・舞短径11.6cm、鏝最下部幅2.9cmを測る。

鈕 鈕はA面・B面とも、外縁2区・菱環・内縁の4区に分かれる。

A面の外縁には外区・内区があって、相対する鋸歯文が配されており、それぞれの鋸歯文内には

平行斜線が交互方向につけられている。

B面の外縁にも外区・内区があり、鋸歯文が配されるが、A面と違って両区のものとも内側を向く。鋸歯文内には交互方向の平行斜線がつけられる。

鋸歯文につけられた平行斜線のうち、A面の外区の右から1番目と2番目、内区の右から4番目と5番目、B面の外区の右から7番目と8番目、内区の2番目と3番目、左から7番目と8番目が同方向に走っている。また、A・B面とも最下段の鋸歯文は、通常の半単位になっている。

菱環はA・B面とも、外縁と内縁と内縁の境にやや幅のある突線を配することによって、上下に区切られ、さらにそれが3本1単位の突線5組によって4分割されている。各区内には、それぞれ異方向の綾杉文が施されている。

内縁には4単位の重弧文がある。A面の重弧文はそれぞれ開放することなく菱環側で閉じるが、B面の弧文のうち外側の幾本かは、そのまま菱環につながっている。

舞 舞には2個の円形の舞孔があり、中央部に鈕脚壁が見られる。

鏝 A・B面とも、上端4本、下端3本の突線によって区切られ、双耳の飾耳が上端につく。内側には鏝の外縁の外区と続くように内向する鋸歯文が施され、鋸歯文内には交互方向の平行斜線がつけられている。ただ、この平行斜線も鏝の場合と



第15図 銅鑄鏡脚盤 (左)と内面(右)

同様、A面では最下位のものから上に4番目と5番目、8番目と9番目のものが、B面では8番目と9番目のものが同方向を向く。

身 A・B面とも、2本も突線(最下位のもの3本)によって区切られた縦帯3帯、横帯3帯によって4区に分けられ、さらにその下に下辺横帯がある。縦・横帯には斜格子文、下辺横帯には異方向の平行斜線をもつ上向きの副歯文がつけられている。縦・横帯の関係は、上下部分では横帯が縦帯を切っているが、中央交差部では斜格子文そのものに切り合いはなく、縦帯と横帯の交差する

区画の斜格子文とそれに隣接する上下左右の区画の斜格子文の方向はそれぞれ異なっている。

型特孔は、上位の区画に2ヶ所、下端に2ヶ所みられる。

身には所々に鑄造時の湯廻りが悪くて生じたと思われる文様の不鮮明な部分が見られ、特に下位も1/3程度には果が多く発生している。

内面 下位3cm程のところから1条の内面突帯が回り、真土かと思われる白い細粒の砂が部分的に固着していた。

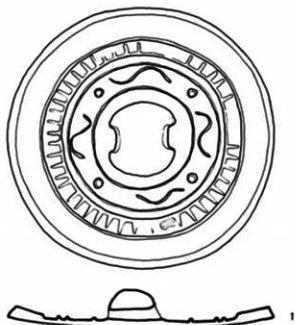
## 2. 小形仿製鏡 (第16・17図)

面径71mm、厚さ約2mmの小形の仿製鏡。縁端部は部分的に欠落するも、全体に残存状況は良好である。保存環境による植物残渣が鏡背部分に認められ、また錆で覆われているため文様の確認に支障をきたしている。そのため、鏡背の文様はX線写真により推定している部分が多い。鏡面は2mm前後の僅かな反りを形成している。現状での色調は10YR5/3(標準土色帳 日本色彩研究所)に近い黄褐色。

鏡背はまず、中央が高く大きな半球形の鈕があり、1条の圏線による鈕座が存在する。鈕の径20mm、鏡面からの高さ10mmを測る。鈕孔は半円形

(6mm×5mm・6mm×4mm)で、使用による摩耗が一方に偏る。内区の文様帯には四方に小さな径4mmほどの孔が見られ、その間を細線によるS字状文が4ヶ確認できる。その外には2条の圏線が回り、さらに樹文文帯が配される。外区は平縁で、段を構成し徐々に厚さを増しつつ縁部に至る。上面幅8mm、端部の厚さ3mmを測る。重量62.6g。

本鏡は大きく「四蛇鏡」系の系統と考えられるものであり、「S字状文仿製鏡」の範疇でとらえることができるであろう<sup>(1)</sup>。ただし、高倉A類とするよりも、鏡背文様の構成や時期的な問題を考慮すると、別系統を想定したほうがよい。なお、面径



第16図 小形仿製鏡

および鈕・内区の配置から極めて類似する資料を捜すと、四孔が欠損し、やや圏線が増加する資料であるが、栃木県茂原愛宕塚古墳出土<sup>(2)</sup>のものが考えられよう。

ところで鏡の出土状況は、61H区の前古墳時代に所属する竪穴住居S B110に近接した包含層中より出土している。さらに、出土地点がS字状口縁甕C類古段階の資料がみついているS B109を代表とする古墳時代住居群に含まれることから、朝日罹期を大きく降るものではないであろう。このことは愛宕塚古墳の造営時期からも矛盾はない。<sup>(3)</sup>したがって、庄内式期新段階から布留式期古段の中に所属時期を置くことができるであろう。

(1) 高倉洋彰1981「S字状文仿製鏡の成立過程」『九州歴史資料館研究論集』7

(2) 久保智三1991「下野茂原古墳群」

(3) 愛宕塚古墳の造営時期は、出土した土器から濃尾平野廻間田式前半期を中心とすると考えてよからう。またS B109出土土器は廻間田式2段階の資料であり、ほぼ同様な時期となる。ただ鏡背文様の構成からは、朝日遺跡出土品がより古い要素を残す資料とならう。



第17図 小形仿製鏡

### 3. 銅鏃・その他

#### (1) 銅鏃

I類 (2-10・20) 柳葉形に近い形を呈するもので、基部との境が明瞭である。2-6は肩部が丸く、7-9は明瞭な肩部がみられる。2は肩部に最大径があり、先端部に至るまで丸みを帯びており、直線的な他のものとは異なる。また、身部の下端が凹状に丸く挟られている。8は全体に細かい凹凸があり、荒れた器面をなしている。9は身及び基部ともに短い。ただ、基部に関しては欠損後も再使用していた可能性がある。10は、身部欠損後も鏃形に再加工して使用している。

II類 (11-13) 身部と基部の境界がはっきりせず、鈍角をなすもので、身部が柳葉形をなす。12・13はI類に類似する身部に短い基部が付く。11は身部の最大径が肩部にあるもので、基部は長い。

III類 (14-16) 身部が柳葉形をなすもので、無茎である。

三稜鏃 (17) 17は、断面形が正三角形をなす三稜鏃になる。

#### (2) その他 (19-22)

18は薄手の青銅製品の端部で、左・上部が破損している。下部には水平方向に肥厚している部分があり、器面は細かい凹凸があり、やや荒れている。破面である左・上面とも、よく磨滅しており、破損後に手を加えられた可能性もある。

25は内側にゆるやかに湾曲する青銅製品で、銅環か銅釦になるものと考えられる。器面はやや荒れている。

19も青銅製品で、やや湾曲する長い三角形の板の底辺に突起部があり、凹面には軸状の突起部がつく。

22は中央部が肥厚する楕円形の青銅製品で、両端に孔が開けられている。

23・24は刀子または刀の先端部にあたるもので、遺存状態は極めて脆くなっている。

19-21は弥生時代～古墳時代になる。

ドーム状の半円形をなす21は中世の包含層より出土した。

金属器出土遺構一覧表

図版	出土遺構
1	89B 埋納土坑
2	61K L 検出
3	61K L 検出
4	61K L 検出
5	63G 検出
6	89A 検出
7	61K L 検出
8	S D X VI
9	60A 検出
10	61K L 検出
11	89B 検出
12	61H 検出
13	61K L 検出

図版	出土遺構
14	61K L 検出
15	61K L 検出
16	61K L 検出
17	61H 検出
18	61H 検出
19	60A 検出
20	60H S K 44
21	60A 検出
22	63D E 検出
23	61E S D 02
24	S D V
25	89D 検出
第16図1	61H 検出

金屬器一覽表

(單位:cm, g)

圖版	登錄番号	種別	A (縱)	B (橫)	C (橫)	D (厚さ)	E (厚さ)	重量	時期
1	89B-M-1	銅鐸	46.3	(15.0)	(26.3)	11.6	16.2		V
2	61KL-M-1	銅鏡	3.3	0.9	0.3	0.4	0.3	3.6	
3	61KL-M-2	銅鏡	3.4	0.9	0.4	0.4	0.3	3.0	
4	61KL-M-3	銅鏡	3.0	0.8	0.4	0.4	0.4	3.0	
5	63GH-M-1	銅鏡	3.2	0.8	0.3	0.4	0.4	2.5	
6	89A-M-1	銅鏡	3.3	1.0	0.3	0.4	0.3	2.9	
7	61KL-M-4	銅鏡	3.3	0.8	0.3	0.4	0.3	2.6	
8	89B-M-1	銅鏡	3.6	1.0	0.3	0.4	0.3	3.6	VI
9	60A-M-1	銅鏡	1.9	0.8	0.2	0.4	0.2	1.2	
10	61KL-M-5	銅鏡	3.2	0.9	0.4	0.2	0.3	1.5	
11	89B-M-2	銅鏡	3.7	0.8	0.3	0.3	0.2	1.8	
12	61J-M-1	銅鏡	3.2	0.9	0.3	0.2	0.2	1.6	
13	61KL-M-6	銅鏡	2.8	0.7	0.2	0.4	0.2	1.5	
14	61KL-M-7	銅鏡	2.0	0.7		0.3		1.0	
15	61KL-M-8	銅鏡	1.9	0.6		0.2		1.1	
16	61KL-M-9	銅鏡	2.1	0.7		0.3		0.9	
17	61J-M-2	銅鏡	4.4	0.7	0.5	0.6	0.4	4.7	
18	61J-M-3	不明	(3.5)	(3.1)		(0.2)		(10.5)	
19	60A-M-3	不明	8.9	1.1	2.3	0.2	0.5	9.0	
20	60H-M-1	不明	(2.4)	0.4	0.3	0.2		(0.5)	中世-近世
21	60A-M-2	不明	1.2	1.7 R		0.1		1.6	中世
22	63D-M-1	不明	3.6	1.7		1.4		21.2	
23	61E-M-1	刀子or刀	(9.3)	3.0		0.8		(22.6)	III b
24	61I-M-1	刀子	(3.8)	1.0		0.4		(2.3)	V
25	89D-M-1	銅鐸or銅環	(2.2)	(0.5)		(0.2)		(1.2)	
第16圖1	61KL-M-10	小型付製鏡	7.1	7.1		0.2		62.6	

付載 朝日遺跡遺構対照表

S D

別表頁次	別表欄番号	別表欄番号	時期	備考
	S D 1	60A S D07 60B C D S D07 60E F G S D14 61A B S D01	V	
	S D 1 a	60B C D S D02 - B 60E F G S D13	II - III a	S X 03.2 9 西
	S D 1 b	60B C D S D02 61A B S D20 (10)	II	S X 03.2 9 東 上層部 a 中層部 - III a
	S D 1 西	60A S D06 60B C D S D05 (10) 61A B S D29 61C S D10	II - III a	
	S D 1 a	60A S D10 60B C D S D06 61A B S D21 61C S D09	II	60A 11 西 上層部 a
	S D 1 b	60A S D10	II	60A 11 東 上層部 a
	S D V	60A S D01, 03 61D S D02 61H I S D01 61 J S D01	V	
	S D V b	61D S D01	V	
	S D V c	61D S D04	V	
	S D 西	60A S D01, 03 61D S D02 61H I S D01 61 J S D01	西	西層部
	S D 西 b	61D S D01	西	
	S D 東	60A S D04 61 J S D02	V 東 - 西	
	S D 東	61A B S D02 61C S D07	東	
	S D 東	61D S D03	V 東 - 西	
	S D X - 1	61K L S D01 60A S D11 b	II	
	S D X - 2	61K L S D01 60A S D11 b	III	
	S D X 1	61K L S D01 60A S D11 a	IV	
	S D X 2	61L S K73	V	
	S D X 西	61M S D01 61N S D05, 07 61A S D01	II - III	
	S D X 東	61M S D07 61N S D01 61A S D01	V -	
	S D X V	61L S D01 60B S D01	V	
	S D X 西	61L S D01 60B S D01	西	
	S D X 東	61L S D02 60B S D02	V	
	S D X 東	61Q S D18 61R S S D11	東 -	
56A	S D01	56A S D007		
	S D02	56A		
	S D03	56A S D005, 005		
	S D04	56A S D001		
	S D05	56A S D002	II 11 西	
	S D06	56A S D003	II 11 東	
	S D07	56A S D004		
	S D08	56A S D008	電山跡	
56B	S D01	56B S D014	I	
	S D02	56B S D012		
	S D03	56B S D015		
60A	S D01	60A S D02	西	
	S D02	60A S D09	東	
	S D03	60A S D05	東	
	S D04	60A S D12	西	
60B	S D01	60B C D S D23	V	
	S D02	60B C D	II - III	
	S D03	60B C D S D11	II - III	
	S D04	60B C D S D10	II - III	
	S D05	60B C D S D09	II - III	
60E	S D01	60E F G S D01	II -	西層部 西
	S D02	60E F G S D12	II	
	S D03	60E F G S D11	III a	
	S D04	60E F G S D10	II - III	
	S D05	60E F G	II	
	S D06 a	60E F G S D02	II	
	S D06 b	60E F G S D09	II	
	S D06 c	60E F G S D04	II or V	
	S D07	60E F G S D04	III	上層部 -
	S D08	60E F G S D01	II -	
	S D09	60E F G S D05	- V	
60H	S D01	I A W - 60 D S D14		



新 測 查 区	新 測 標 号	旧 測 標 号	特 記	備 考
60H	S D02	I AW-60D S D15		
60 I	S D01	60A S D08	II	
41A	S D01	41A B S D10		
	S D02	41A B S D06		日本-国 a
61C	S D01	61C S D12	II	
	S D02	61C S D06		
61E	S D01	61E F S D20	II-国 a (国 b-01)	上層部 b-F
	S D02	61E F S D01		
	S D03	61E F S D02		
	S D04	61E F S D03, 18		
		61G S D04		
	S D05	61E F S D18		
	S D06	61E F S D18		
	S D07	61E F S D17		
	S D08	61E F S D09		
	S D09	61E F S D10		
	S D10	61E F S D07		
	S D11	61G S D11		
	S D12	61G S D08		
	S D13	61G S D09		
	S D14	61G S D05	II-国 a	
	S D15	61G S D10	II-国 a	
	S D16	61G S D19		
	S D17	61G S D23	II-国 b	
		61 I S D13		
	S D18	61G S D24	II-国 a	
		61 J S D08		
	S D19	61 I S D04	IV	
	S D20	61 I S D06	II	上層部 a-F
	S D21	61E F S D01	V	上層部-
	S D22	61E F S D02	V	上層部-
	S D23	61E F S D03, 18	V	内層部-
		61G S D01		
61H	S D01	61H S D05		
	S D02	61 J S D03	V	
41T	S D01	41U S D07		
42A	S D01	42A S D17		
	S D02	42A S D13		
42B	S D01	42B S D03		
42C	S D01	42C S D01		
42D	S D01	42D S D04		
42E	S D01	42E S D01		
	S D01	42H S D01		
42 J	S D01	42 J S D02		
43B	S D01	43B S D01	II-国 a	
	S D02	43B S D03		
	S D03	43B S D02	IV	
	S D04	43B S D201	V	63日現地
43D	S D01	43D E S D01	V	
	S D02	43D E S D02	V a-国	
	S D03	43D E S D04	V	
	S D04	43D E S D07	IV	
	S D05	43D E S D06	国 b-F	
	S D06	43D E S D08	II	
	S D07	43D E S D03	国 b-F	
43 J	S D01	43 J S B13	V	
43N	S D01	43N		
	S D02	43N S D10	II	
	S D03	43N S D13	II	

## S X

新 測 查 区	新 測 標 号	旧 測 標 号	特 記	備 考
S X 1		60A 60B 60E 41A 61A (机群)		
56A	S X 01	56A S R008 (1层机)	IV	
60A	S X 01	60A S D11		上層部
	S X 02	60A (S D10定機)		
60B	S X 01	60B C D S D24	IV	
	S X 02	60B C D (S D07定機)	V面下	
	S X 03	60B C D (S D02 S D02 - B 7機機)		
60E	S X 01	60E F G (1层机)		
	S X 02	60E F G (1层机%2)	II	
	S X 03	60E F G S D09	II・国 a 机占-	
	S X 04	60E F G 61A (机群)	V-	
61A	S X 01	41A B S D05		
	S X 02	41A B S D04		
	S X 03	41A B S X 01	IV	
	S X 04	41A B 61A (集石)	田口陣	
41E	S X 01	61E F S R57		
	S X 02	61G S D02		
	S X 03	61G S D03		
41H	S X 01 a	61 I (S D01部分)		上層部-V
	S X 01 b	61 J (S D01部分)		
	S X 02	61 J	田口陣	上層部-V
	S X 03	41H 61A	六塔	
	S X 04	61H 61A	六塔	
61M	S X 01	61M (1层机)		

新 測 查 区	新 測 標 号	旧 測 標 号	特 別 備 考
	S X02 a	01M (R群)	
	S X02 b	01M (R群)	当年度测标下 - 5 + 代
01T	S X01	01U S K03 (1期相)	当年度测标下 - 5 + 代
02A	S X01	02A	00 + 7
	S X02	02A S 001	
03A	S X01	02A S X01	
03B	S X01	03B S D200 S K215	擴大
03D	S X01	03D E S K05	0 - 10 a
03G	S X01	03G H [D E G H] S D101	V
			0 - V

## S E

新 測 查 区	新 測 標 号	旧 測 標 号	特 別 備 考
01H	S E01	01 I S E02	W
	S E02	01 I S E03	W
	S E03	01 I S E01	W
	S E04	01 J [ 5 ] S E04	W
02C	S E01	02C S E01	
02H	S E01	02H S E01	
02 I	S E01	02 I S E01	W
02 J	S E01	02 J S E01	W ?
			1期相本

## S A

新 測 查 区	新 測 標 号	旧 測 標 号	特 別 備 考
00B	S A01	00B C D S K54 P226 233 227 221	00 + 8/6
	S A02		
	S A03		0 ?
	S A04		0 ?
01A	S A01	01A B P27	00 + 10 a
01C	S A01	01C P26 46 27	0
01D	S A01	01D P25 39 216	00 + 10
	S A02	01D P329 383 384 385 388 389 603	00 + 10
01E	S A01	01G P28 71 75 76 66 50 49 46 74 02 01	00 + 10 b
	S A02	01 I P238 241 212 196 201	00 + 10 b
	S A03	01 I P189 190 191 221 224 181 179 177 172 185 170	00 + 10 b
	S A04	01 I P146 144 124 123 126 127	00 + 10 b
01H	S A01	01K L [17] S K17 11 21 02 P27 21 20 6 4 1	V
01N	S A01	01R S	0
02A	S A01	02A P61 02 03 04 77 00 30 06	0 ?
02E	S A01	02E P 6 7 8 9 10 11 12	0
03A	S A01	03A P 5 6 7 10 3 1	0
03G	S A01	03G [A] S K108 117 106 124 [D] S K105 111	W

## S H

新 測 查 区	新 測 標 号	旧 測 標 号	特 別 備 考
00B	S H01	00B C D S A01	00 + 10 a
01C	S H01	01C P396 36 34 33 32 34 26 23 17 3	0
01D	S H01	01D P319 324	0
	S H02	01D P492 086	0
	S H03	01D P501 502 503 504 505	0
01T	S H01	01T U	W
	S H02	01T U	W
02H	S H01	02H P 6 7 8 9 10	W
	S H02	02H P 1 2 3 4 5	W
	S H03	02H P 3 17	W

## 図版

## 第IV部 木製品

1.....1~4	2.....5・6	3.....7~11
4.....11~16	5.....17~26	6.....27~29
7.....30~33	8.....34~36	9.....37~39
10.....40~43	11.....44~47	12.....48~52
13.....53~56	14.....57~59	15.....60~62
16.....63~68	17.....69~74	18.....75~80
19.....81~88	20.....89~94	21.....95~98
22.....99~104	23.....105~108	24.....109・110
25.....111~115	26.....116~118	27.....119~123
28.....124~131	29.....132~138	30.....139~142
31.....143~151	32.....152~159	33.....160~169
34.....167~179	35.....180~186	36.....187~190
37.....191~194	38.....195~197	39.....198~202
40.....203~205	41.....206~208	42.....209~213
43.....214~220	44.....221~229	45.....230~235
46.....236~240	47.....241~247	48.....248~256
49.....257~263	50.....264~272	51.....273~281
52.....282~287	53.....288~299	54.....300~305
55.....306~308	56.....309~314	57.....315~317
58.....318~320	59.....321	60.....322~326
61.....327・328	62.....329~333	63.....334~337
64.....338~342	65.....343~346	66.....347~356
67.....357~372	68.....373~382	69.....383~392
70.....393~402	71.....403~408	72.....409~413
73.....414~418	74.....419~423	

## 第V部 骨角製品

75.....1~12	76.....13~25	77.....27~44
78.....45~59	79.....60~68	80.....69~81
81.....82~95	82.....96~110	83.....111~120
84.....121~143	85.....144~166	86.....167~170
87.....171		

## 第VI部 金属製品

88-89-90.....1	91.....2~17	92.....18~25
----------------	-------------	--------------

## 写真図版

## 第IV部 木製品

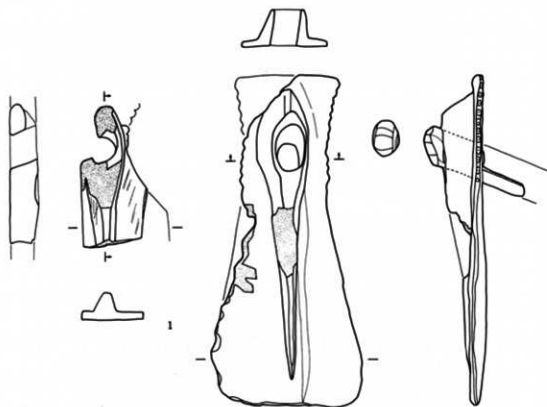
4.....2・7・10・12・18・24
5.....5・6・10・24・30~33・37
6.....44~46・53・54・56~59
7.....60・62・63・65・71・74・76・79・80
8.....81・82・84・85・89・91・96・97・100~102・105
9.....124・125・127・130・131・139・141・142・145 169・175
10.....156・158・169・175・187・196・197・201~204 206・208
11.....217・222・226・229・232・234・243・247・244 296・297・300・301・304・305
12.....303・307・308・316~318・324
13.....322・323・325~328

## 第V部 骨角製品

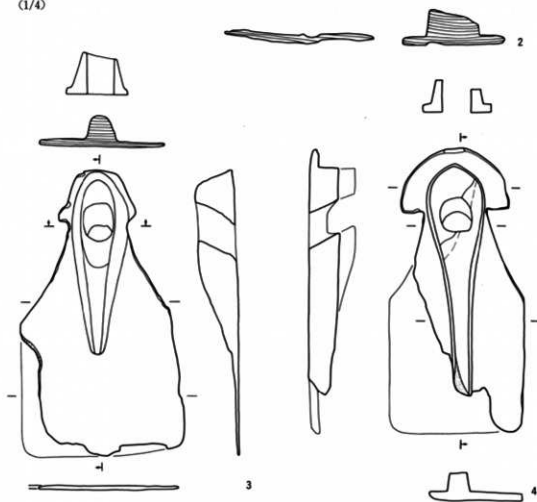
14.....1~20
15.....22~31
16.....32~51・53~59
17.....60~63・65・67・70~73・76~78・80・81・92・95
18.....82~91・96~106・108・110
19.....111~120
20.....121~137・139・140・142・144~152
21.....167~171
22.....第14圖1~3

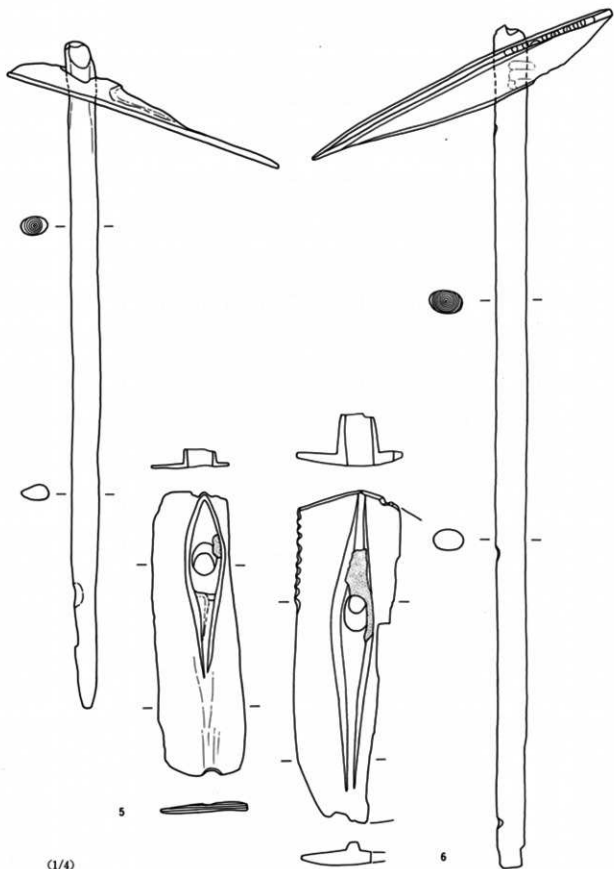
## 第VI部 金属製品

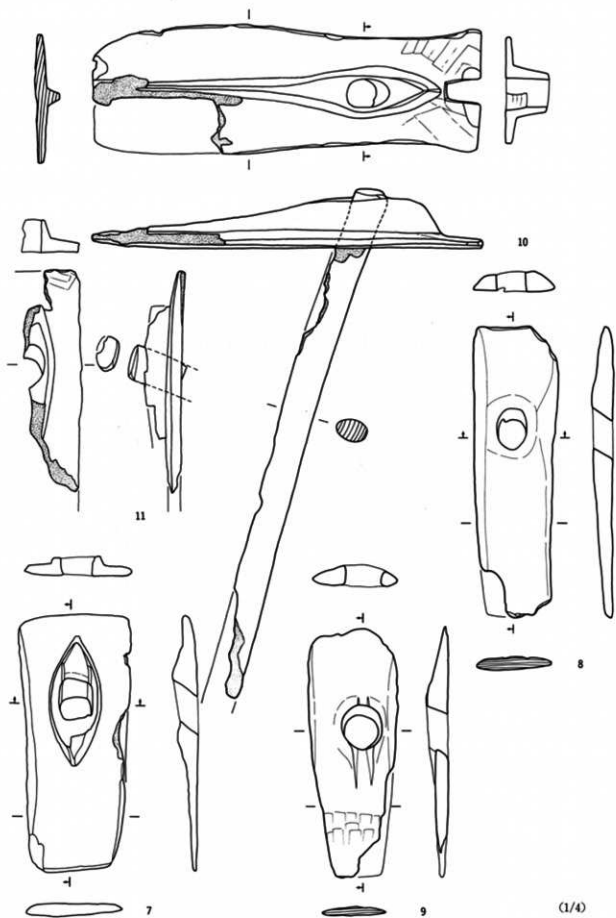
1~3.....1
22.....2~18・23・25
23・24・25・26.....出土状態写真

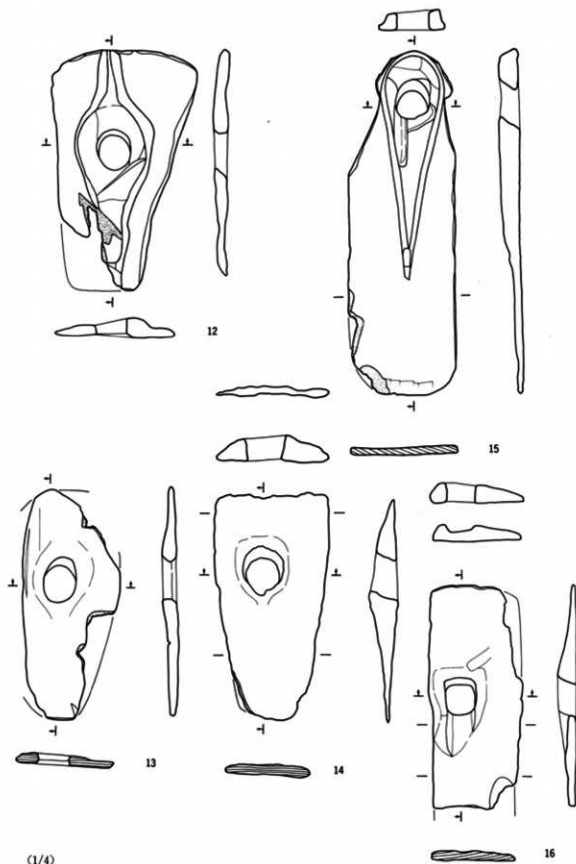


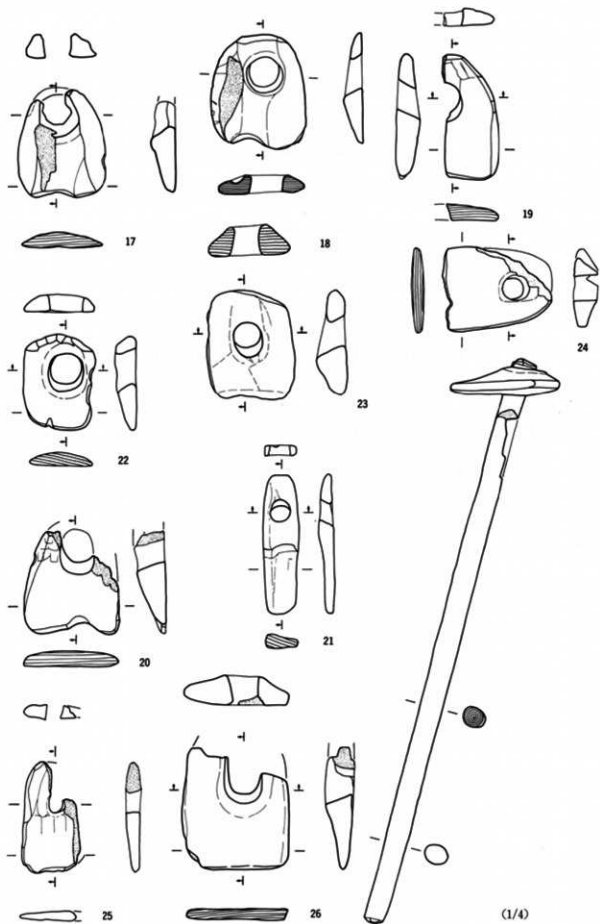
(1/4)



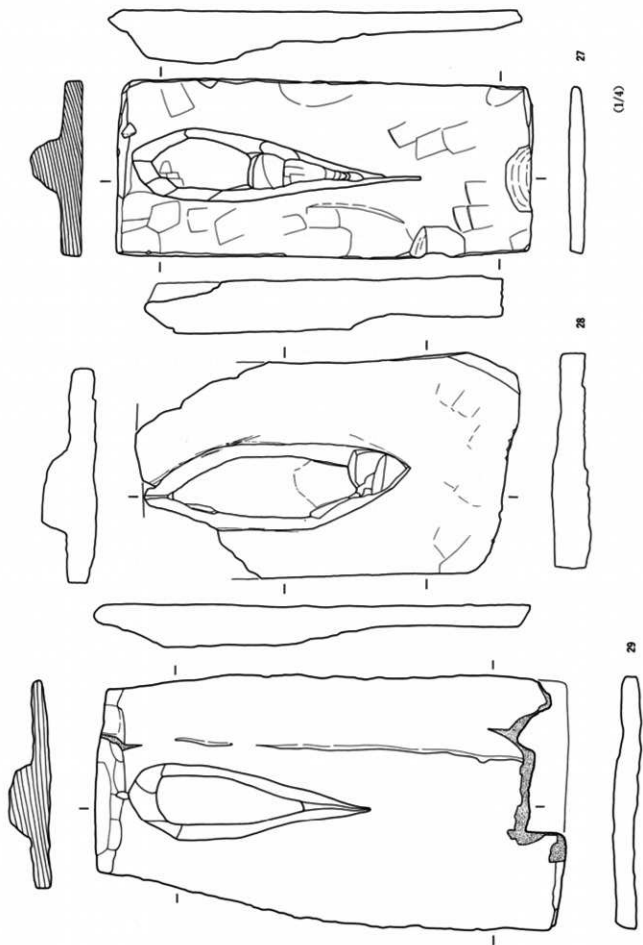


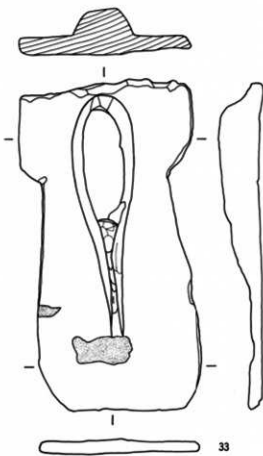
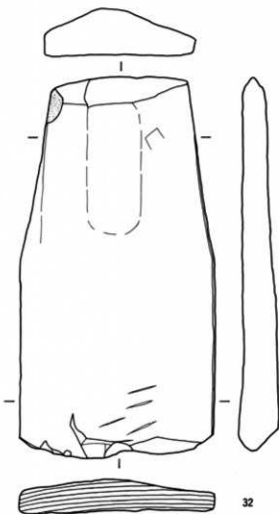
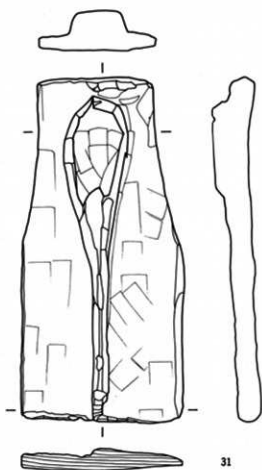
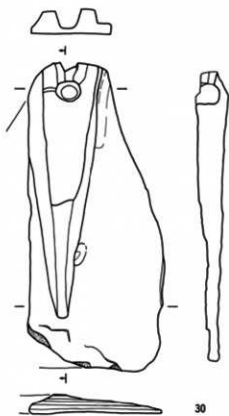


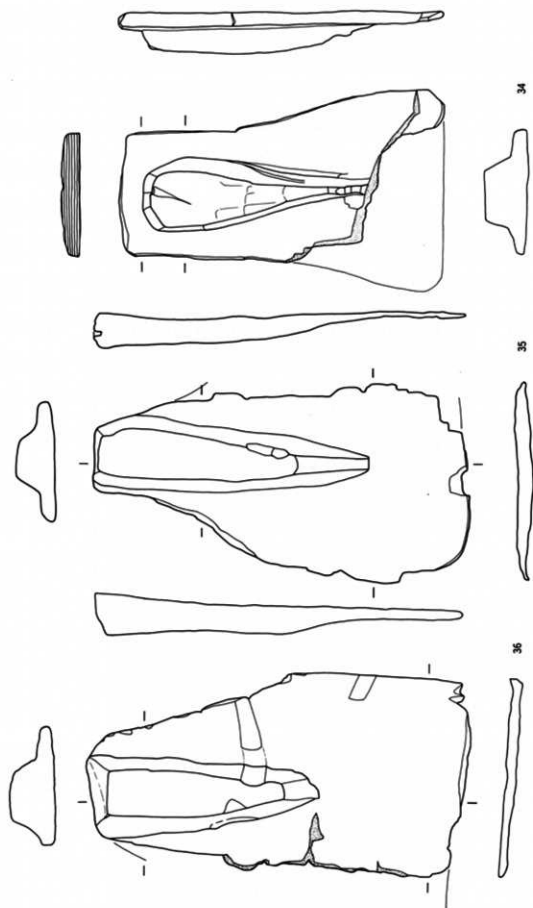


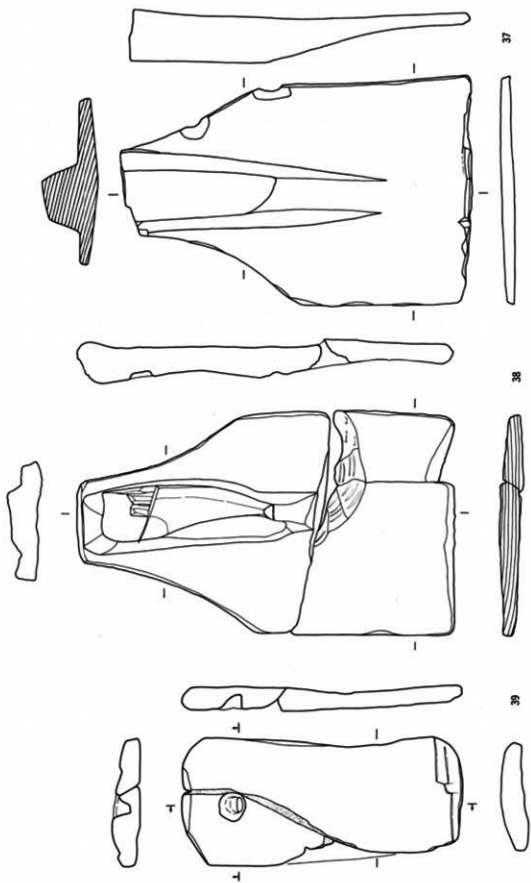




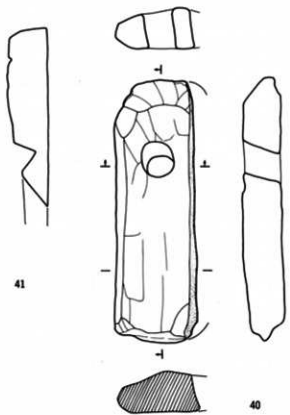
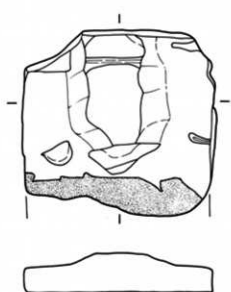






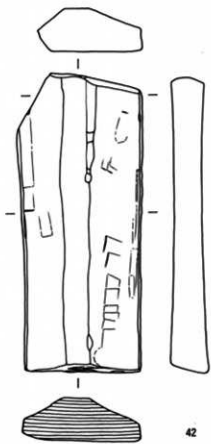


(1/4)

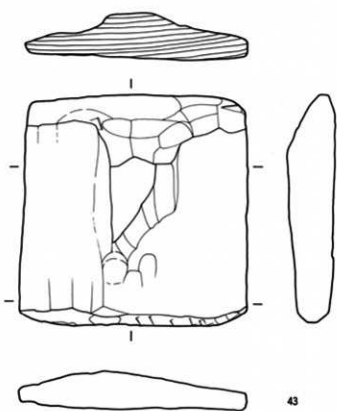


41

40



42

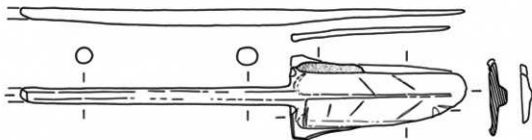


43

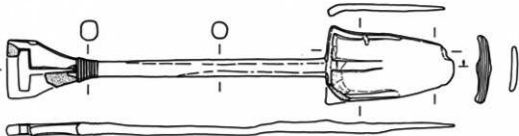
(1/4)



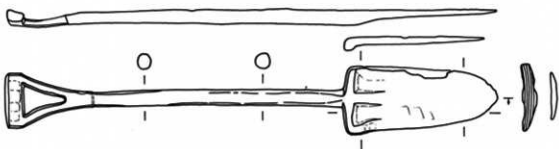
44



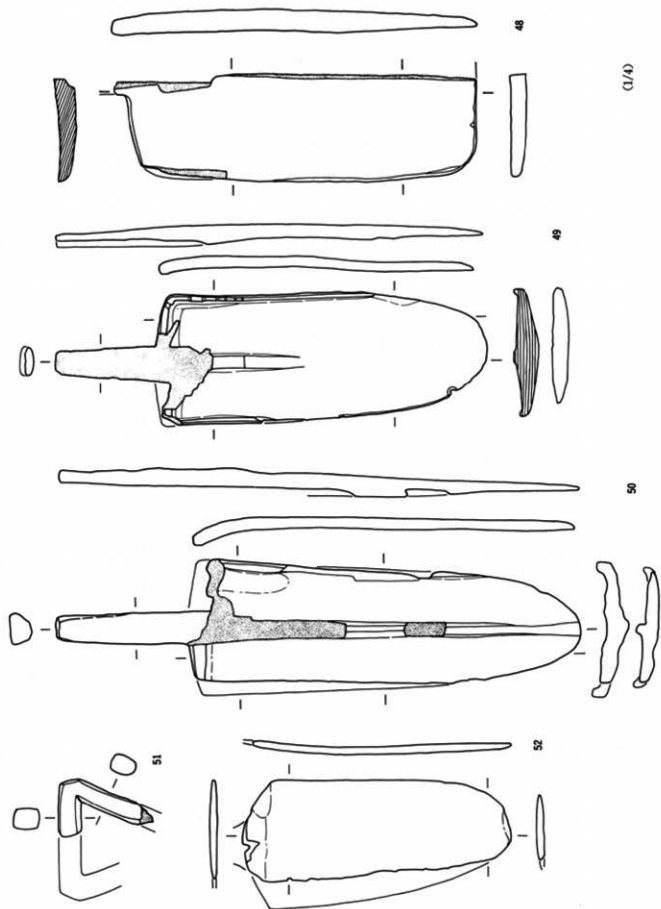
45

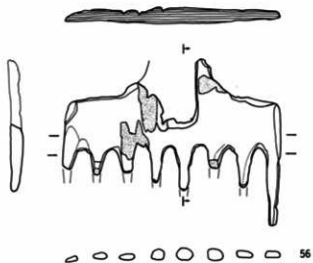
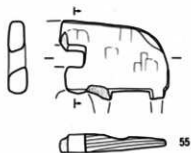
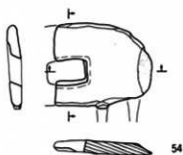
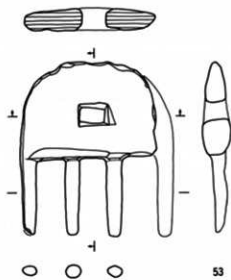


46

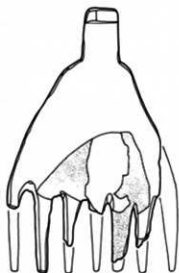
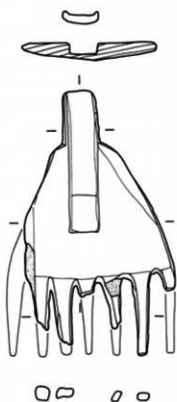


47

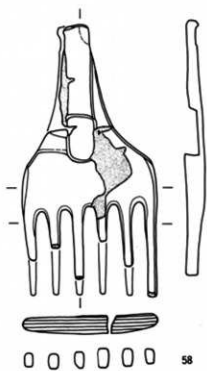




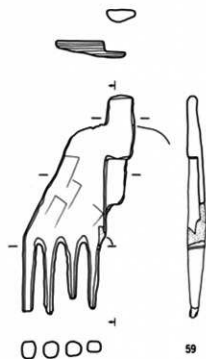




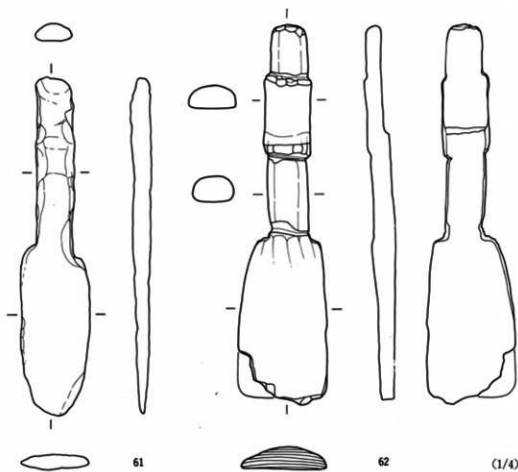
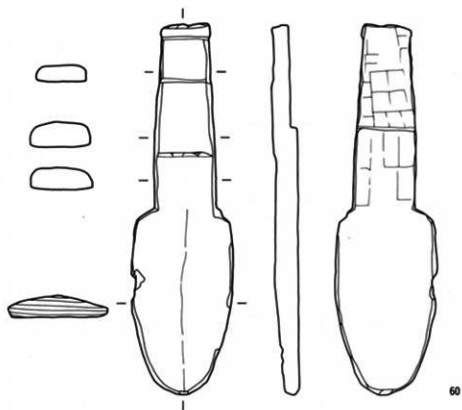
57

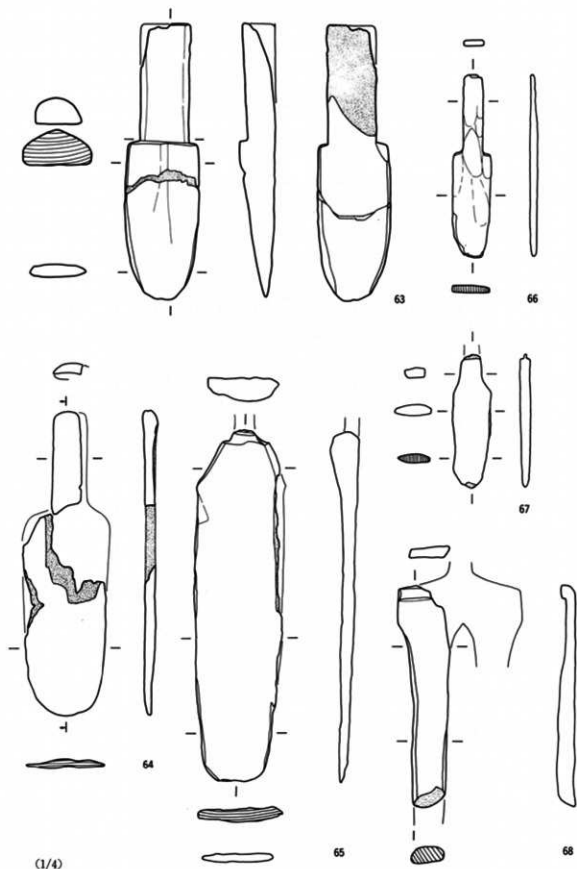


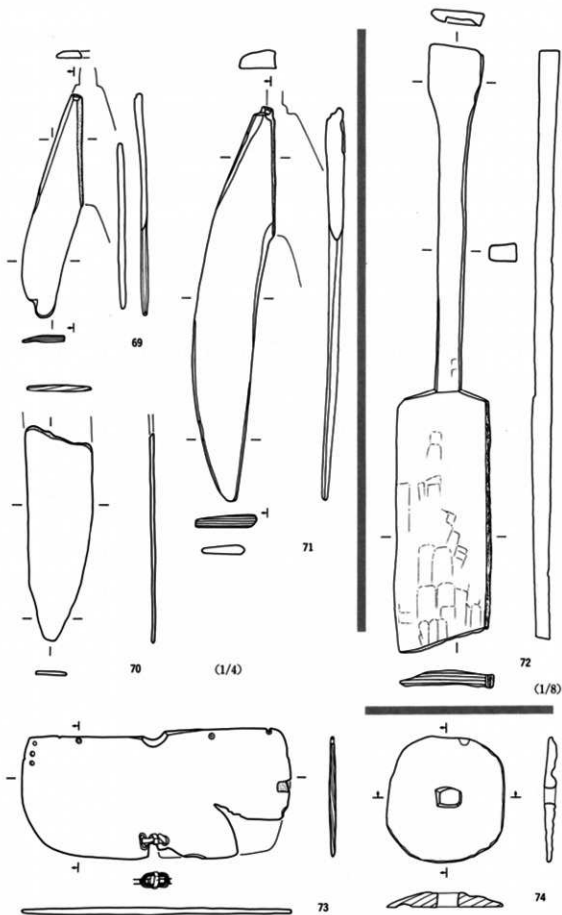
58

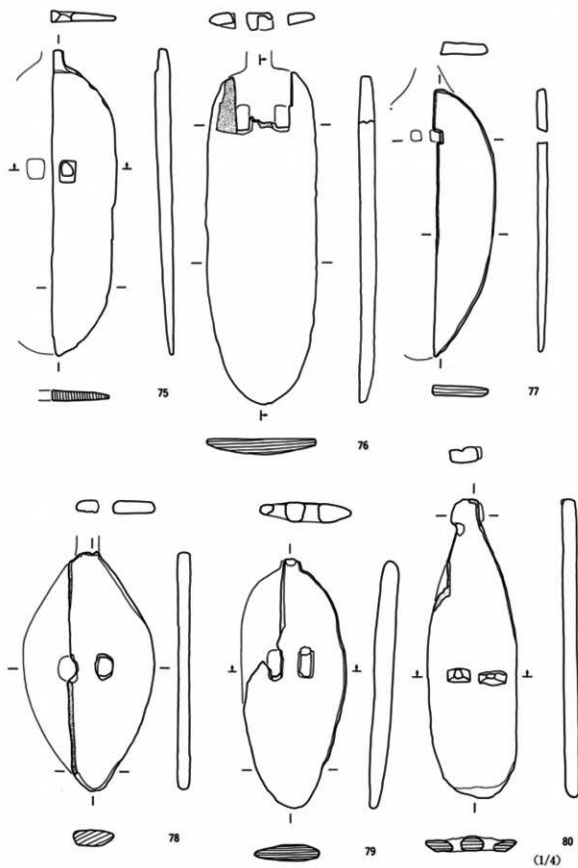


59

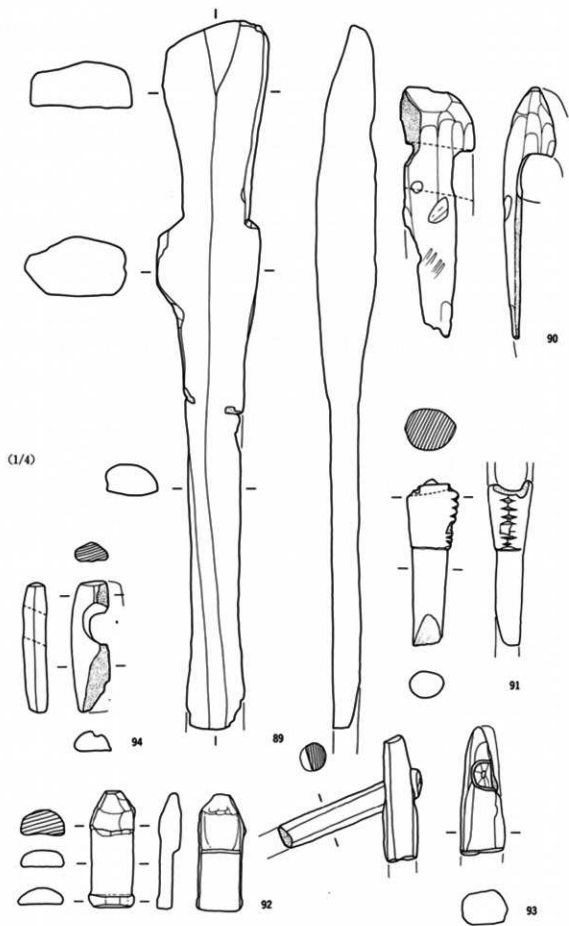


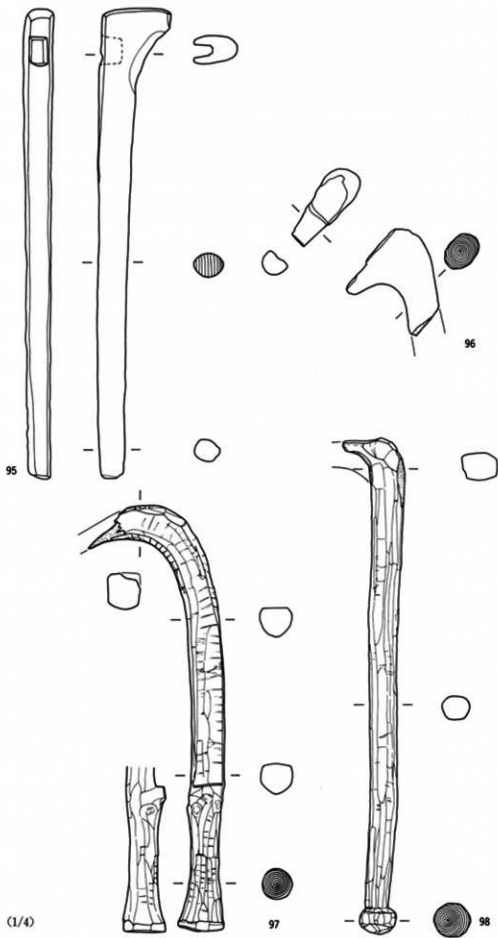












95

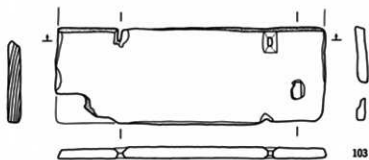
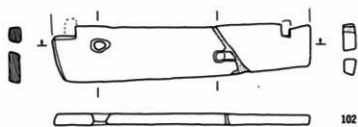
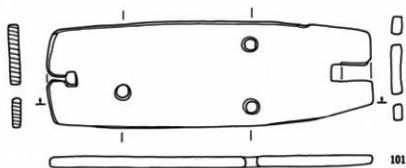
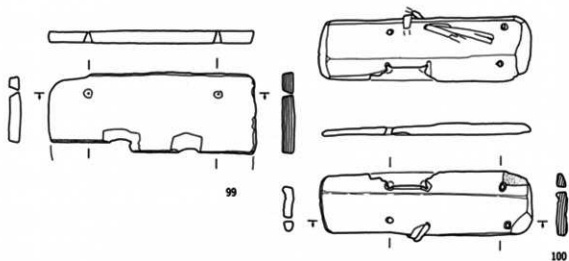
96

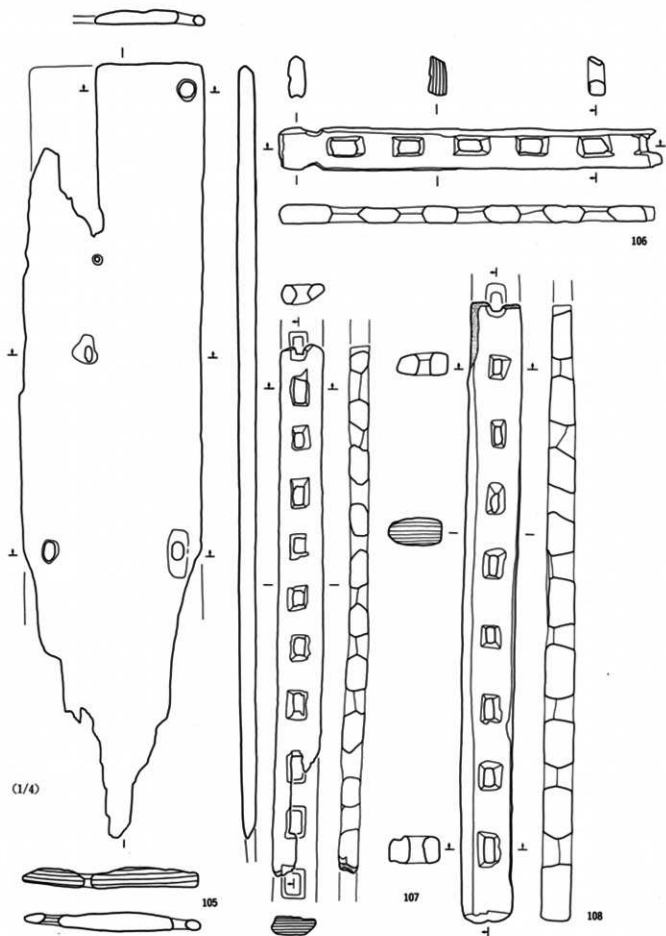
97

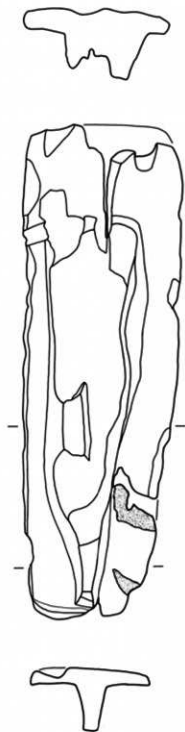
98

(1/4)

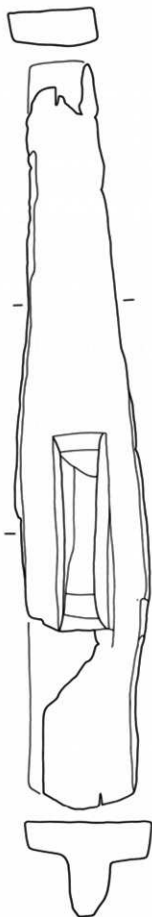




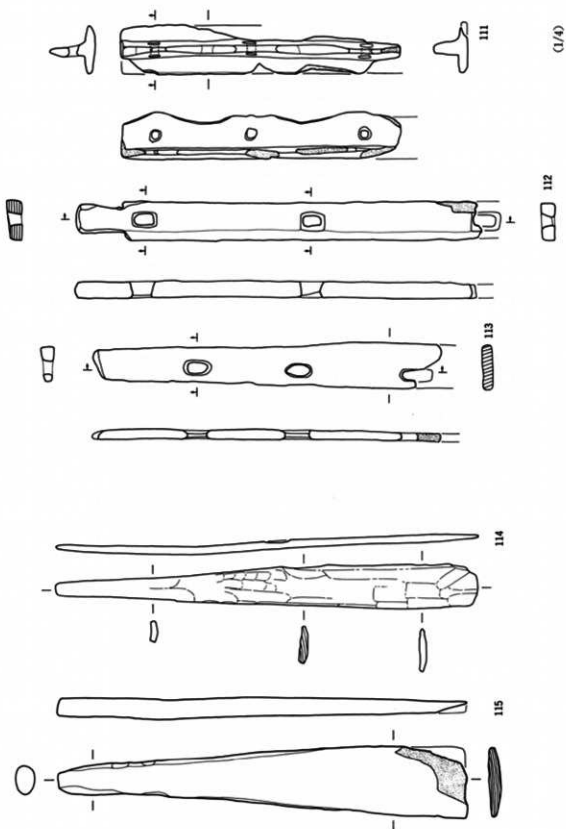


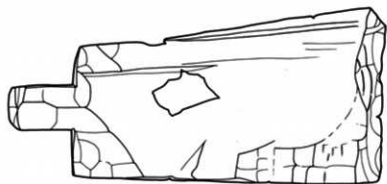


109



110

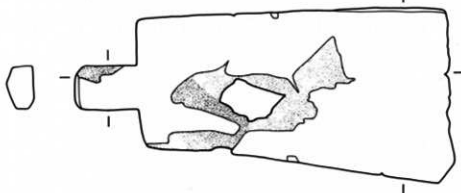




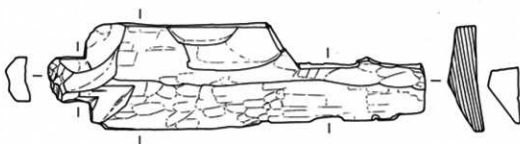
115



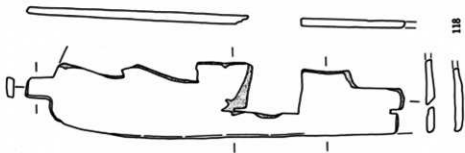
116

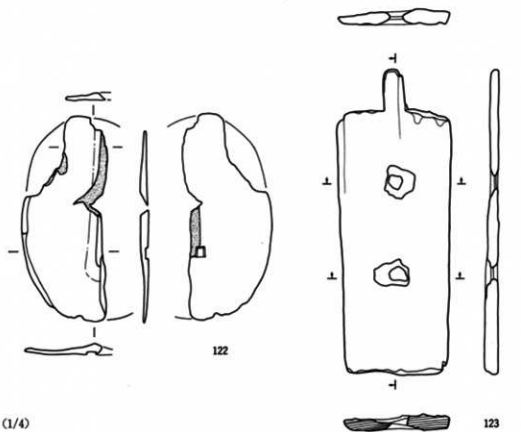
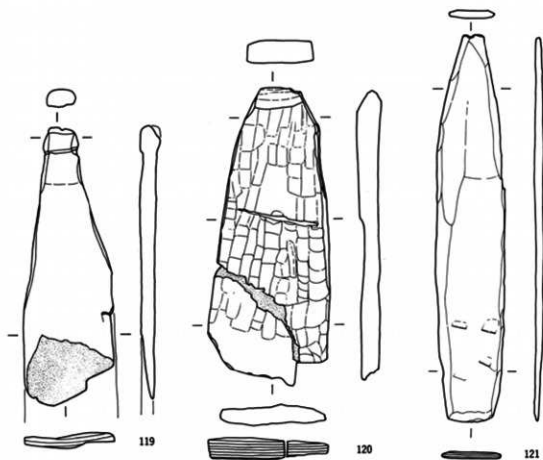


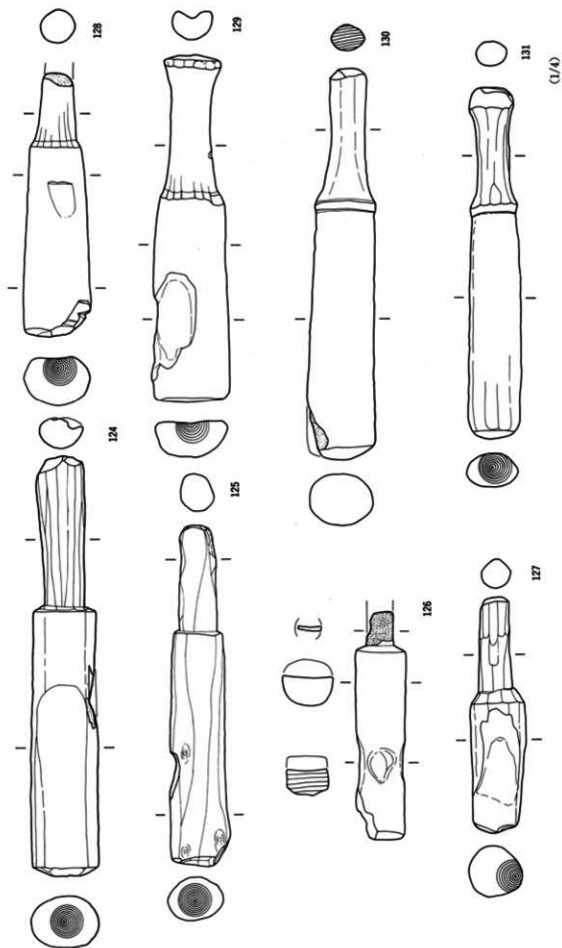
117

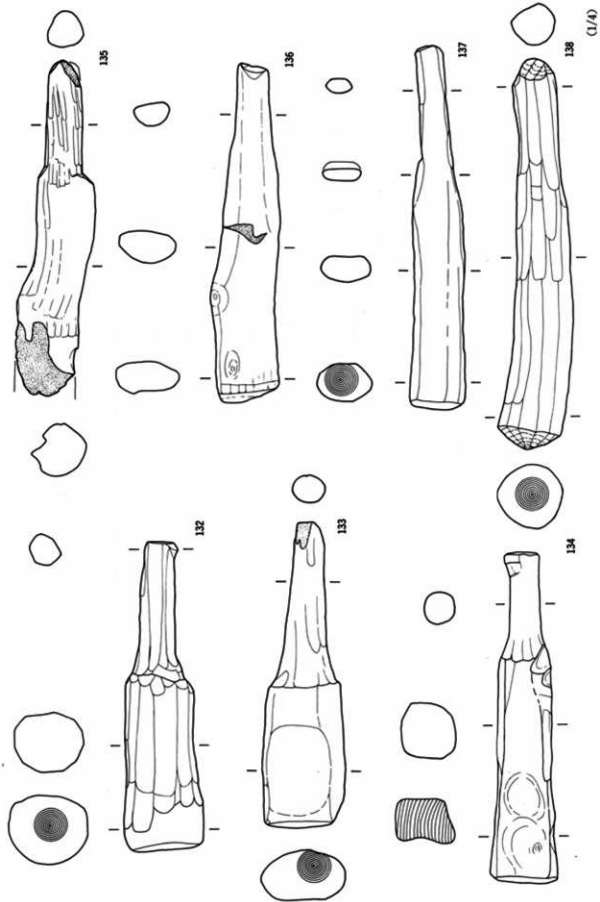


118

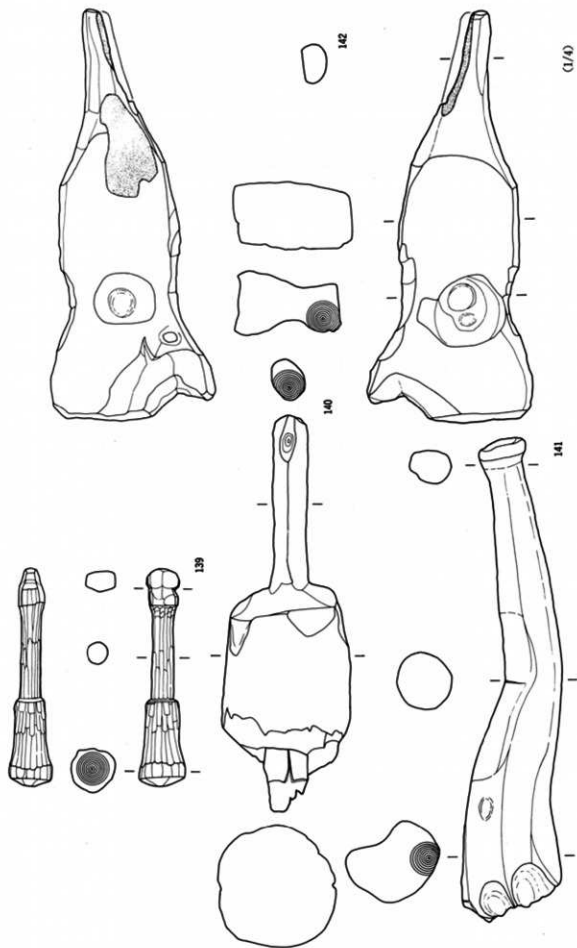


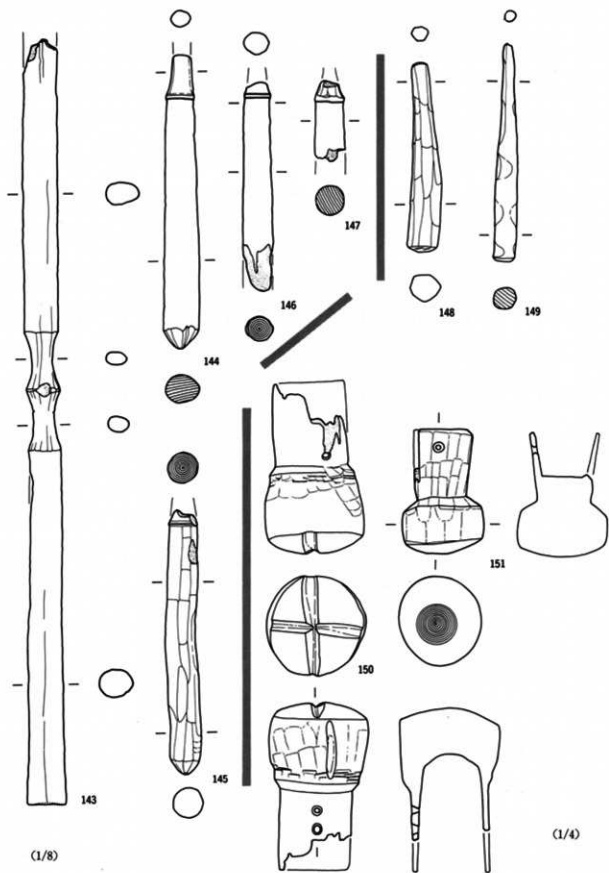


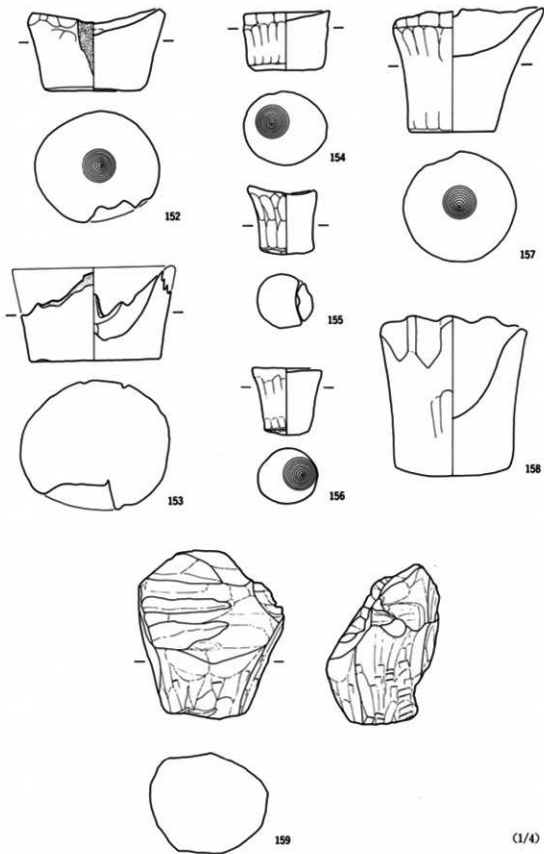


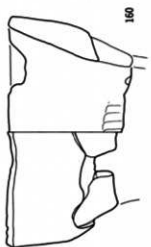




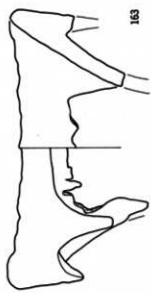




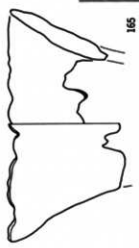




160



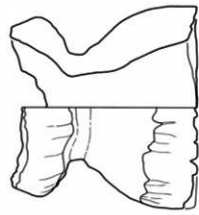
163



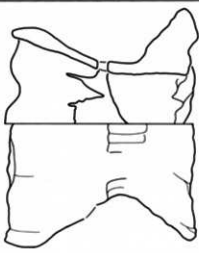
165



161



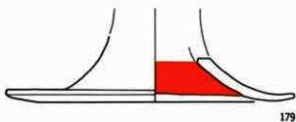
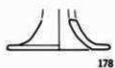
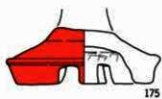
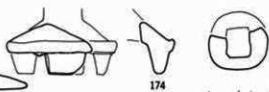
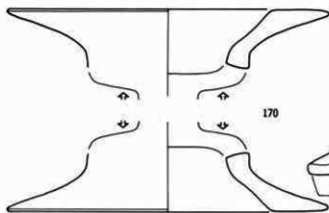
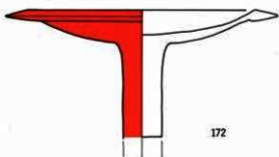
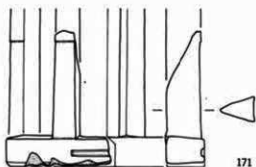
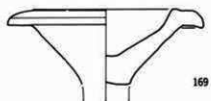
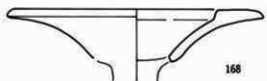
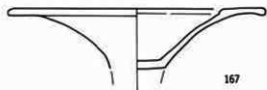
164

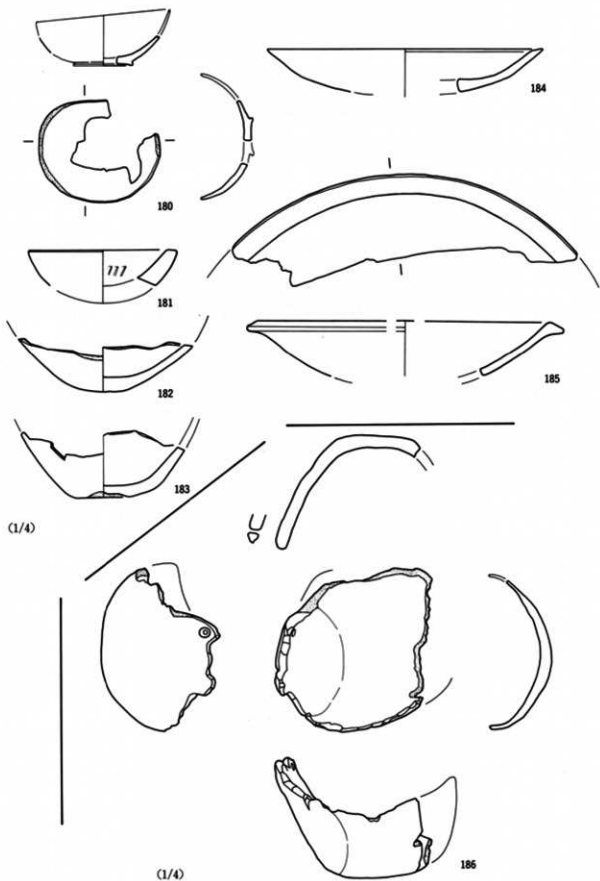


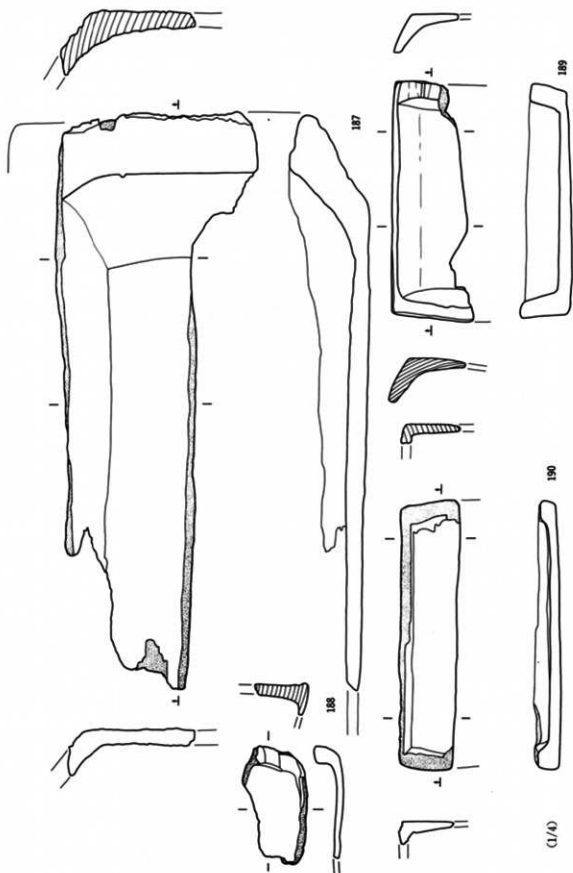
166

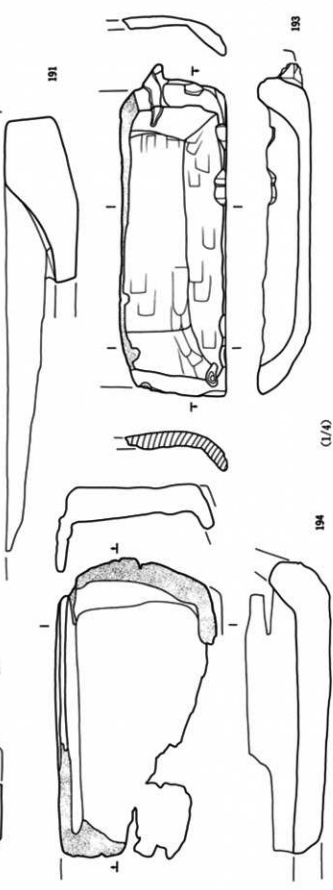
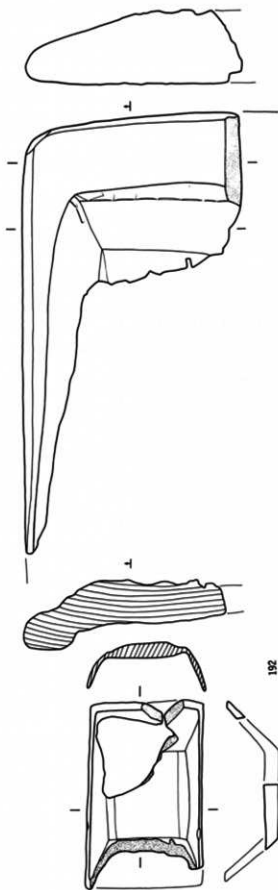


162

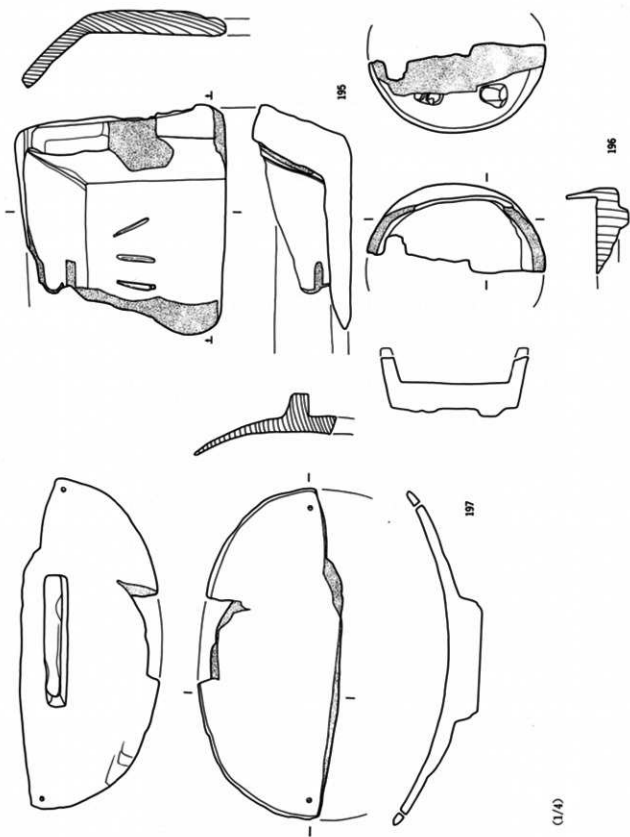


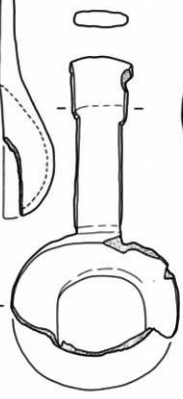
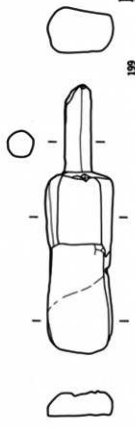
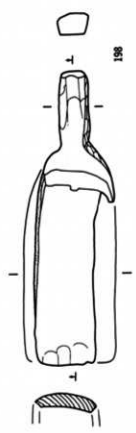










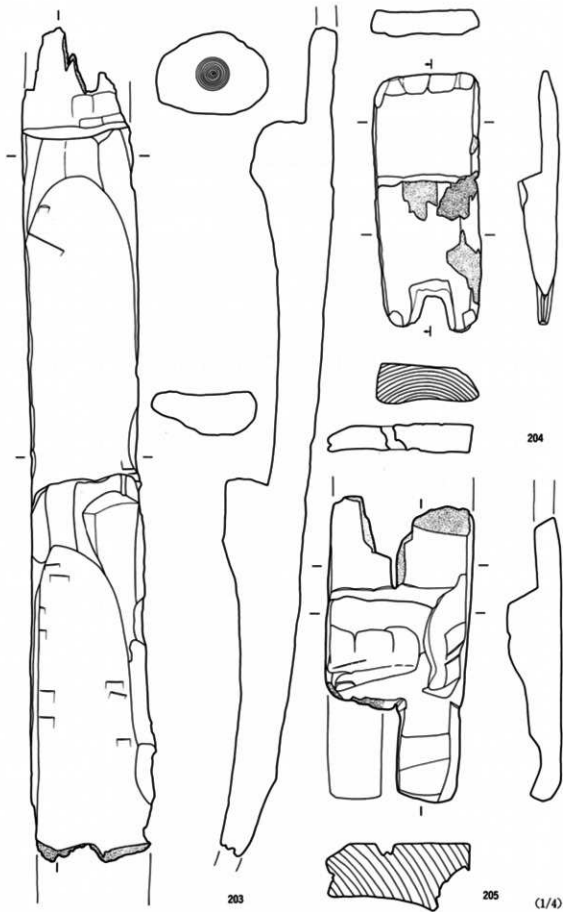


201

202

200

(1/4)

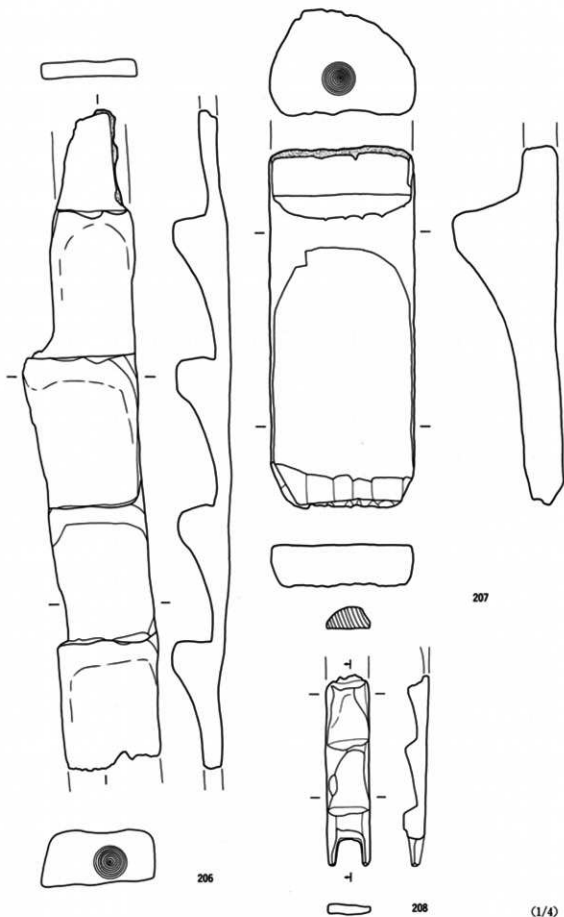


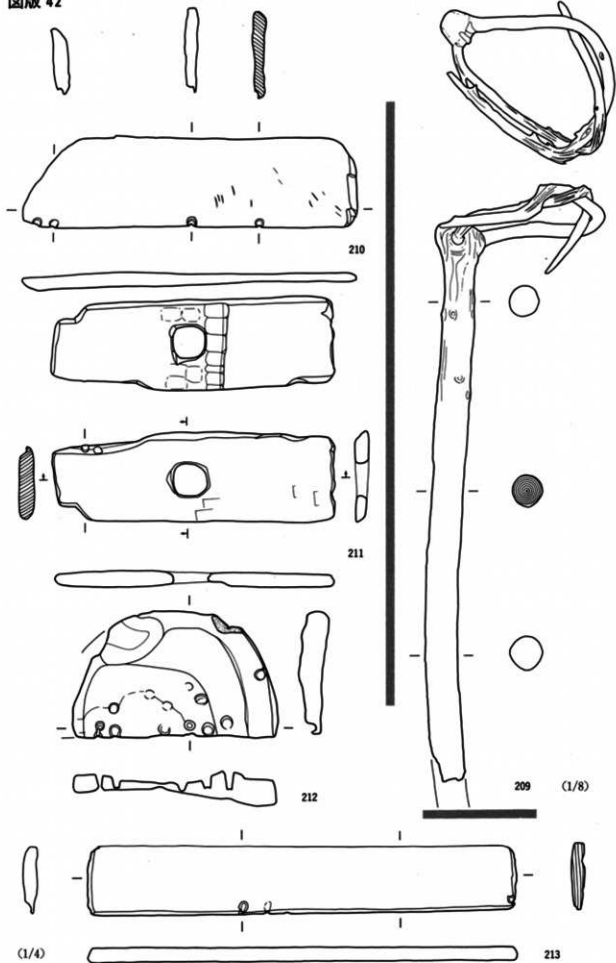
203

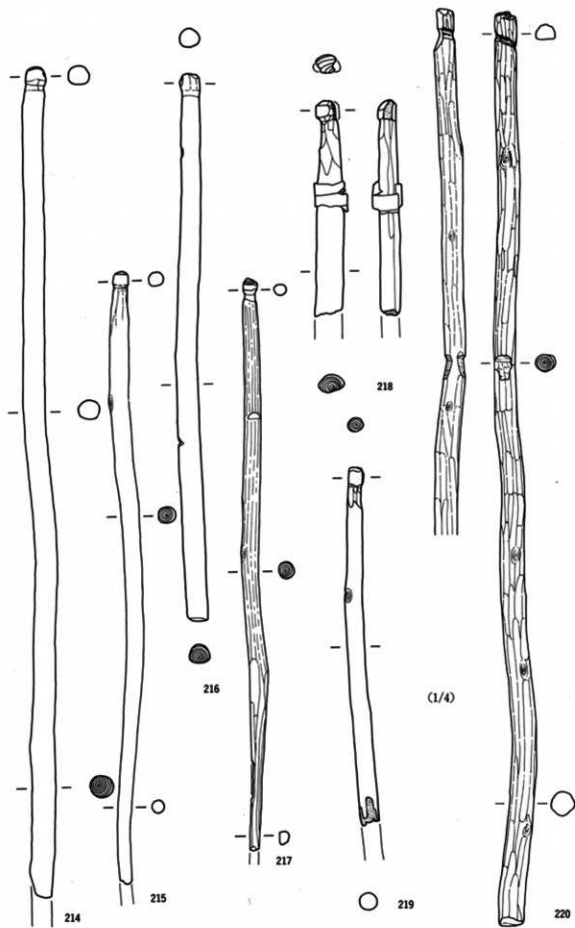
204

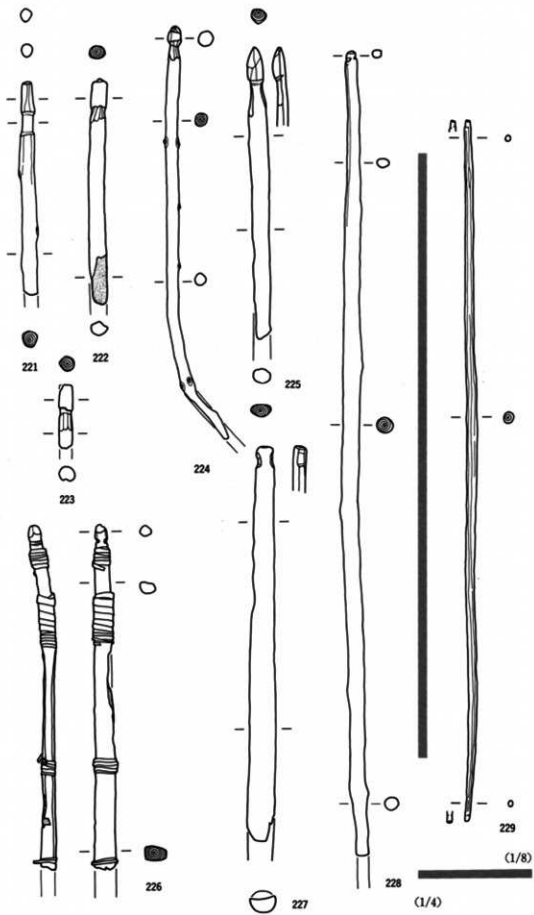
205

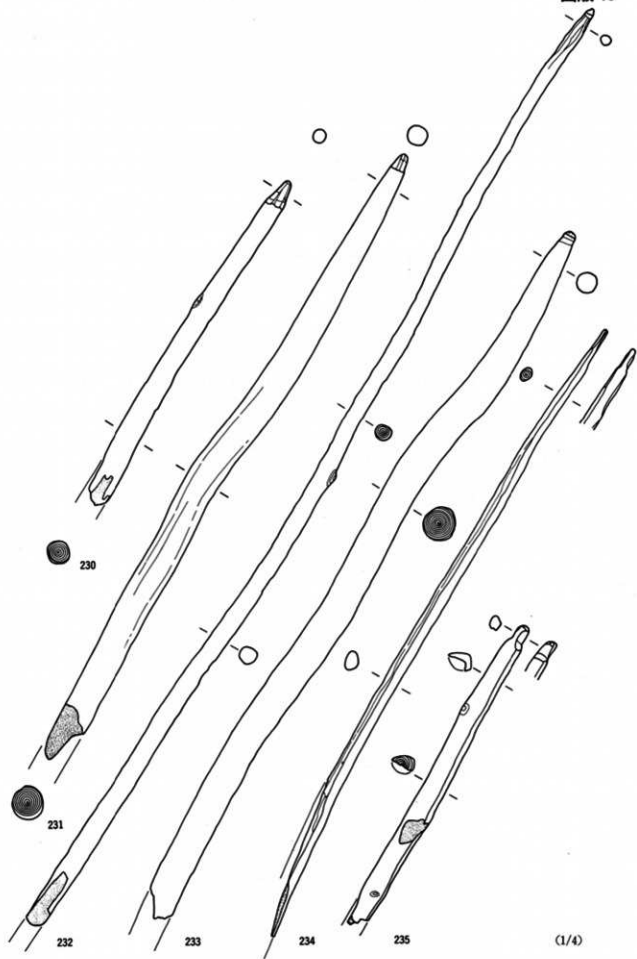
(1/4)



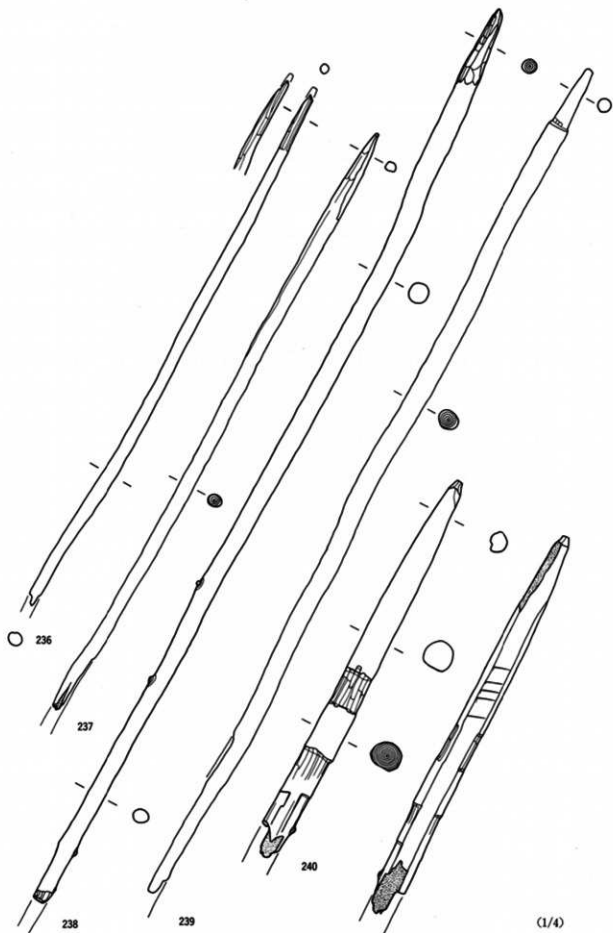


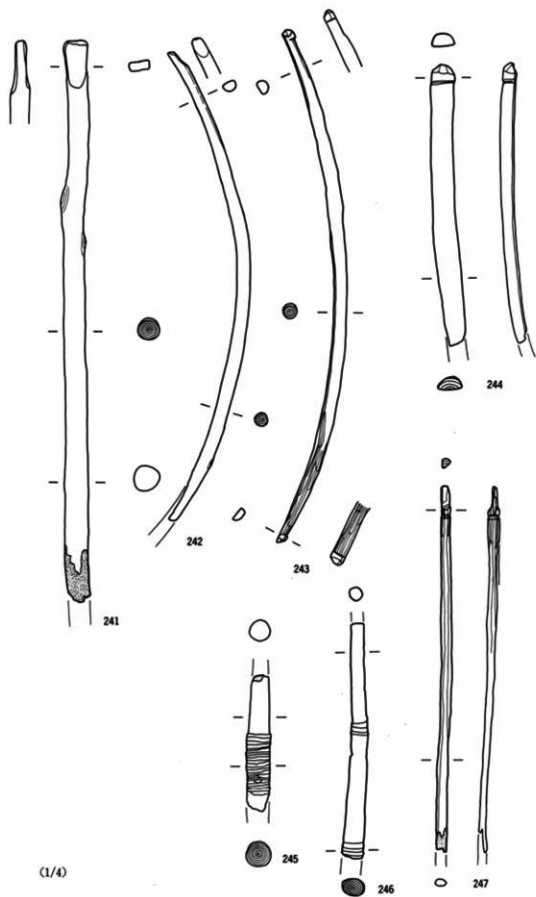




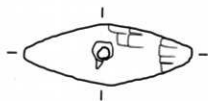




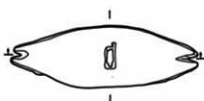




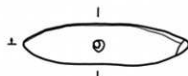
(1/4)



248



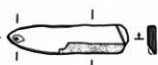
249



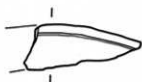
250



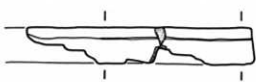
251



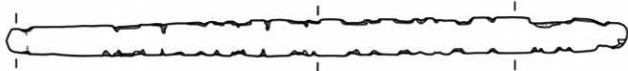
252



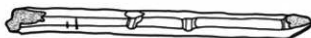
253



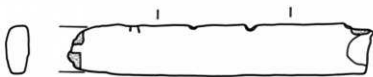
254



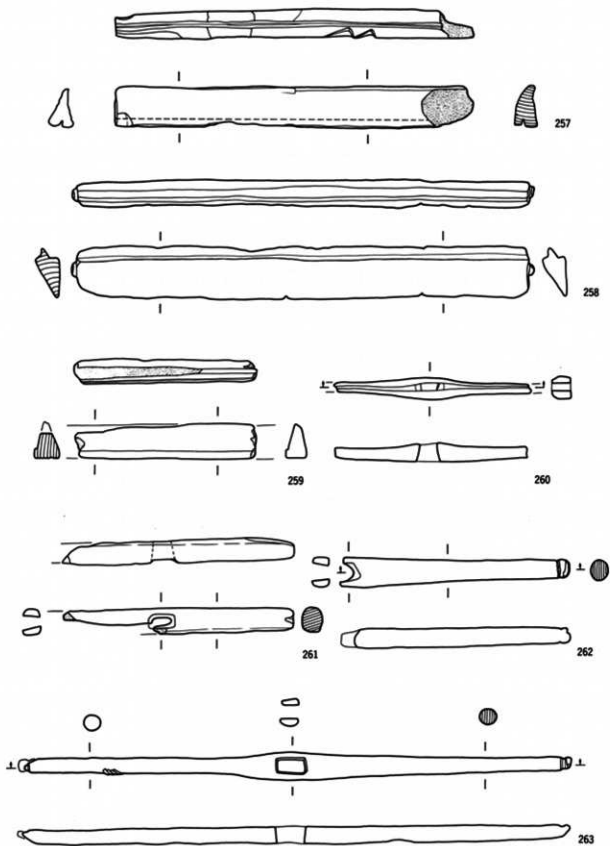
255

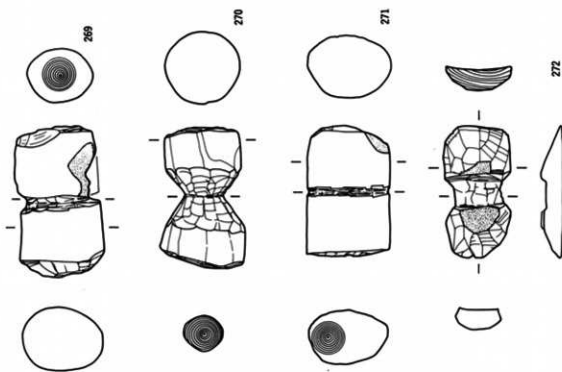
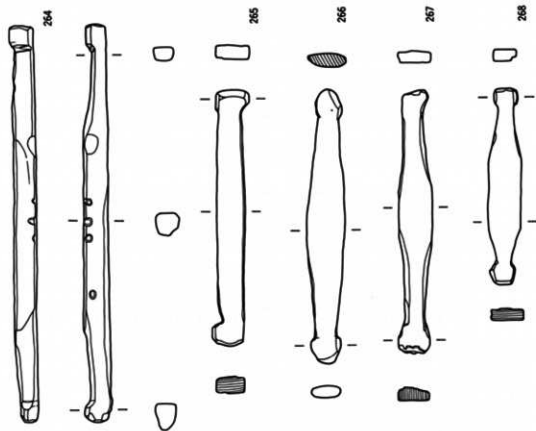


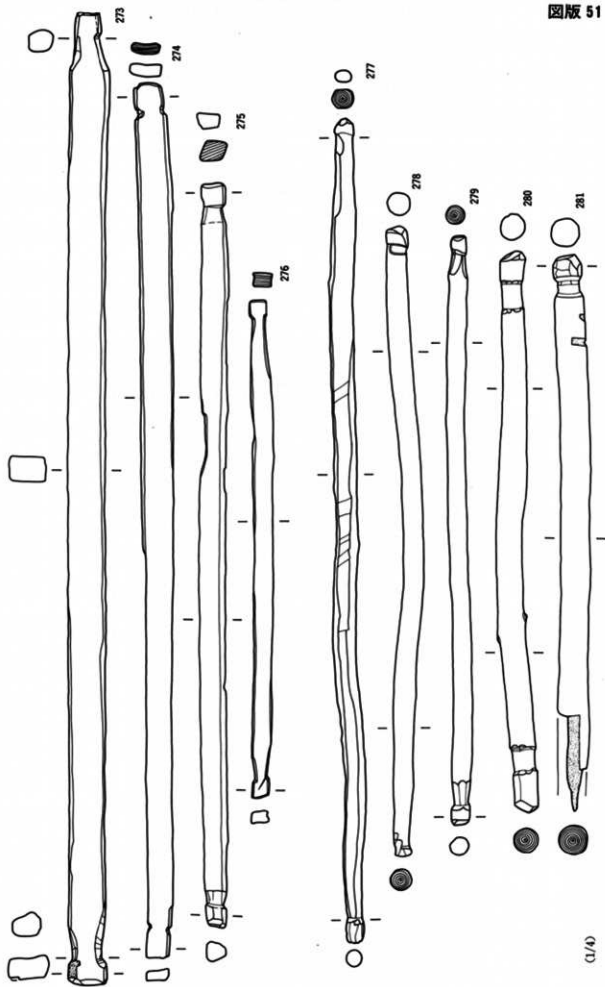
(1/4)

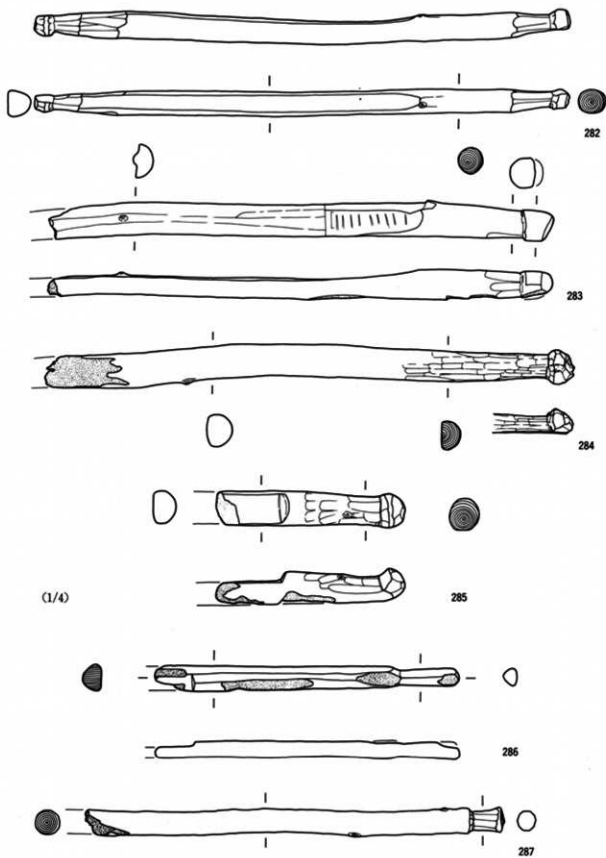


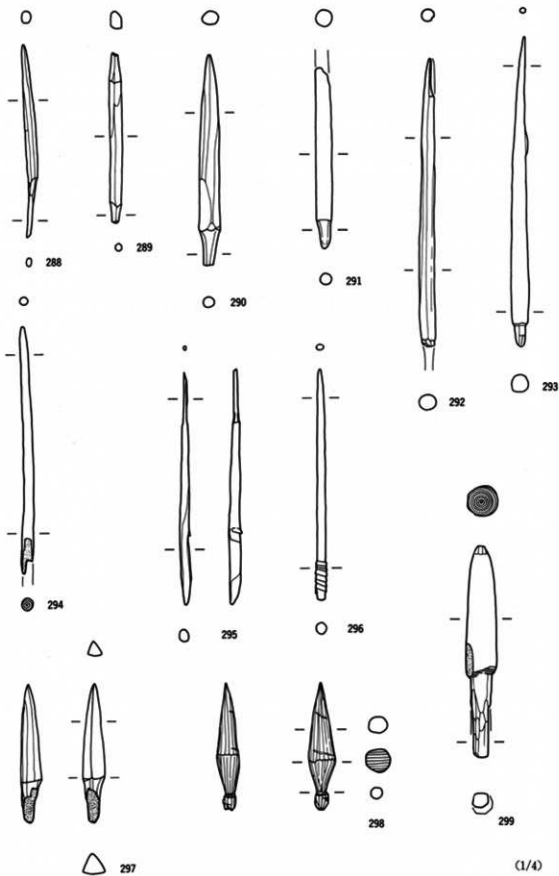
256



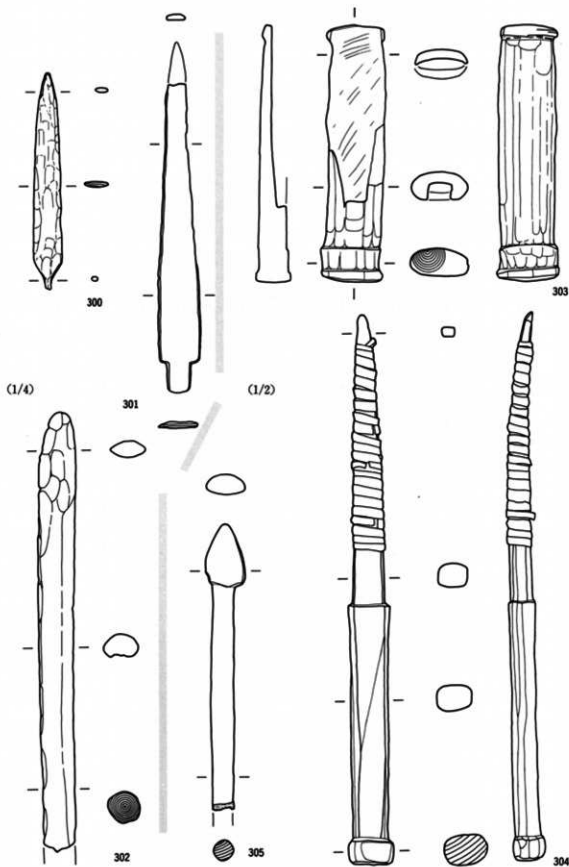


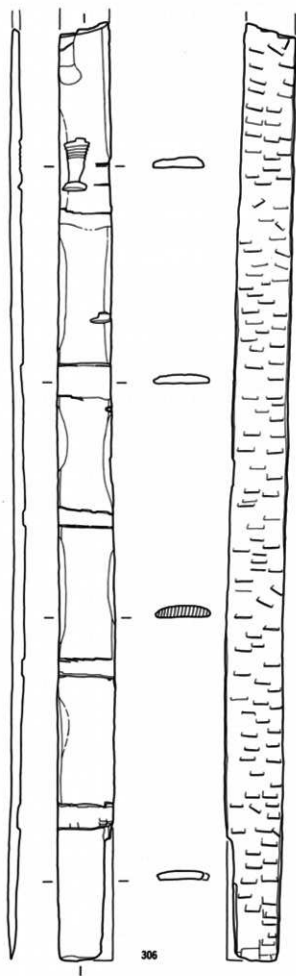




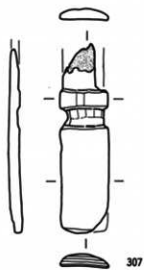




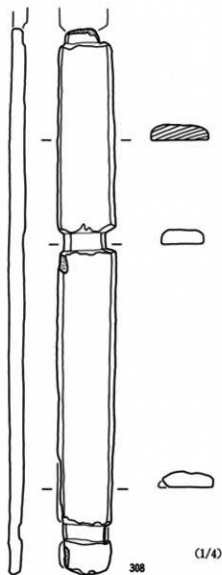




306

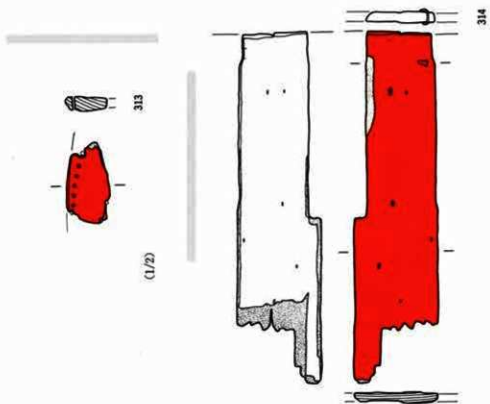
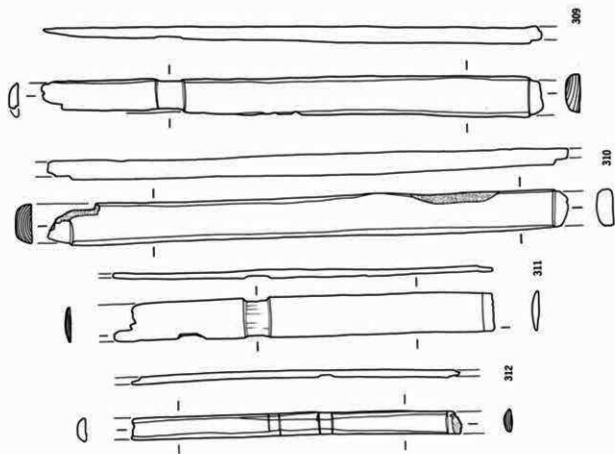


307



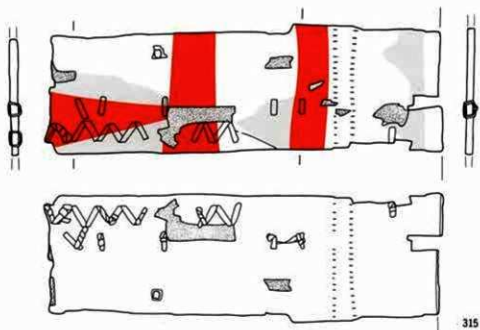
308

(1/4)



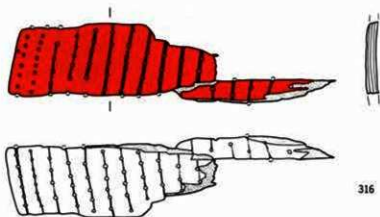
(1/2)

(1/4)

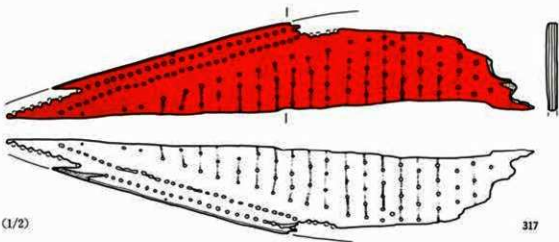


(1/4)

315

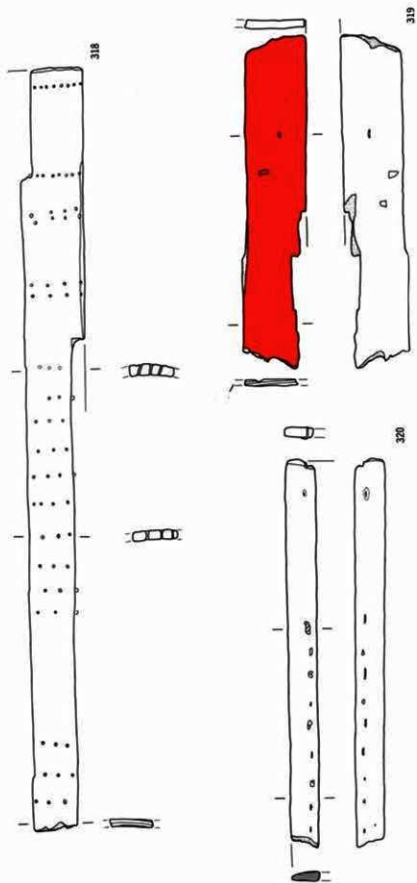


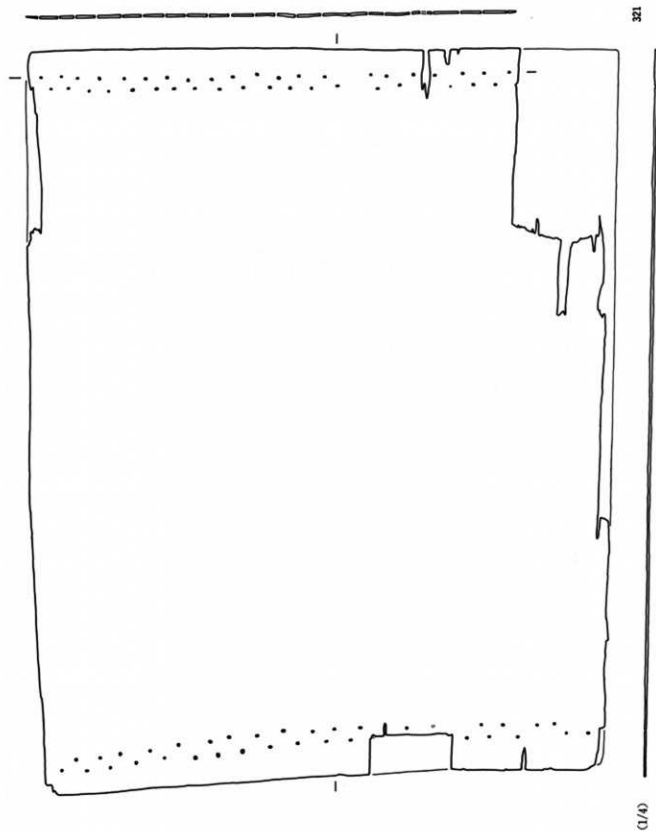
316

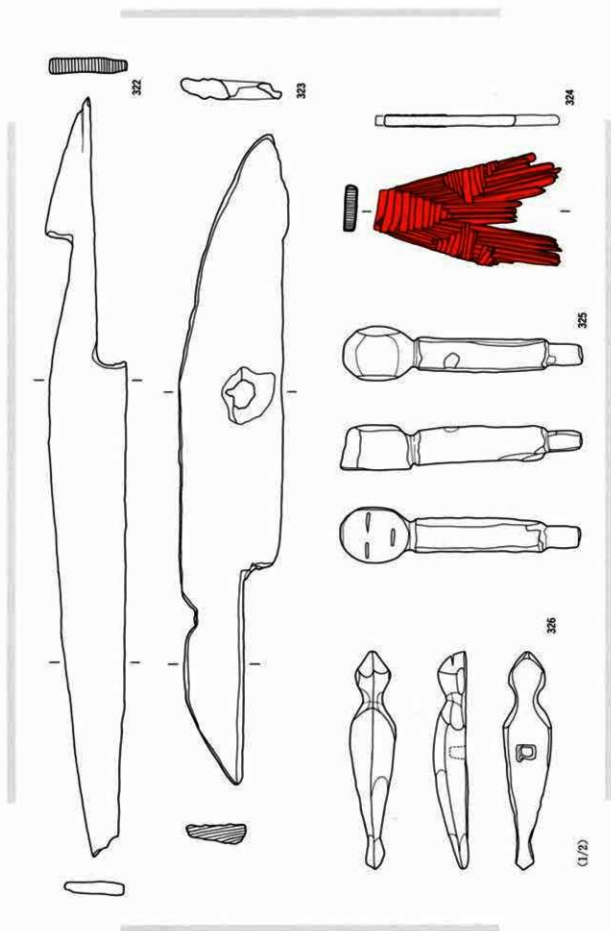


(1/2)

317

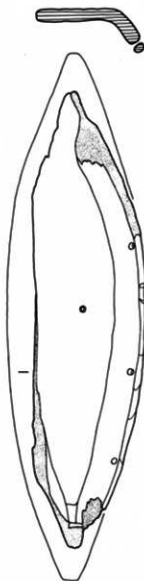








327

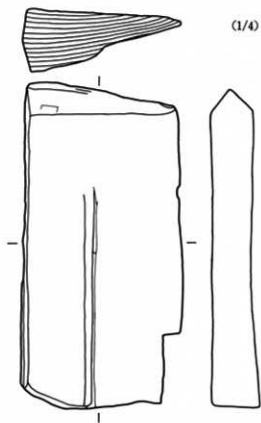
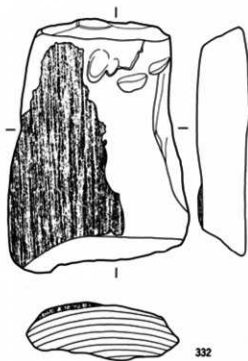
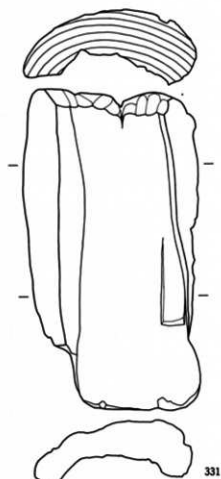
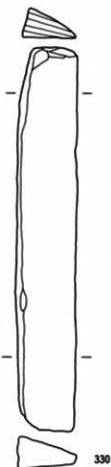
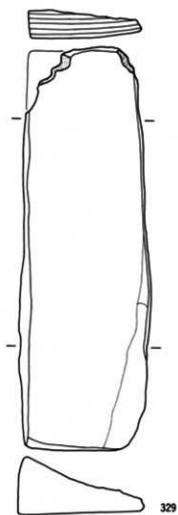


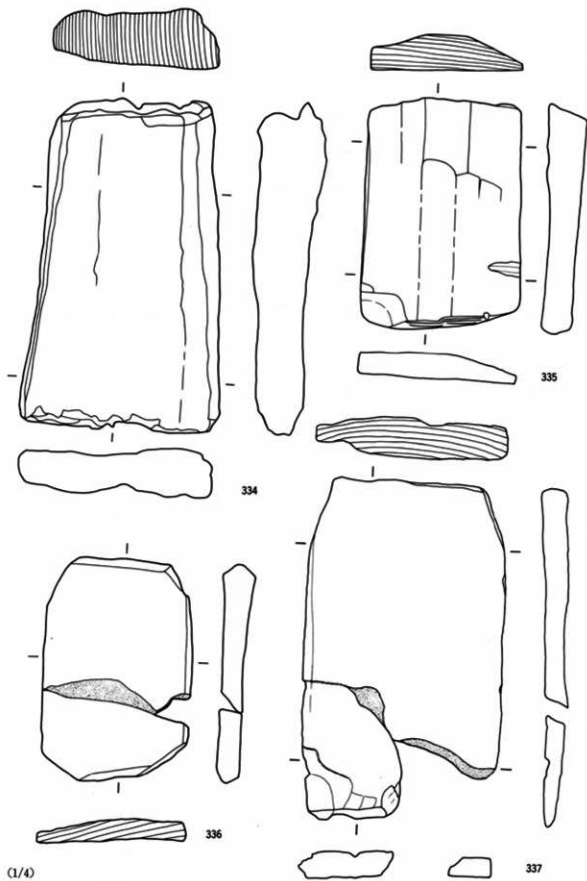
328



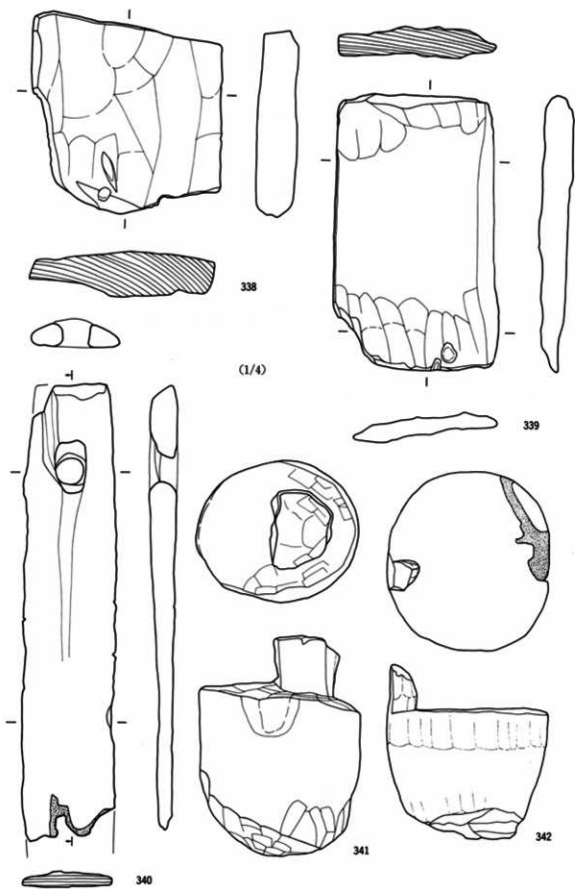
(1/2)





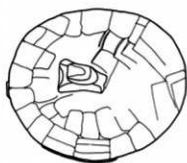


(1/4)

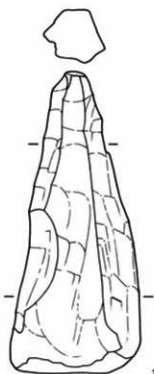




343



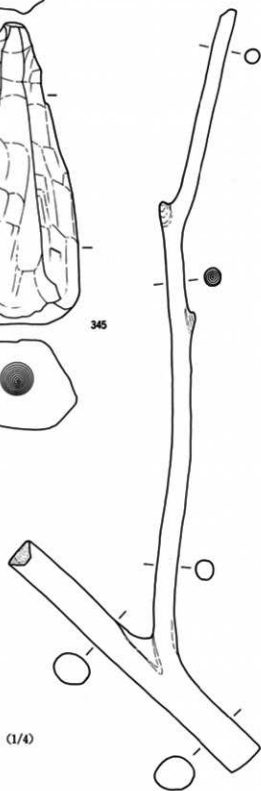
344



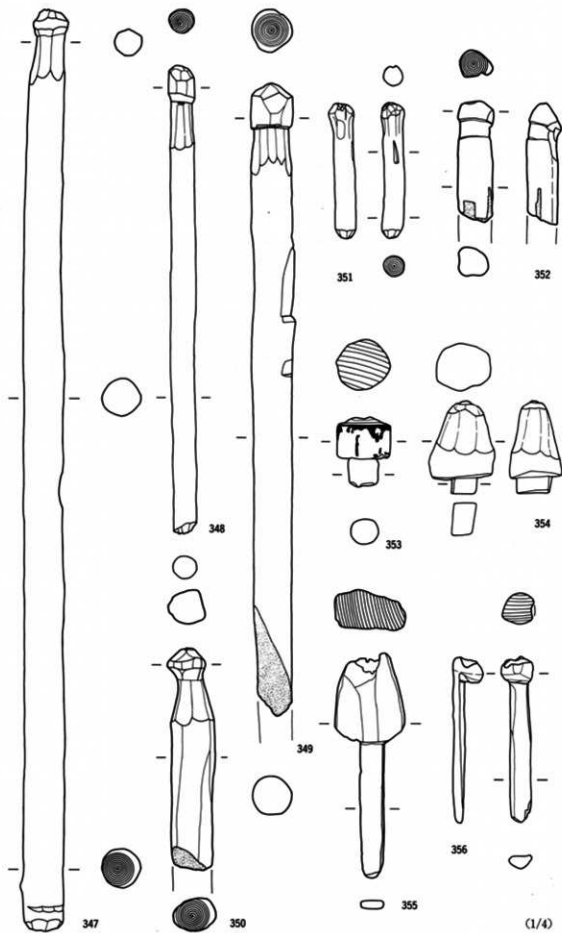
345

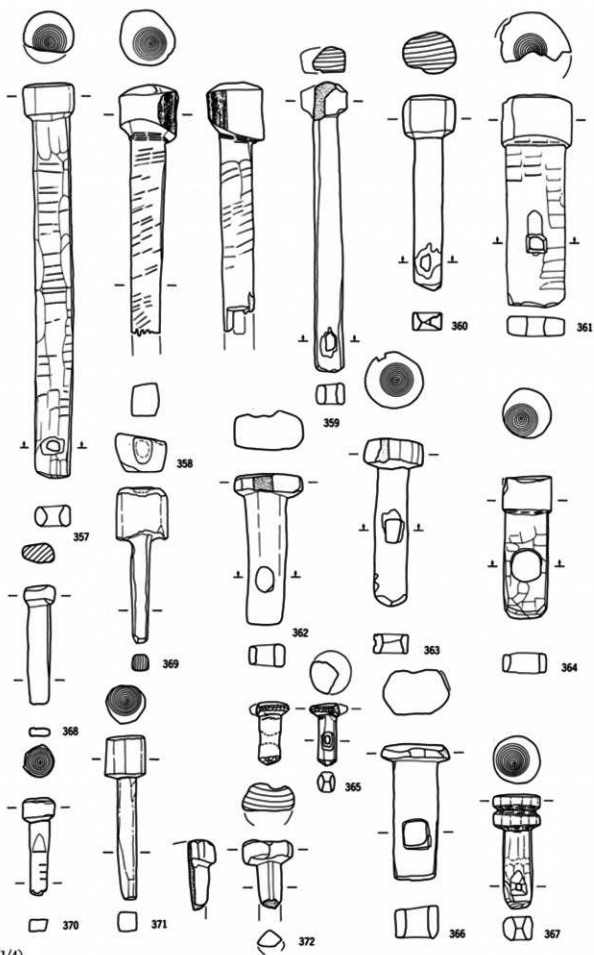


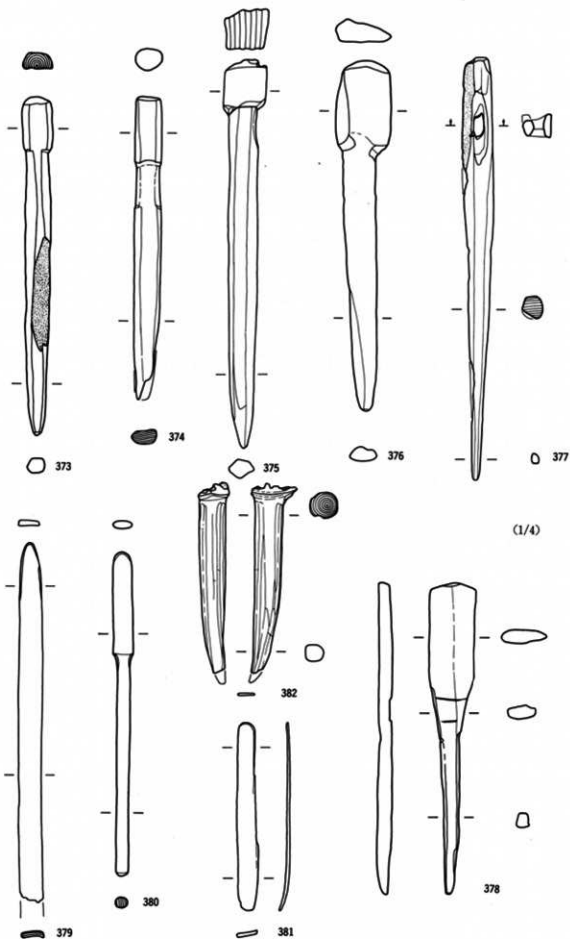
(1/4)

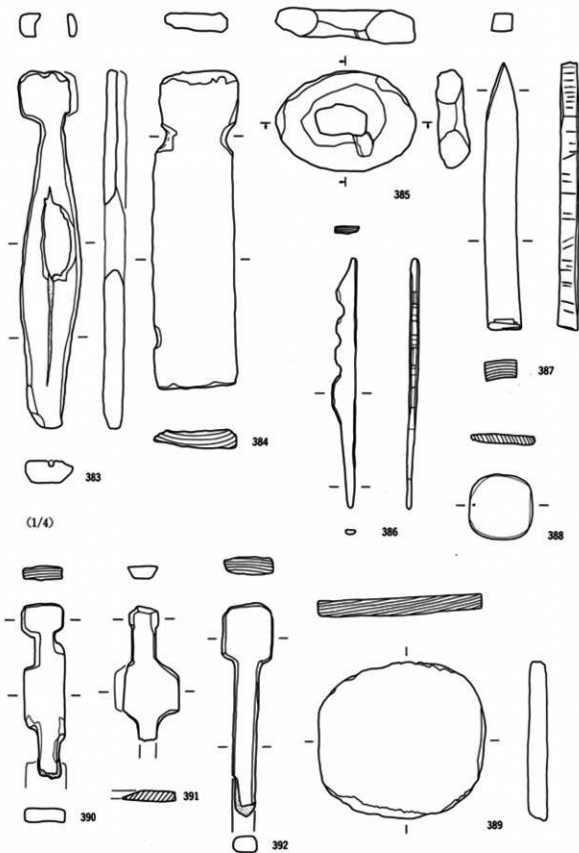


346

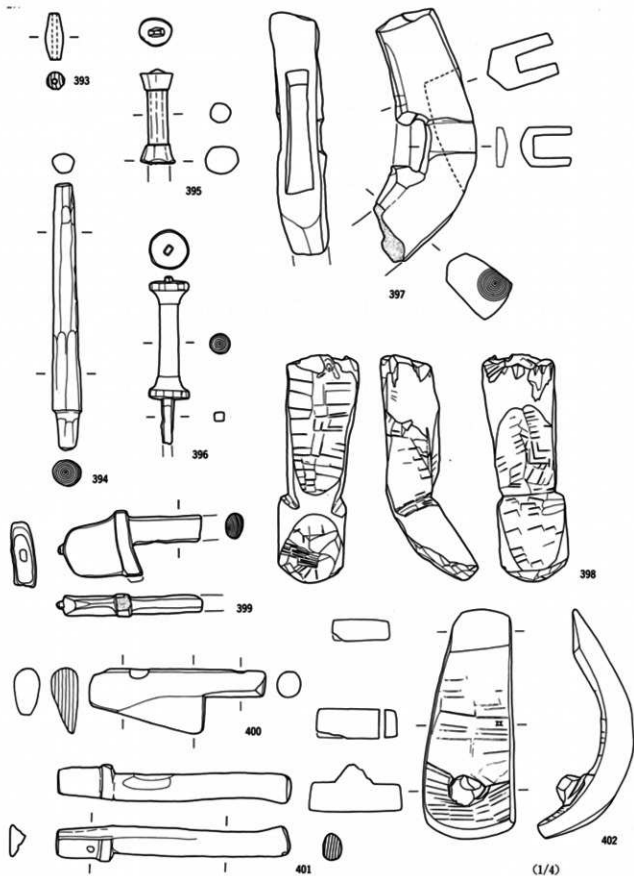


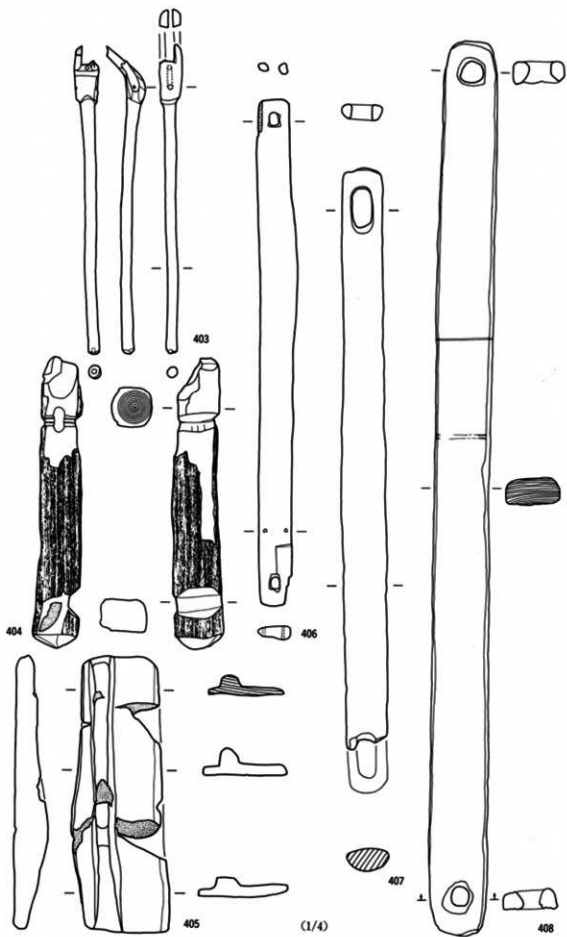


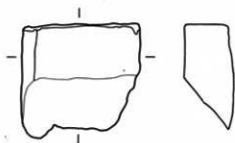
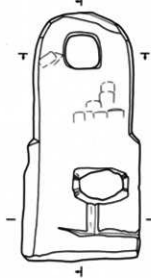
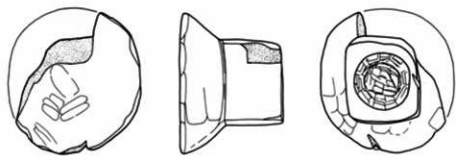








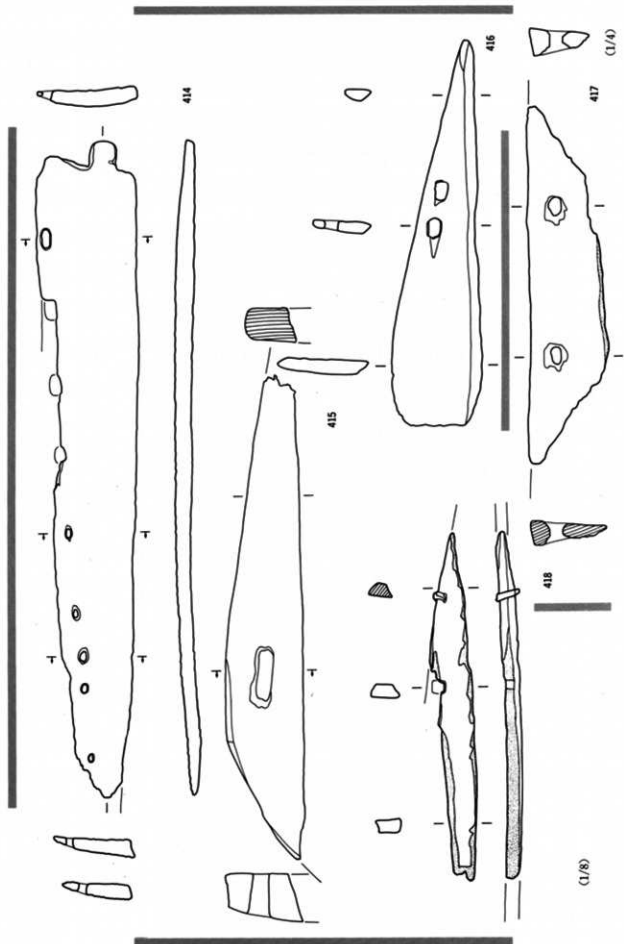


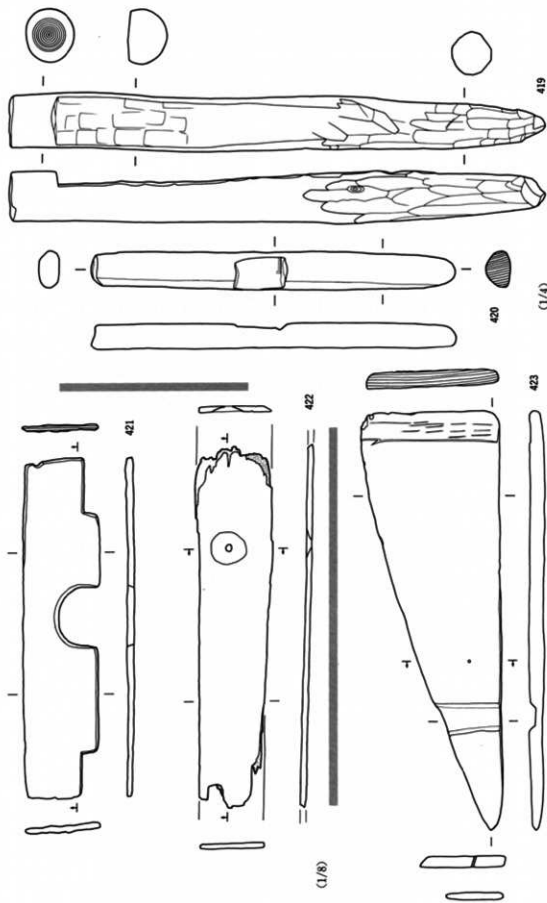


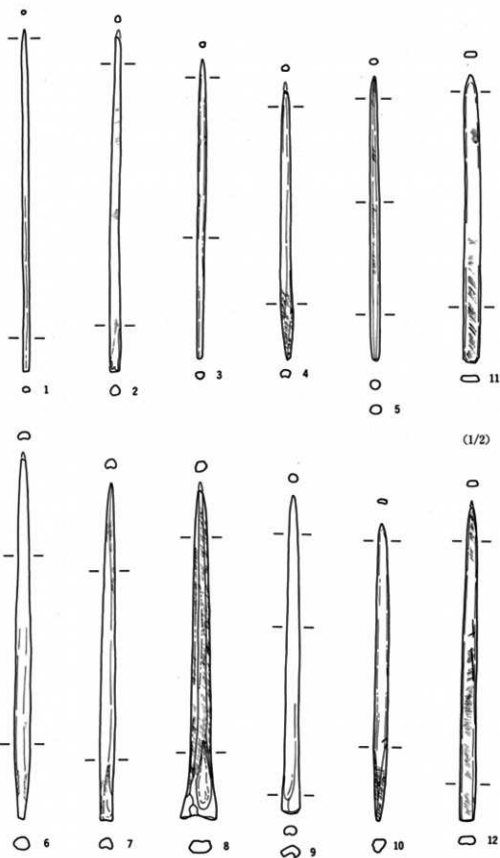
(1/4)

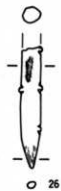
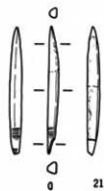
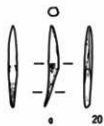
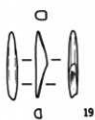
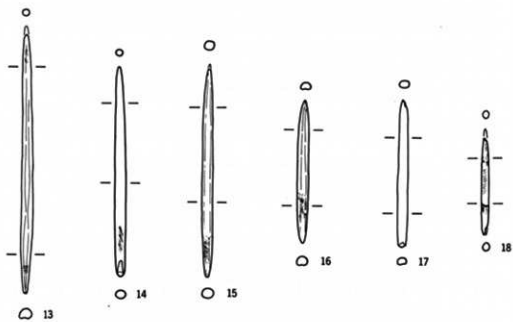


413

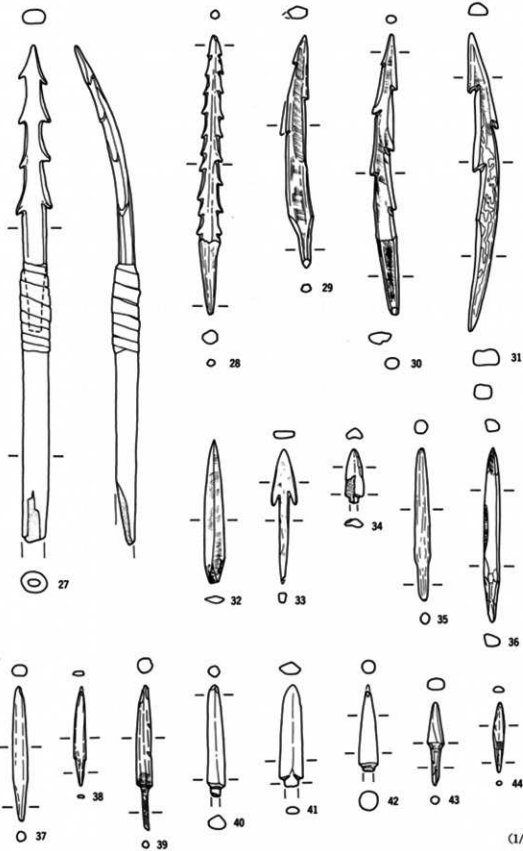




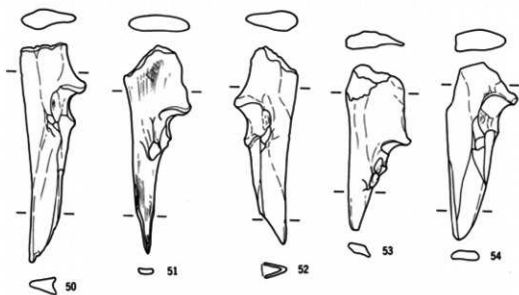
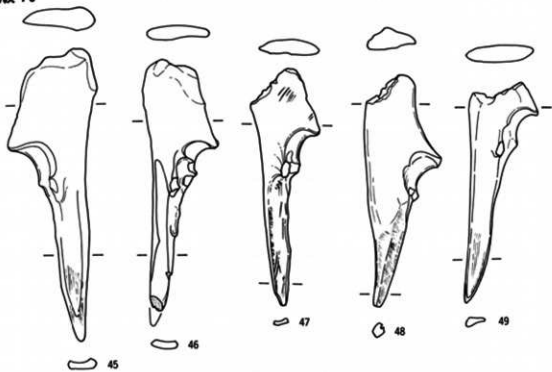




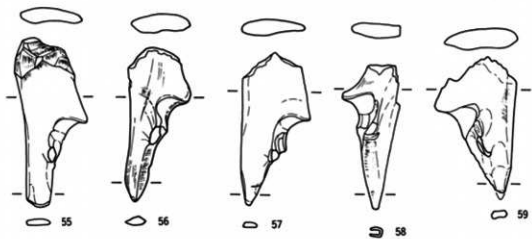
(1/2)

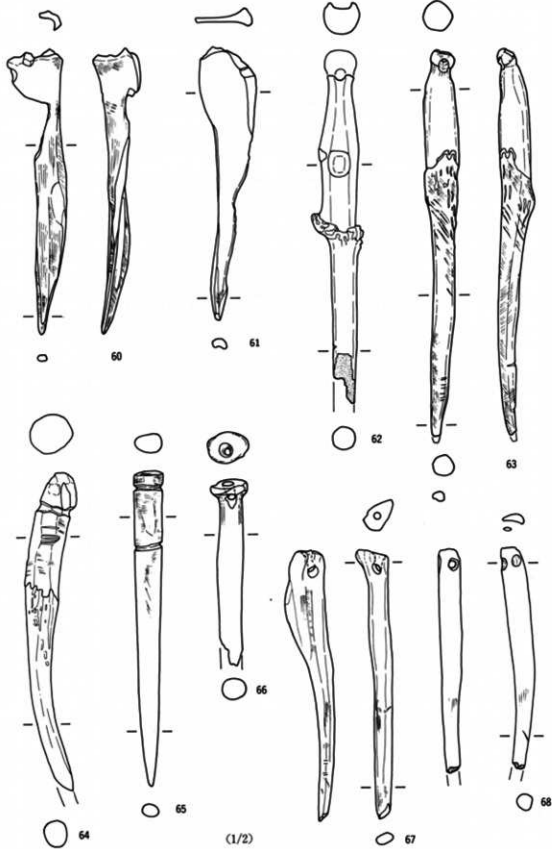


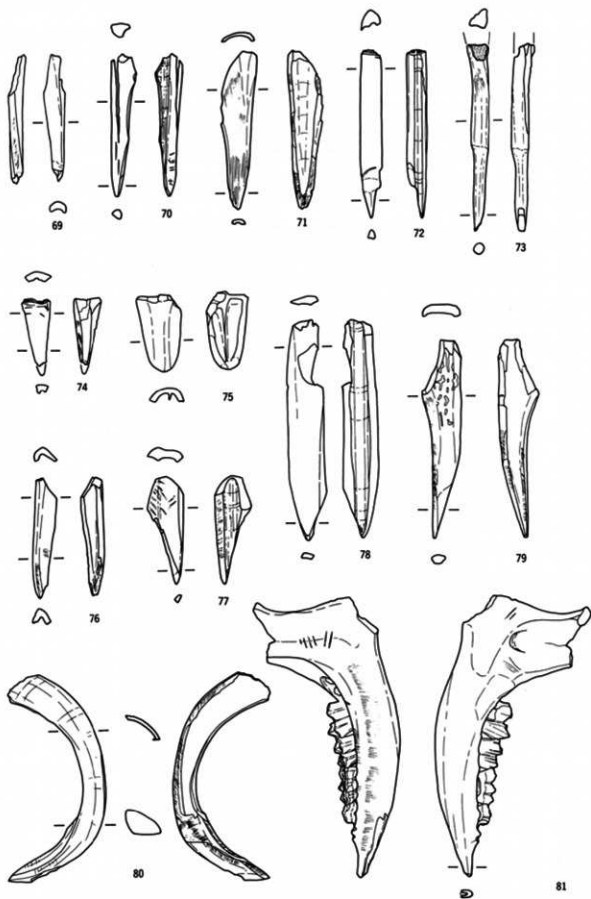


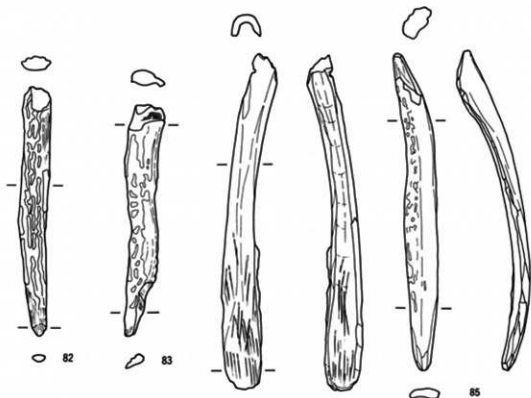


(1/2)

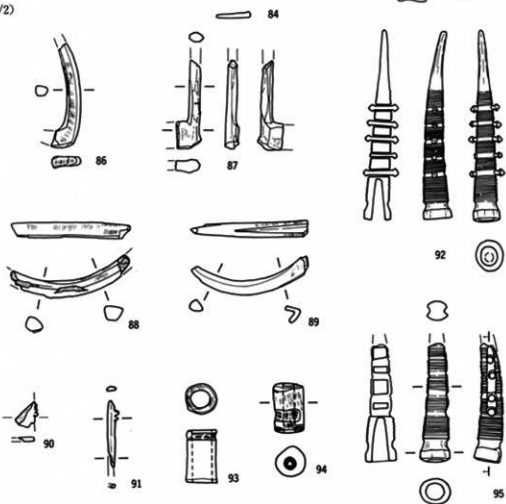








(1/2)





96



97



98



• 99



• 100



• 101



• 102



• 103



• 104



• 105



106



107



108



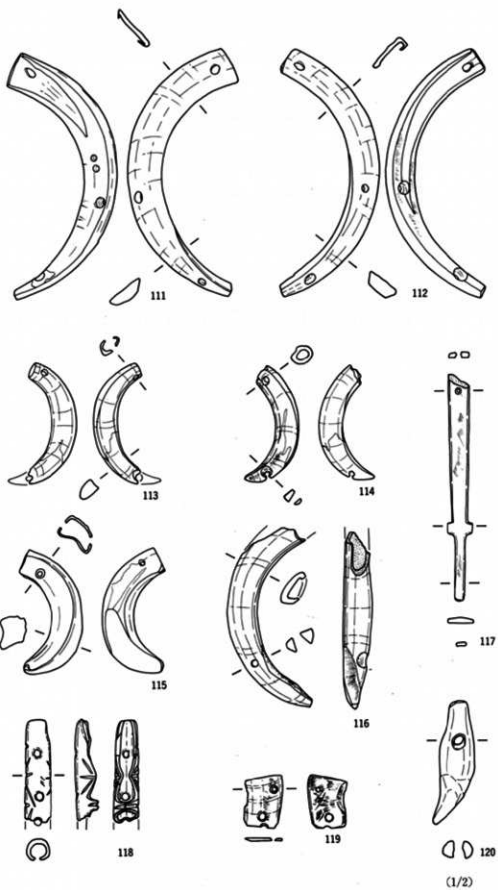
109

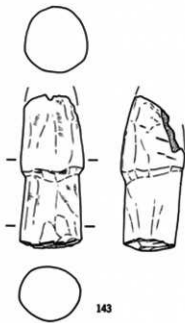
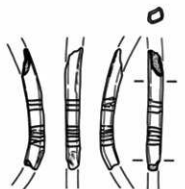


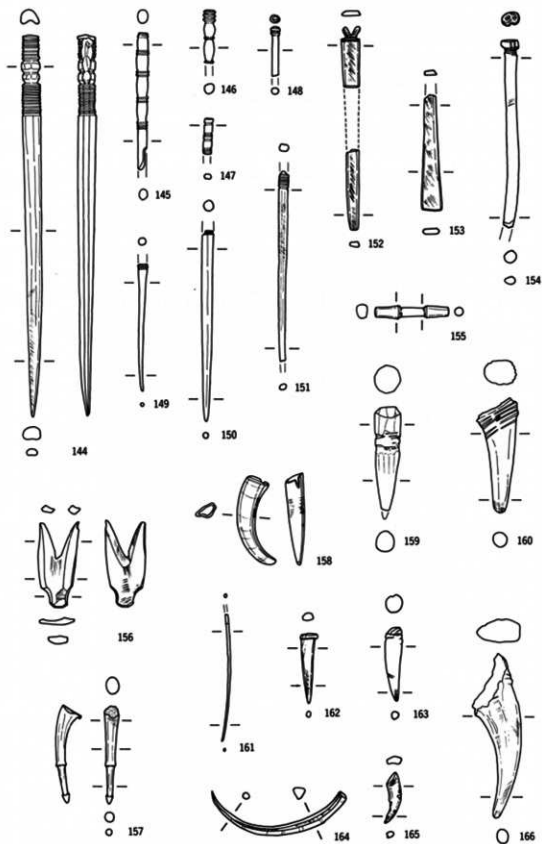
(1/2)



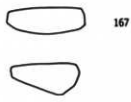
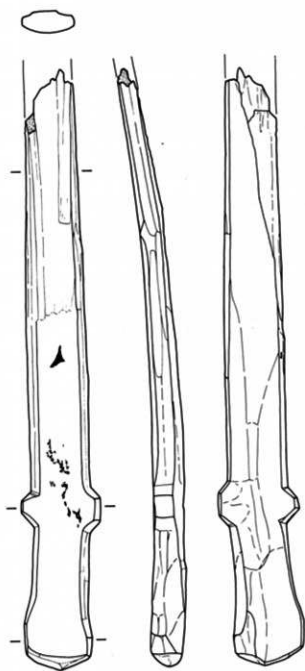
110











167

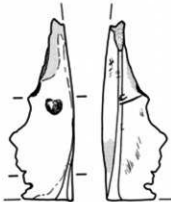
(1/2)



169

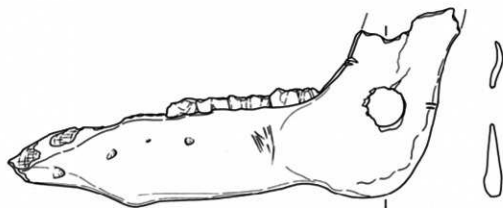
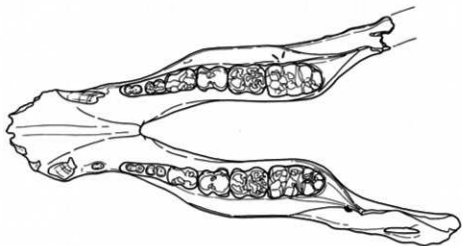
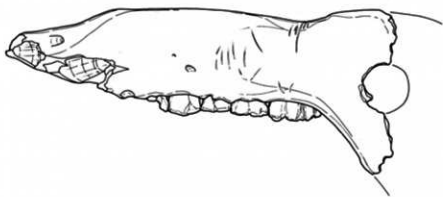


168



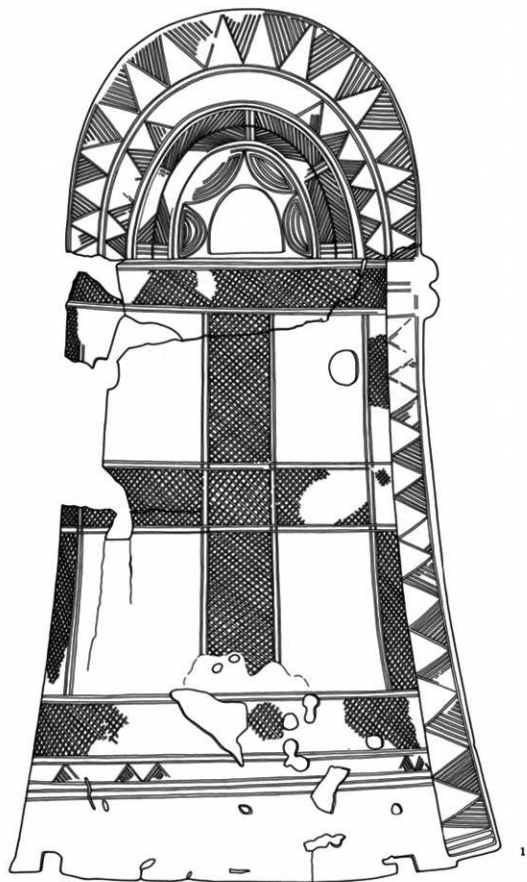
170





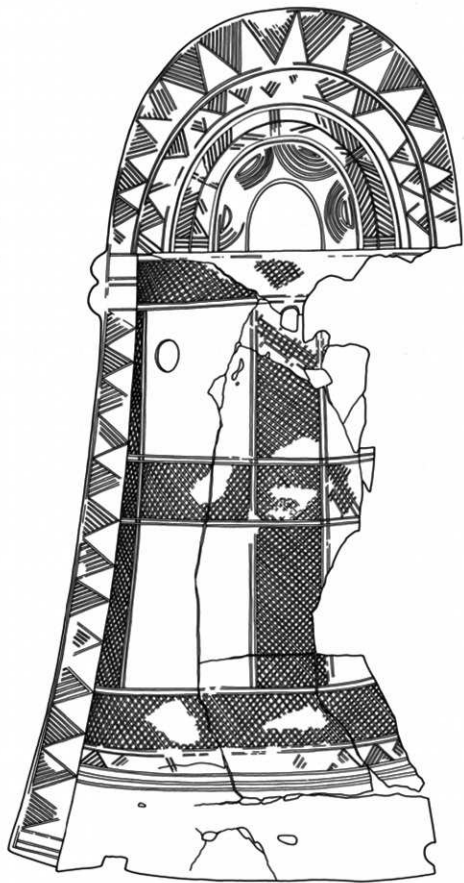
(1/2)

171

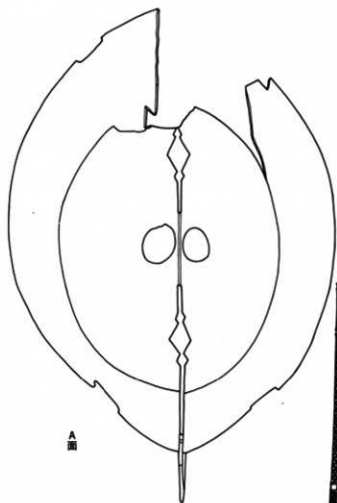


A 圖

(1/2)

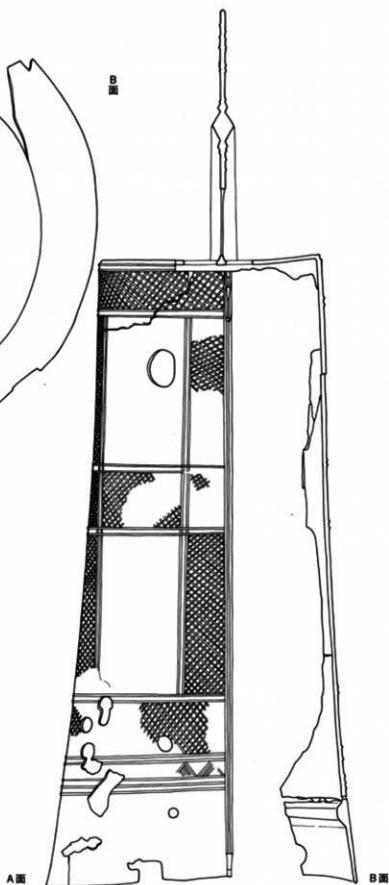


B面



A 面

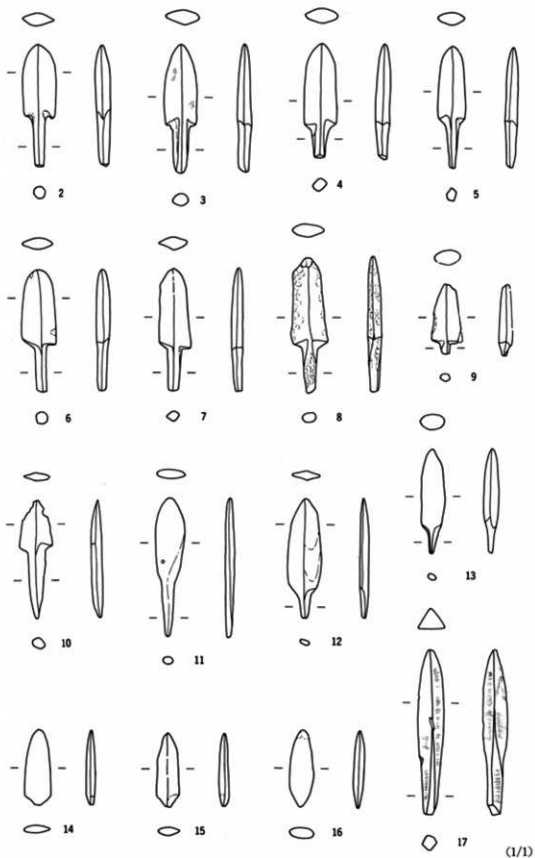
(1/2)



B 面

A 面

B 面



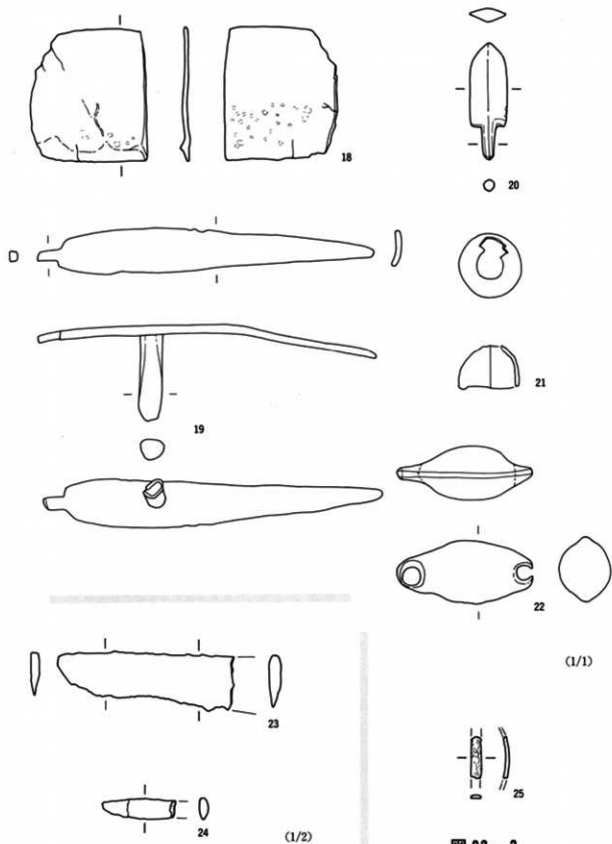


图 92-2



B面



89 B区出土銅鏃



A面







B面

写真図版 4



12



4



18



7



3



2



5



6



10



24





44



45



46



58



57



53



56



59



54



62



60



62



60



63



65



74



80



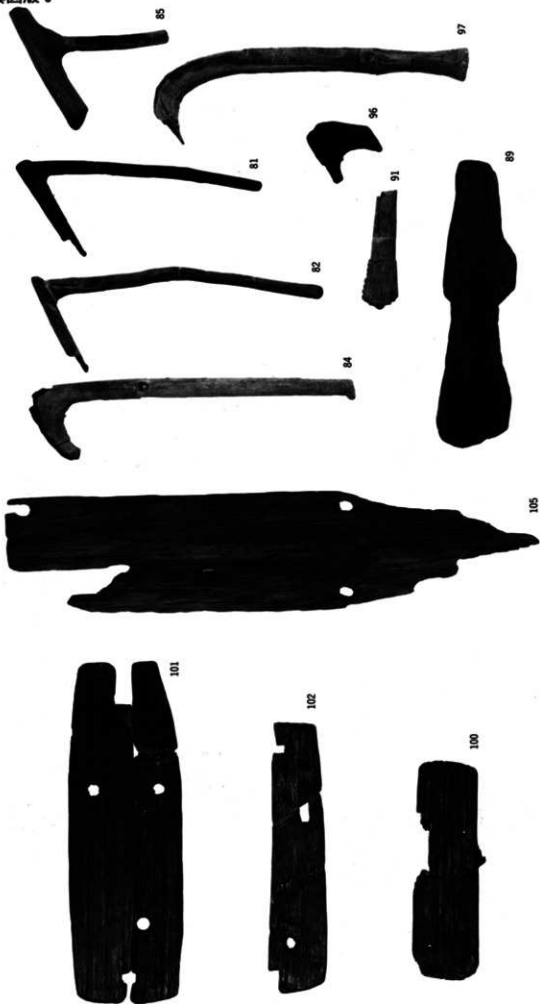
76

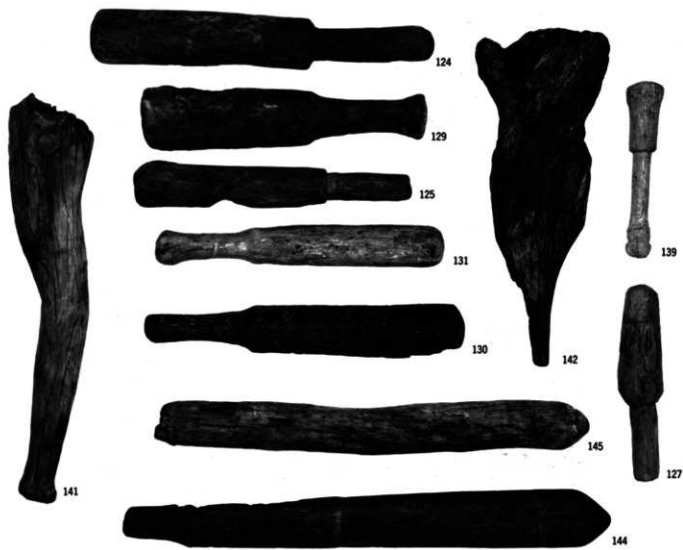


71

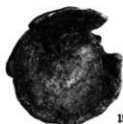
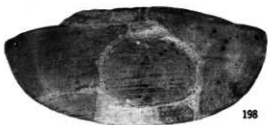
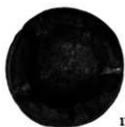


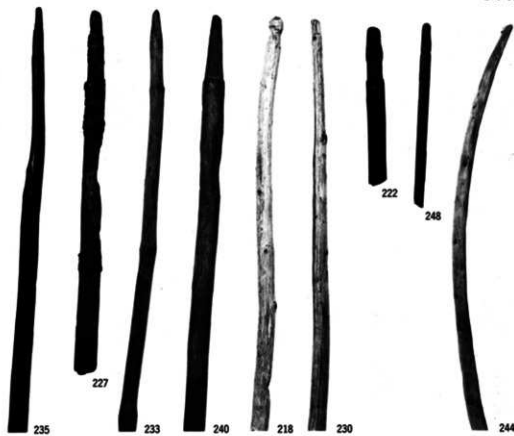
79













317



318



319



308



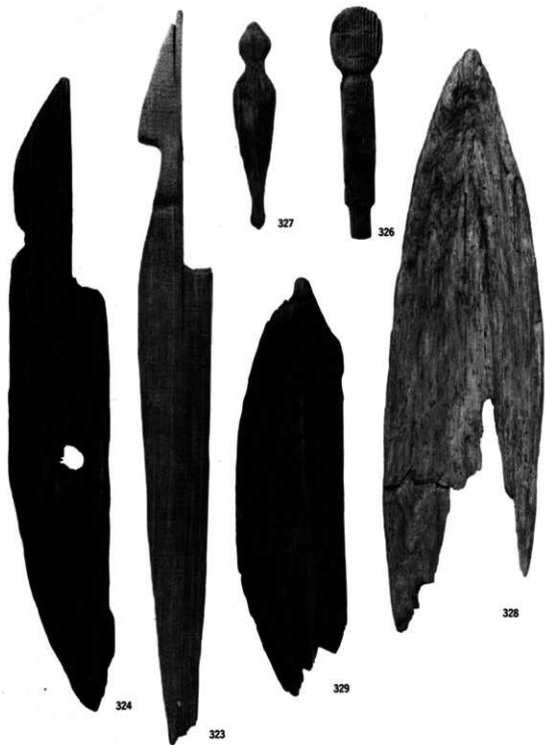
309

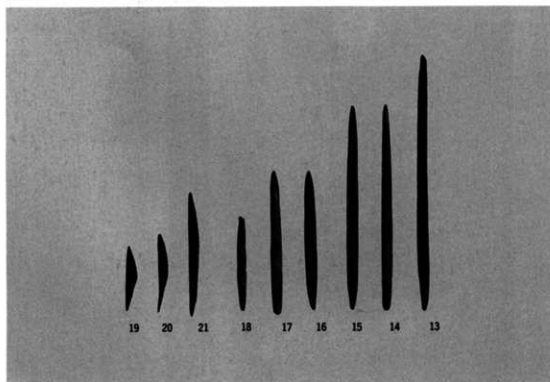
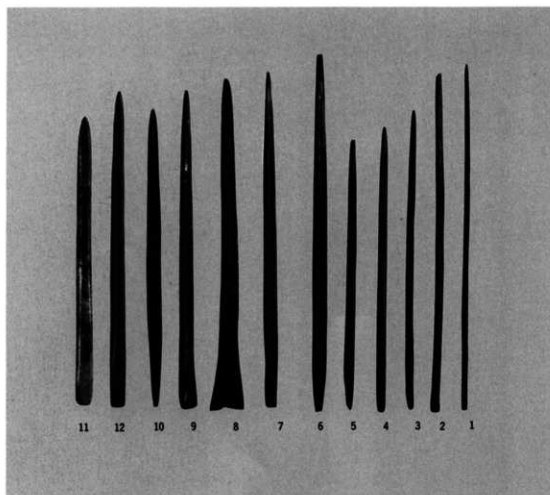


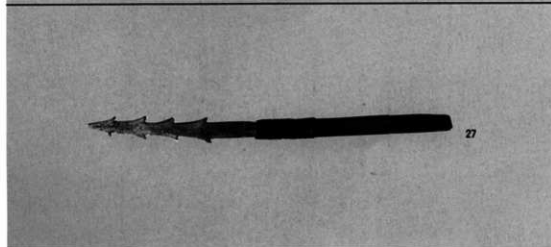
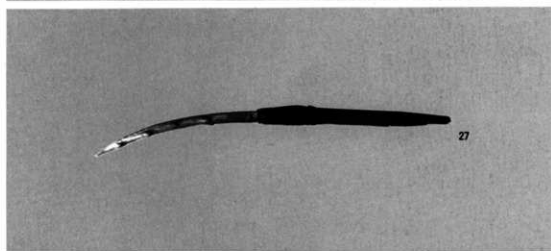
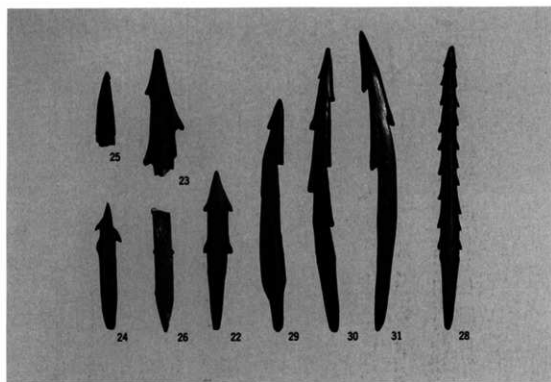
304

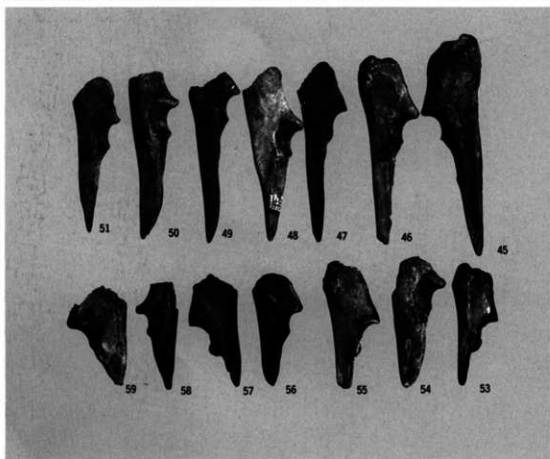
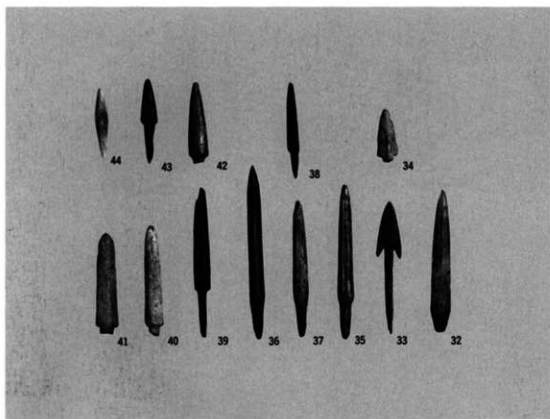


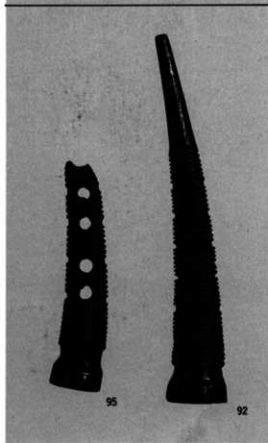
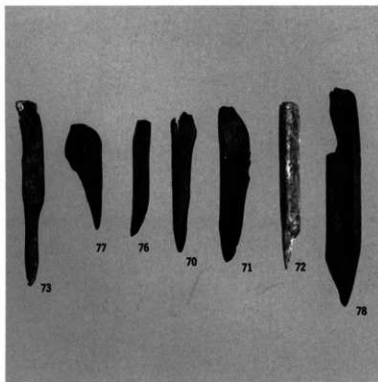
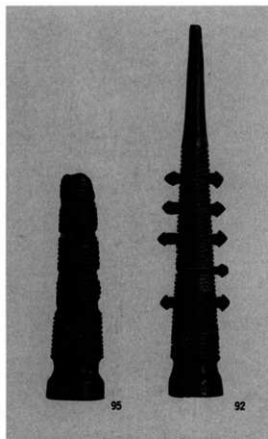
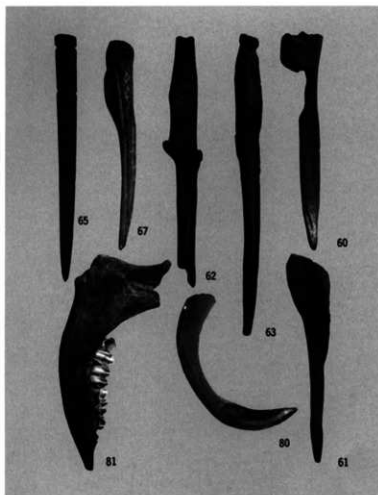
325



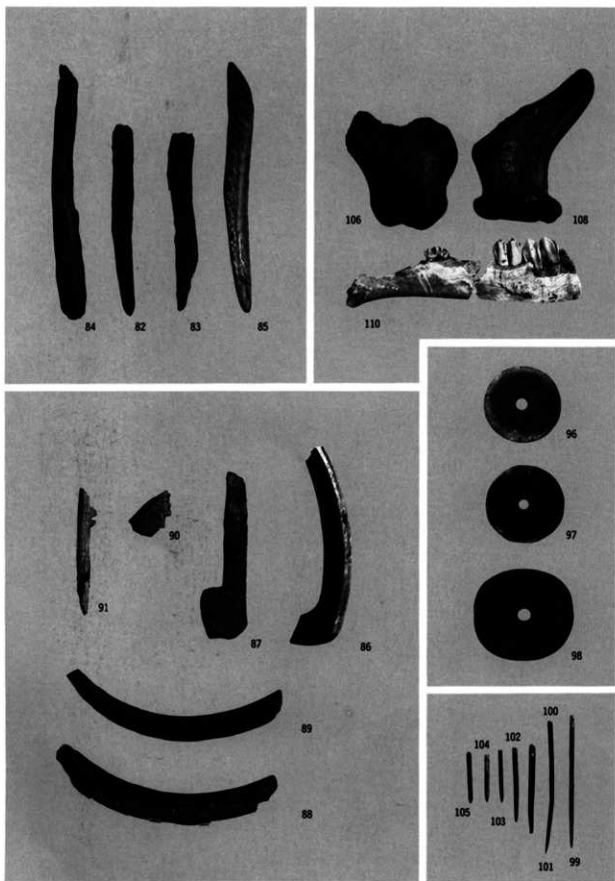


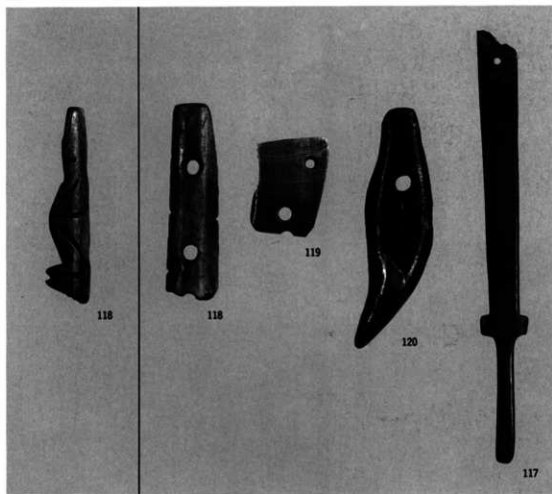
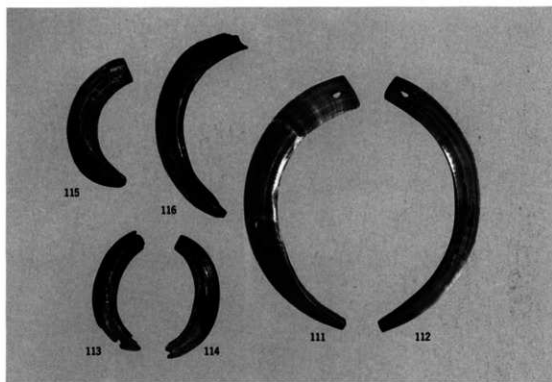


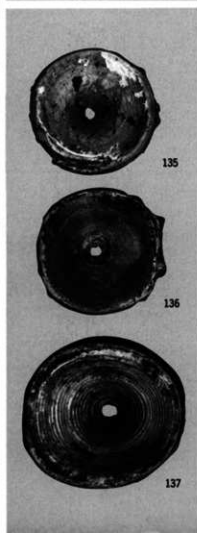
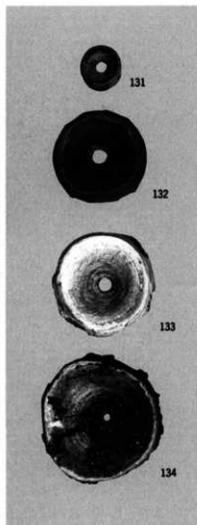
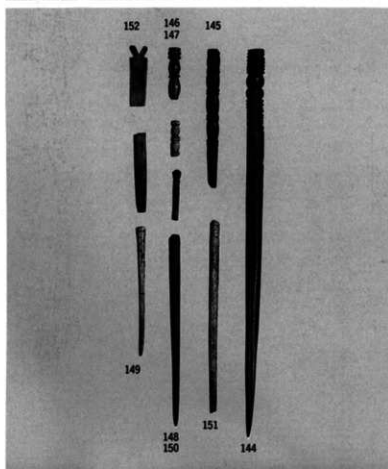
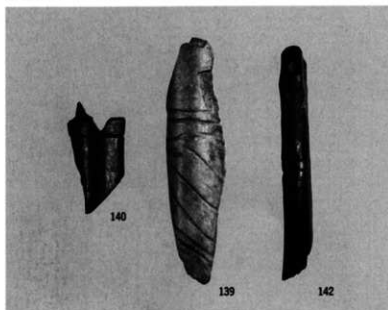
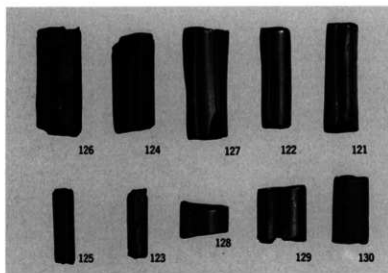


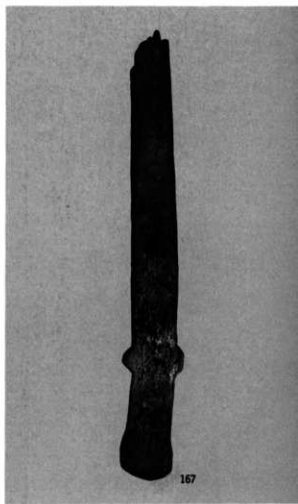
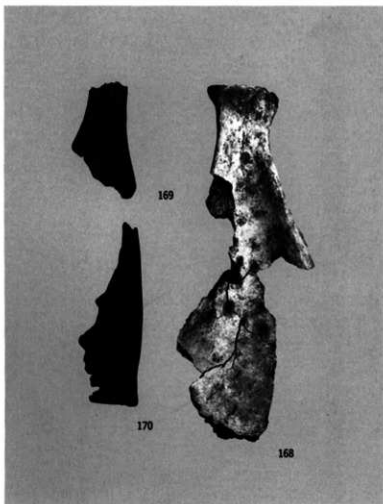
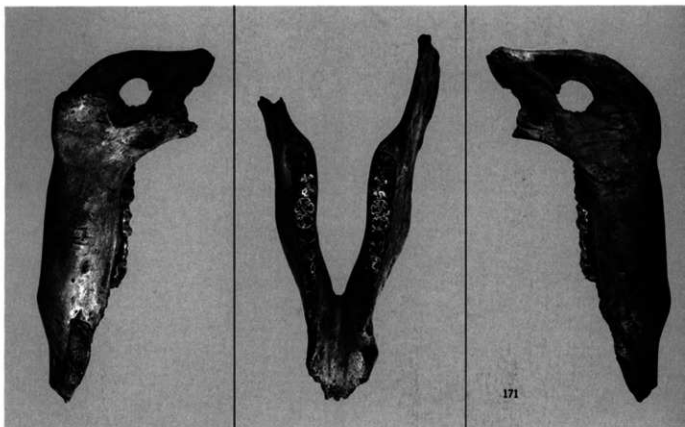


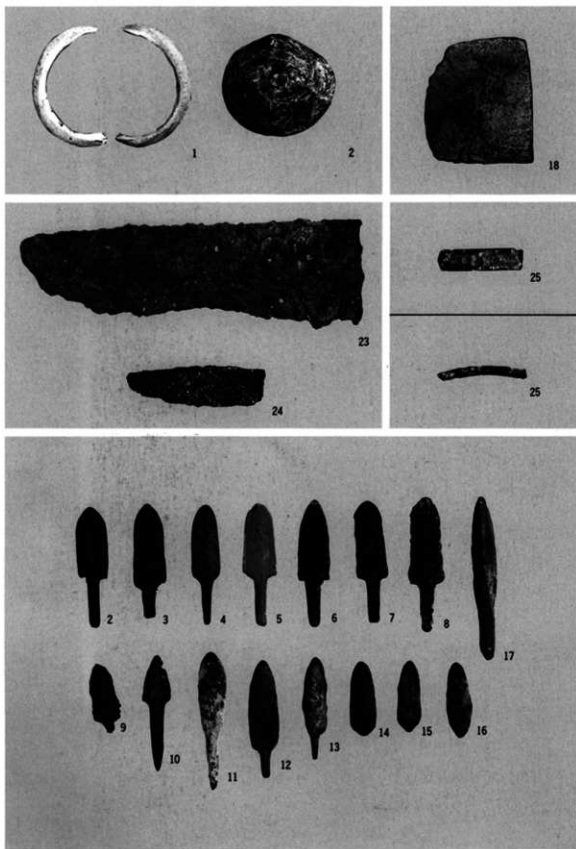






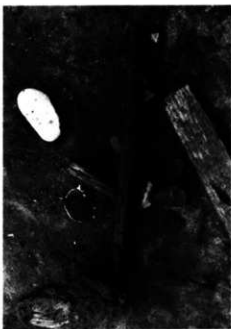








上：61 T SZ 301 北周磚出土—35・36—  
下：61 T SZ 303 西周磚出土—10・11—



上：61 A 谷 A 出土—24—  
下：61 A 谷 A 出土—24—



上：61 N SZ 208 西周磚出土—6—  
下：61 T SZ 301 北周磚出土—44・45・46—



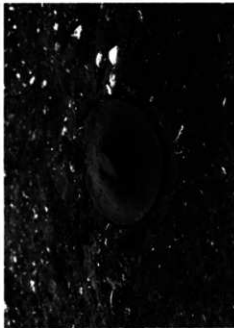
上: 60 E 谷 A 出土-321-  
下: 61 A 谷 A 出土-186-



上: 61 H 谷 A 出土-360-  
下: 61 H 谷 A 出土-323-



上: 63 D SD 01 出土-104-  
下: 63 D SD 05 出土-100-



上: 63 D SD 06 H±-143-  
下: 63 D SD 06 H±-169-



上: 61 A SX 02 H±-53-  
下: 61 A SX 02 H±-79-



上: 61 A SX 02 H±-74-  
下: 61 A SX 02 H±-2-





上: 61 E SD 20 出土-197-  
下: 61 H 各 A 出土-327-

上: 61 A SX 02 出土-111・112-  
下: 60 E 検出-27-

上: 61 H 検出-第 16 図 1  
下: 61 H 検出-7-

# 朝日遺跡の風景

— 木・骨角・金属 —



● 銅 鐸

▶  
A  
面







※A 500出土状態



※A 500  
※A 500

## ● 木製品の出土状態



※A 500  
※A 500

※A 500出土状態

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第32集

## 朝日遺跡Ⅲ

1992年3月31日

編集 財団法人  
発行 愛知県埋蔵文化財センター

印刷 株式会社 クイックス